ISSN　2186－5760

山陽女子短期大学紀要

第 39 号

2018

BULLETIN
OF
SANYO WOMEN´S COLLEGE

No.39 March, 2018

CONTENTS

Originals

Effect of Sucrose Concentration on Hardness of Strawberry and Blueberry Preserves
……*Takashi Okazaki, Nanaka Shigetsu, Yukina Komatsu, Yuina Nakanishi* …… *1*

The effects of nutrition education during foodservice management practicums on dietary awareness and eating behaviors of university faculty members, and the influences on student learning
……*Akane Matsumoto, Rumi Kimura, Sari Danzyou, Kazutaka Kita, Sumi Sugiyama* …… *7*

Trends in Dropout Students' UPI (University Personality Inventory) Scores at Entrance to Junior College
……*Koji Takada, Ayane Horiuchi* …… *19*

Homer, Joyce, Anaya: Transatlantic Imagination in "Chicano Ulysses"
……*Atsuko Mizuno* …… *31*

Notes

Effects of LPC and PC on the Pasting Properties of Mixed starches of Normal and Waxy wheat
……*Masataka Ishinaga, Takako Izum* …… *45*

Originals

Three Authors who Wrote Hatsukaichi : Ota Yoko, Kajiyama Toshiyuki, Nakai Masafumi
……*Hiroshi Marukawa* …… *一*

山陽女子短期大学紀要

第39号　2018年３月

目　次

原著論文

イチゴおよびブルーベリージャ ムの果実の硬さに及ぼすショ糖の影響
……岡崎　尚，重津　七香，小松　有貴奈，中西　唯奈 …… 1

給食経営管理実習における栄養教育が大学教職員の食意識・食行動と学生の学修へ及ぼす影響
……松本　茜，木村　留美，檀上　沙梨，北　和貴，杉山　寿美 …… 7

入学時のUPI（University Personality Inventory）から見た短期大学退学者の特徴について
……高田　晃治，堀内　綾音 …… 19

ホメロス、ジョイス、アナーヤ　――〈チカーノ・ユリシーズ〉に見る環大西洋的想像力
……水野　敦子 …… 31

ノート

普通小麦澱粉とモチ小麦澱粉の混合物のRVA粘度特性に対するPC及びLPCの影響
……石永　正隆，泉　貴子 …… 45

報　告

ルバーブを活用した低糖度ルバーブソースの開発と和洋菓子への適性
……岡崎　尚，小柗　有貴奈，重津　七香，中西　唯奈，
浅田　莉奈，則武　一生，深瀬農園 …… 55

学生の学習時間についての実態及び学修行動の把握
……恵野村　明美 …… 60

「広島県の取り組み」－院内がん登録の活用－　実務者の役割・医療機関の実例
…… 梅本　礼子 …… 68

山陽女子短期大学紀要投稿規程 …… 70

原著論文

廿日市ゆかりの文学者　――大田洋子・梶山季之・中井正文――
……丸川　浩 …… 一

山陽女子短期大学紀要

〈原著論文〉

イチゴおよびブルーベリージャムの果実の硬さに及ぼすショ糖の影響

岡崎　尚，重津　七香，小松　有貴奈，中西　唯奈
食物栄養学科

要　約

プリザーブスタイルのジャムは一定の形状の果実が残るように調製したジャムとされており，このタイプのジャムの生産が多くなっている。著者らは，イチゴおよびブルーベリーを用いて一定の加熱条件で果実の硬さと糖度（10 ～ 60％）の関係を調べた。その結果，10％から 40％までの糖度の上昇によってわずかに果実は硬くなったが，糖度が 40％以上になると著しく硬くなった。このとき，クエン酸を添加すると糖度 40％以上でより一層著しく硬くなった。これらのことから，果実の硬さは糖度 40％以上から酸と糖度の影響が強くはたらき，果実組織を硬くしていると考えられた。

緒　言

2016 年度の家庭用ジャムの生産量は 33,900 トン [1] あり，そのうち糖度が 40 ～ 55％の低糖ジャムが約 45％を占めている。ジャムの種類では，イチゴジャムが 33.7％，ブルーベリージャムが 23.5％と生産量が多く [1]，消費者はイチゴやブルーベリーを原料とした低糖度ジャムを購入していることがうかがえる。また，市販されているジャムの多くは果実の組織を残したプレザーブスタイルと表示されているものが多い。

一般にジャムは，ペクチン 0.5 ～ 1.5％，糖 50 ～ 70％，pH3 前後の 3 つの条件が揃ったときにゲル化することが知られている [2]。しかしながら，プレザーブスタイルのジャムでは果実の組織がそのまま残ったジャムであるため，液体部分と果実組織が混ざった状態のままゲル化している。また同タイプの市販ジャムは，糖度が 55％未満のものが多いこと [1] および低メトキシルペクチンが添加されていることから，上述したジャムのゲル化条件よりも低い糖度でジャムのゲル化が起こっていると考えられる [3]。このとき，果実組織に対する糖度および酸度の影響について著者らは関心を持った。おそらく果実に本来含まれているペクチンと組織を維持しているその他の多糖類がはたらいて果実の食感が形成されていると思われる。

そこで著者らは，イチゴおよびブルーベリーの果実をいろいろなショ糖濃度で加熱し，果実組織の軟弱化を硬さとして測定した。その結果，いくつかの知見を得たので報告する。

実験方法

1．市販ジャムの評価

市販されているジャムの糖度とジャムに含まれる果実の食感を調べるため，市販ジャム（A 社，B 社，C 社）のイチゴジャムとブルーベリージャムの果実の硬さを測定した。硬さの測定はクリープメータ（RE2-33005C，㈱山電）を用い，試料の破断応力を求めて硬さ（N）とした。速度 5㎜／s で 1.5㎜φの円柱状プランジャーを用いて歪率 80％まで応力を測定した。試料の破断がみられない場合は，最大応力を硬さとした。硬さは，異なる果実 5 個の平均値とした。

2．実験材料とその処理

市販の生鮮イチゴ（11.5g ± 1.4g）および冷凍ブルーベリー（2.3g ± 0.4g）を実験材料に用いた。実験用の生鮮材料には同一生産者から入荷したものだけを使って試験に供した。生鮮イチゴ又はブルーベリーに対して 10 ～ 60％の濃度になるようにスクロースと 0.3％のクエン酸を加えて耐熱性のパウチに密封し，30 分間沸騰水中で加熱した。冷蔵庫（10℃）で 2 日間保持し，試料を 25℃に戻した後，市販ジャムの硬さの測定と同じように果実の硬さを測定した。硬さは，異なる果実 5 個の平均値とした。

実験結果

1．市販ジャムの硬さ

比較的販売量の多い市販イチゴジャム 3 種の硬さおよび pH，糖度，水分活性の値を表 1 に示した。A 社 0.33N, B 社 0.49N, C 社 0.74N の硬さを示し，それぞれメーカーで硬さに違いがみられた。著者らでその食感を評価したところ，「A 社のものは全般に柔らかくほとんど硬さを感じない」，「C 社は歯ごたえを感じることができる」，「B 社については適度な柔らかさ」との評価であった。pH は 3.1 ～ 3.3，Brix は 41 ～ 43％，水分活性値は 0.86 ～ 0.87 の範囲にあった。

Table 1 Characteristics of commercially available strawberry preserves

	Hardness（N）	pH	Brix（%）	Water Activity
A	0.33 ± 0.30	3.15	42.2	0.867
B	0.49 ± 0.19	3.34	41.5	0.870
C	0.74 ± 0.25	3.33	43.5	0.863

A, B and C are different food companies, respectively.
N: newton（1N = 1.0 kg·m/s^2）

2．ショ糖濃度と硬さの関係

ショ糖の濃度を 10 ～ 60％の範囲にし，加熱後のイチゴの硬さの変化を測定した。結果を Fig. 1 に示した。ショ糖濃度が 40％まではイチゴは直線的にわずかに硬くなっていたが，40％を超えた

ところで直線の傾きが大きくなり急激に硬くなった。同じ実験をブルーベリーでも行ったところ（Fig. 3），0 ～ 40%の範囲で糖濃度の上昇とともに直線的にわずかにかたくなったが，40%を超えたところで直線の傾きが大きくなり急激に硬くなった。これらのことから，イチゴおよびブルーベリーの硬さと糖濃度の関係は 10%から 60%まで直線的に硬くなるのではなく，糖濃度 40%を境に果実が著しく硬くなっていることがわかった。

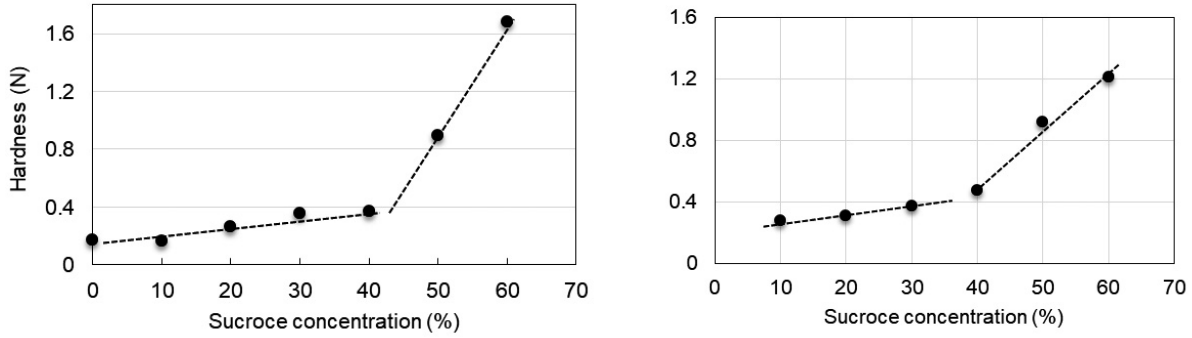

Fig. 1　Relationship between hardness of fruits and concentration of sucrose.
Right: blueberry, Left: strawberry. “N” is shown in Table 1.

３．ショ糖濃度と硬さの関係に及ぼすクエン酸の影響

ショ糖濃度 10 ～ 60%の範囲において，クエン酸（0.3%）の有無がブルーベリーの硬さに及ぼす影響を測定し，結果を Fig. 2 に示した。クエン酸を添加しない場合，10 ～ 60%のショ糖を添加した試料において，pH は 3.5 ～ 3.9 の範囲にあったが，クエン酸を添加した試料では pH は 3.2 ～ 2.6 の範囲にあった。クエン酸を添加していない場合，ショ糖濃度 40%から直線の傾きが大きくなった。一方，クエン酸を添加した場合，ショ糖濃度 40%以上で直線の傾きがクエン酸を添加しない場合より著しく大きくなり，ブルーベリーを硬くする効果が一層顕著に表れた。

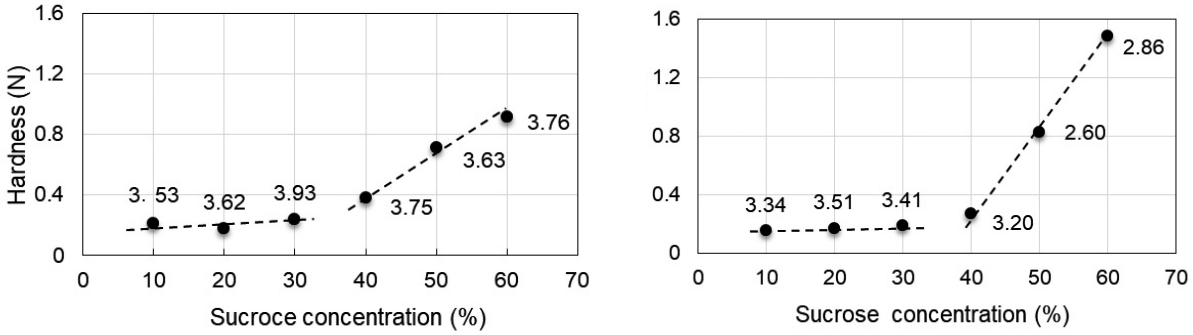

Fig. 2 Relationship between hardness of blueberry and concentration of sucrose in the absence (right) or presence (left) of citric acid. The numerical characters in figures show pHs. “N” is shown in Table 1.

考　察

ジャムの多くは果実を砂糖とともに加熱して比較的均一な状態まで煮詰め，糖度 50 ～ 70%，ペクチン 0.5 ～ 1.5%, pH3 前後の 3 つの条件が整ったときゲル化すると言われている[2)]。しかしながら，プレザーブスタイルのジャムは果実組織が残るように作られるため，果実部分と液体部分からなる不均一なジャムになっている。著者らは，プレザーブスタイルのジャムでは加熱による果実組織の崩壊と同時に糖と酸の浸透がその果実の食感に影響を与えていると考えた。このとき市販ジャムに加えられる低メトキシルペクチンは分子量が大きいため果実組織には直接影響していないと考えられる。

市販のプレザーブスタイルのジャムの硬さ，pH および糖度を調べたところ，A 社，B 社，C 社で，それぞれの 0.33N，0.49N，0.74N と硬さの違いがあり，著者らが食したとき明らかに硬さに違いが感じられた。pH はそれぞれ 3.1 ～ 3.3，糖度は 41.5 ～ 43.5 であり，pH と糖度が企業間で比較的近い値であることを考えると，硬さの違いは加熱条件や果実の熟度，品種などが影響していると考えられる。

そこで，果実の硬さに対する糖濃度の影響を比較するため，同一ロットの果実を使い，加熱条件を同じにしてショ糖濃度を 10 ～ 60%の範囲で果実の硬さを測定したところ，ショ糖 10 ～ 40%では硬さの上昇はわずかであったが，40%を超えたところから著しく硬くなっていた（Fig.1）。同じ条件で pH を低くした場合の影響を調べたところ，クエン酸を 0.3%添加することで，ショ糖 40%からより一層著しく硬くなることがわかった（Fig.2）。したがって，ショ糖 40%付近を境界にして果実組織の中で新しい作用が影響したため，硬さが顕著に高くなった。このとき果実の pH が低くなると，一層その作用が強く表れて硬くなったものと考えた。川端[3)] は，ペクチンのゲル化機構を次のように説明している。高メトキシル（以下 HM と略す）ペクチン－酸－糖－水系ゲルは，非共有結合ゲル（水素結合ゲル）からなり，酸はカルボキシル基の解離を抑え，糖は保水的な役割でゲル化を安定にしていると述べている。また，果実に含まれるペクチンは HM ペクチンが多いことが示されていることから[4)]，この考えを果実組織が硬くなる現象に当てはめると，組織に存在する HM ペクチンにあるカルボキシル基は，低い pH の影響で解離が抑制され，水素結合が形成されやすい。また pH2 ～ 5 では加熱中に脱エステル化がおこりにくい[5)] ことから，クエン酸を加えて果実を加熱した場合には水素結合が形成されることに加え，糖濃度 40%から糖による保水的な影響が強く現れて HM ペクチンはより組織を強固にしていると考察した。

本報告では，イチゴとブルーベリーを用いて果実の硬さに対するショ糖とクエン酸の影響を考察した。市販ジャムは低糖化が進み 55%未満と低い糖度で製造されているが[1)]，この低い糖度であっても糖とクエン酸が果実の硬さ影響してより硬くなっていると予想された。今回の報告では果実の食感を硬さだけで評価しているが，今後弾力や付着性などを同時に測定することで果実の食感に対

する影響が明らかにしていきたい。

文　献

１）日本ジャム工業組合（http://www.jca-can.or.jp/~njkk/），2018.2.20
２）川端晶子，多糖類の物性に関する基礎的･応用的研究，日本調理科学会誌，32，194-208（1999）.
３）川端晶子，ペクチン，日本調理学会誌，5，71-79（1982）.
４）川端晶子，ペクチンに関する調理科学的研究，家政学雑誌，36，561-576（1985）.
５）澤山茂，川端晶，ペクチン質の理化学的性質に及ぼす pH，加熱および添加塩の影響，日本栄養･食糧学会誌，42，461-465（1989）.

Effect of Sucrose Concentration on Hardness of Strawberry and Blueberry Preserves

Takashi Okazaki, Nanaka Shigetsu, Yukina Komatsu, Yuina Nakanishi

Department of Food and Nutrition, Sanyo Women's College

Summary

The Japanese Agricultural Standard defines preserves-jams as cooked and gelled whole fruit that includes a significant portion of the fruit. We investigated the effect of sucrose concentration on the hardness of preserves-jams made from strawberries and blueberries. Fruits were cooked with sucrose concentrations ranging from 10 to 60% in the absence or presence of 0.3% citric acid. The hardness of the cooked fruits increased marginally with 10 to 40% sucrose but markedly with sucrose concentrations >40%. When 0.3% citric acid was present in the preserves, the hardness increased only marginally with ≤ 40% sucrose but more markedly with >40% sucrose, compared with the absence of citric acid. These results suggest that both of >40% sucrose and 0.3% citric acid act to harden the texture of fruits.

〈原著論文〉

給食経営管理実習における栄養教育が大学教職員の食意識・食行動と学生の学修へ及ぼす影響

松本　茜[1,3]，　木村　留美[2]　檀上　沙梨[3]　北　和貴[3]，杉山　寿美[3]

1）山陽女子短期大学食物栄養学科，2）広島国際大学医療栄養学科，

3）県立広島大学大学院総合学術研究科

要　約

管理栄養士養成における給食経営管理実習の教育目標には，給食が「対象者が望ましい食行動を身につけるための栄養教育としての食事提供」であることを学生に理解させることが含まれる。K大学では，大学教職員を対象とした給食経営管理実習を行っており，提供する食事を活用した栄養教育を実施させている。本研究では，K大学の事例から，給食経営管理実習における栄養教育が，対象者の食意識･食行動の変化と学生の学修に及ぼす影響を検討した。その結果，本実習によって「一汁三菜を意識するようになった」「一汁三菜を取り入れる努力をするようになった」と回答した大学教職員は100.0%，33.3%であり，本実習が食意識･食行動の変化を促していることが確認された。また，大学教職員は，学生のおこなう栄養教育が，実習回数を重ねるごとに改善されていると評価していた。一方，学生は，栄養教育の実施と大学教職員の食意識・食行動の変化から達成感を感じるとともに，栄養教育内容の科学的根拠の確認や学生間連携が重要であることを学んでいた。これらのことから，「栄養教育としての食事提供」を基盤とした給食経営管理実習は，学生の学修に効果的であると考えられた。

緒　言

平成14年の栄養士法改正により，管理栄養士養成カリキュラムにおける給食経営管理論の教育目標は「給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面，安全面，経済面全般のマネジメントを行う能力を養う」こととされ，栄養士養成カリキュラムにおける教育目標「給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する」とは区別された[1)]。さらに，平成27年に示された管理栄養士養成モデルコアカリキュラムにおいても「給食施設における特定多数の人々の栄養管理を，効率的かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて，経営管理の理論に基づき習得する」とされ[2)]，栄養管理を実施する手段として給食をマネジメントする力を修得するとされている。そして，栄養管理には，対象者の栄養

評価に基づいた食事提供と食事提供を介した栄養教育が必須となる。

K大学の給食経営管理実習では，大学教職員を対象とした5回（5週間）の食事提供を学生が設定した栄養教育目標に沿って行っている[3)]。実習班内で学生は8つの係（品質保証，アセスメント，栄養教育，献立，機器・情報，衛生，会計，生産）を担当し，栄養教育目標は，栄養教育担当学生が中心となり，国民栄養・健康調査や，厚生労働省および農林水産省等の調査結果を踏まえ[4-6)]，我が国の食文化･食生活を考慮し[7,8)]，さらに，対象者への食生活調査も行い総合的に設定している。5回の食事提供後においては，栄養教育目標に対する対象者の食意識，食行動の変化を把握することが給食をマネジメントする必要性の意義を学生に理解させる有益な機会であることから，その変化を把握させ，実習の総括を行わせている。

本研究では，給食経営管理実習における栄養教育に関する報告が認められないことから，K大学の大学教職員を対象とした給食経営管理実習における栄養教育による対象者の食意識・食行動の変化と，その変化に基づく学生の学修状況を報告する。

方　法

1．給食経営管理実習における栄養教育の実施

2013～2016年度の給食経営管理実習において学生が決定した栄養教育目標を表1に示した。栄養教育目標は，連続5回全体を通した大目標と，大目標達成のための中目標，食事提供回ごとの小目標から構成されている。実習における食事提供時には，対象者への給食便り，レシピの配布とともに，各回の実習担当班が食事中の対象者へ食卓ごとに声かけを行っている。給食便りと声かけの様子を図1に示した。給食便りには，栄養教育の小目標とその小目標の説明を食事の写真，献立内容，エネルギーおよび栄養素の量等とともに示している。

2．給食経営管理実習時における栄養教育の評価

給食経営管理実習では，栄養教育を含む食事提供に対する対象者の評価を把握するために，食事提供回ごとのアンケートと，5回の食事提供の概ね2週間後に実習後アンケートを実施している。いずれのアンケートも学生が作成するために，年度によって質問内容は異なるものの，食事提供回ごとのアンケートは①喫食献立・喫食場所，②料理の評価，③食事サービス・栄養教育の評価で構成され，実習後アンケートは①喫食回数･喫食場所，②給食の満足度，③食意識･食行動の変化（栄養教育効果の把握）で構成されている。また，実習後アンケートにおける喫食回数の質問は，大学教職員は業務の都合により必ずしも5回の喫食ができないためであり，表2に学生を除く給食喫食者（大学教職員）の属性と喫食回数が3回以上の人数を示した。なお，実習後アンケートにおける食事満足度は，「満足」「少し満足」とした者が89.3～94.2%であり，提供した食事が対象者に受け入れられ，栄養教育媒体として活用可能であることが確認された（表3）。

3. 学生の学修効果と喫食対象者の食意識・食行動の変化

学生の学修効果および対象者の食意識・食行動の変化を，食事提供回ごとのアンケート，実習後アンケート，さらに学生の感想から検討した。集計・解析は Excel 2013 と IBM SPSS Statistics 25 を用い，χ^2 検定で行った。

結　果

1．食事提供回ごとのアンケートからみた栄養教育の評価（2015 年）

図 2 に，2015 年度の食事提供回ごとのアンケートにおける栄養教育の評価を示した。「管理栄養士の話はわかりやすかった」「おたよりはわかりやすかった」「配布レシピの料理を作ってみたい」のいずれも，多くの対象者が「あてはまる」と回答をし，「管理栄養士の話はわかりやすかった」「おたよりはわかりやすかった」では，必ずしも有意ではないものの 3 回目以降で肯定的回答が多く，実習を重ねることで，学生の栄養教育に関する取り組みが改善されていることが示された。なお，他の年度も同様に実習を重ねるほど改善されていた（結果は示していない）。

2．実習後アンケートからみた対象者の食意識・食行動の変化（2013，2014 年度）

表 4 に，2013，2014 年度の実習後アンケートにおける食意識・行動の変化に関する項目の結果を示した。栄養教育目標（大目標）は，表 1 に示したとおり，2013 年度は「食の視野を広げる」，2014 年度は「食の幅を広げ，野菜を食べる量を増やそう」であり，意識の変化を促すことで行動の変化に結び付けようとする目標となっていた。2013 年度のアンケートの結果では，「野菜の香りや食感からコクを実感するようになった」「野菜やだしなど食材の美味しさを実感するようになった」など，関心期への移行に関する項目については，「なった」「少しなった」と回答した者が 87.2 ～ 97.9% であった。一方で，「味付きご飯には薄味のおかずをつけるようになった」「いろいろな種類の野菜を食べるようになった」など，実行期への移行に関する項目に「なった」「少しなった」と回答した者は 68.7 ～ 81.4% と関心期への移行に関する項目よりも少なかった。2014 年度のアンケートの結果でも，2013 年の結果と同様，関心期への移行に関する項目について「はい」と回答した者が多い一方，「野菜の購入量が増えた」，「味付けを薄くした」など，実行期への移行に関する項目に「はい」と回答をした者は 25.0 ～ 28.6% であり，多いとはいえなかった。

3．実習後アンケートからみた対象者の食意識・食行動の変化（2015，2016 年度）

表 5 に，2015，2016 年度の実習後アンケートにおける食意識・行動の変化に関する項目の結果を示した。栄養教育目標（大目標）は，2015 年度は「一汁三菜で，楽しく美味しく食事しよう」，2016 年度は「組み合わせを知り，おいしさの幅を広げよう」であり，2013，2014 年度よりも，より行動変化を促す目標となっていた（表 1）。2015 年度は，「給食実習後に，食意識・食行動が変化した」と回答した者は 92.8% であり，一汁三菜に対する関心は高くなった一方で，「一汁三菜を

取り入れる努力をするようになった」33.3%,「実際に，常備菜を作った」17.6% であり，具体的な実行に関する項目に「はい」とした者は 2014 年度と同程度であった。2016 年度は，関心期への移行に関する質問項目がなく，実行期への移行に関する質問項目のみであった。「給食実習での栄養教育内容は，家庭で役立っている」と回答した者は 72.4% であり，役立っていると回答した者の具体的内容は,「外食の際には，なるべく野菜が多い料理を選ぶ」34.9%,「１食の塩分量が多くなったら，他の時間や別日の食事は薄味にする」23.3% などであり，多くの項目に分散していた。すなわち，対象者によって栄養教育内容を日常生活に反映する具体的内容が異なることが確認された。また，配布レシピの料理を作った者は，2015 年度は 8.7%，2016 年度は 8.3% であり，レシピ配布は対象者に要望されるものの，その効果は必ずしも高いとは言えない。なお，2016 年度は，実習前後に，野菜の１日摂取量について質問をしており，実習後には「両手２杯以上」「両手１杯程度」と回答した者が増加,「ほとんど食べない」と回答した者の割合が減少していた（表 6)。

４．栄養教育における学生の学修効果

給食経営管理実習後の栄養教育担当学生の感想（抜粋）を表７に示した。対象者への栄養教育の実施は，栄養教育担当学生の指示に基づいて各回の実習担当班が行っているため，栄養教育担当学生は，栄養教育目標の設定，対象者への栄養教育のみでなく，学生間での栄養教育内容の学修機会を設け，理解度の統一を図っている。表７に示したとおり，教育目標，教育内容を検討し，学生間で共有，対象者へ伝達するなかで，科学的根拠や学生間連携が重要であることを理解し，アンケート結果や対象者の反応から達成感を感じていることが確認された。

考　察

本研究では，K 大学の大学教職員を対象とした給食経営管理実習における栄養教育による対象者の食意識・食行動の変化と，その変化に基づく学生の学修状況を検討した。

その結果，食事提供回ごとのアンケートにおける栄養教育の評価から，実習を重ねることで，学生の栄養教育に関する取り組みが改善されていることが示され，また，学生の実習後の感想から，学生は本実習において栄養教育に取り組む中で，科学的根拠や学生間連携が重要であることを理解し，アンケート結果や対象者の反応から達成感を感じていることが確認された。実習後アンケートの対象者の食意識・食行動の変化に関する項目からは，本実習における栄養教育によって，対象者の食への関心を高めることができる一方，行動変容の程度は低いことが確認された。例えば，2015 年度は,「給食実習後に，食意識・食行動が変化した」と回答した者は 92.8% であった一方,「一汁三菜を取り入れる努力をするようになった」と回答した者は 33.3% であった。しかし，対象者が意識する野菜の１日摂取量は，実習後に有意に増加しており，部分的ではあるものの食行動変容を促していることも確認された。

これまでの研究において，食習慣パターンの安定・固定化は小学生の早い時期に生じること，学童期の食環境がその後の食嗜好に影響を及ぼすこと，幼少期の行動がメタボリックシンドローム発症と関連する食行動に結びつくことなどが報告されている[9-11]。一方で，従業員食堂における長期間の栄養指導により，「主食・主菜・副菜の揃った食事」の選択割合が高まることが報告されており[12]，成人期における行動変容の困難さと変容の可能性が示されている。

本研究においては，大学教職員の食への関心を高めることができた一方，行動変容の程度は低いことが確認された。学生が設定した栄養教育目標は，国民健康栄養調査報告や関係領域の論文等，信頼性の高い資料に基づいて設定されたものであり，いずれの年度においても「野菜の摂取量増加」「摂取食塩量の減少」とされていたが，履修学生が主体となって行う給食経営管理実習の中での栄養教育であるために，年度間の連続性は考慮しておらず，2013 年度から 2016 年度のいずれも行動変容の程度が低かったと推察された。加えて，対象者である大学職員は，公務として K 大学へ数年間の出向である者も多く含まれ，そのため，各年度の対象者が異なり，実際は 5 週間（週 1 回）という短期間の介入となっていることも行動変容の程度が低かった要因であると考えられた。

本実習における学生の学修については，表 7 に示した通り，学生は「目標設定の際など，係の中で何度も話し合いを重ね，理解度の差を埋めること」「献立係などと連携して，給食内容と栄養教育に一貫性をもたせるように考えること」を苦労したとしており，後輩へのアドバイスとして「栄養教育は給食実習の方向性を示す大切な役割である」としていた。本実習は，対象者への声掛けを通して栄養教育を行う管理栄養士班が 5 回の実習において毎回異なるという条件で行っているため，対象者への栄養教育に連続性をもたせ，さらに対象者の反応等で明らかとなった課題に対する改善を行うには，学生間連携（班間，班内）は必要不可欠となる。にもかかわらず，実習を重ねることで，学生の栄養教育に関する取り組みが改善されていると評価されていたことは，学生が苦労したと感じたことが，対象者の反応を通して，達成感となり，後輩へのアドバイスへ繋がったと推察される。

本研究は，対象者への栄養教育やアンケート項目の設定は学生が行っていること，大学教職員の食意識・食行動の変化が学生との信頼関係に影響された可能性があることであり，結果を一般化するには限界がある。今後は，給食が「対象者が望ましい食行動を身につけるための栄養教育としての食事提供」であることを学生に理解させるために，対象者への継続的な調査や，学生の学修成果を確認する調査を実施し，給食経営管理実習の教育に関わる根拠データを蓄積する必要があると考えられる。

文　献

1）加藤友昭（2011）序にかえて 1. 管理栄養士等カリキュラム改正とガイドライン策定の経緯「管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）」社団法人全国栄養士養成施設協会，社団法人日本

栄養士会，第一出版
2）特定非営利活動法人日本栄養改善学会「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム 2015」の提案，V. 実践専門科目 6. 給食と経営管理を理解する
http://jstd.jp/img/model_core_2015.pdf（最終閲覧日 2018 年 3 月 11 日）
3）杉山寿美，水尾和雅，野村知未，原田良子，森脇弘子（2011）大学教職員を対象とした栄養アセスメントに基づく給食経営管理実習の試み，日本栄養士会雑誌，54，638-651
4）栄養・健康データハンドブック 2013/2014 （2013）第 8 章国民栄養・食生活 藤澤良和，同文書院 pp.169-201
5）厚生労働省 国民健康・栄養調査 結果の概要／報告書／統計表
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html（最終閲覧日 2018 年 3 月 11 日）
6）農林水産省 食糧需給表 http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/（最終閲覧日 2018年3月11日）
7）厚生労働省 日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方に関する検討会報告書 平成 26 年 10 月
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000070498.pdf（最終閲覧日 2018 年 3 月 11 日）
8）総務省 家計調査(家計収支編)時系列データ 1.品目分類:支出金額･名目増減率･実質増減率(月･年)
http://www.stat.go.jp/data/kakei/longtime/index.htm#time2（最終閲覧日 2018 年 3 月 11 日）
9）湯本邦子，猫田泰敏，長塚正晃，河合清文，斎藤裕，矢内原巧（1994）児童の食習慣パターンの形成に関する研究，昭和医学会雑誌，54，128-141
10）石川詔子，五十嵐益恵，浜野美代子（2002）学童期の食環境がその後の食嗜好に及ぼす影響，日本健康医学会雑誌，11，8-12
11）宗像正徳，本間浩樹，荒木高明，明石實次，河村孝彦，久保田昌詞，横川朋子，沼田義弘，豊永敏弘（2009）メタボリックシンドロームにおける幼少時の行動学的特徴と現在の食行動との関係，糖尿病，52，93-101
12）三澤朱美，山本妙子，由田克士（2015）従業員食堂における食事バランスガイド認知度別食態度の検討，日本栄養士会雑誌，58，813-822

The effects of nutrition education during foodservice management practicums on dietary awareness and eating behaviors of university faculty members, and the influences on student learning

Akane Matsumoto[1,3)] , Rumi Kimura[2)] ,Sari Danzyou[3)] ,Kazutaka Kita[3)] ,Sumi Sugiyama[3)]

1）Department of Food Nutrition, Sanyo Women's College
2）Department of Clinical Nutrition, Hiroshima International University
3）Graduate school of Comprehensive Scientific Research, Prefectural University of Hiroshima

Summary

One of the educational goals of foodservice management practicums for training Registered Dietitians is to teach students that foodservices "offer meals to provide nutrition education for target individuals so that they may acquire desirable eating behaviors". Foodservice management practicums at K University target university faculty members, and nutrition education is provided through the served meals. The objective of this study was to determine how nutrition education in foodservice management practicums change dietary awareness and eating behavior among the subjects and to determine the effect on student learning using case studies from K University.

The results showed that 100.0% of university faculty members said that they "became more conscious of the 'one soup and three side dishes' concept" and 33.3% have "started to make an effort in incorporating one soup and three side dishes in their meals". These results demonstrated that the practicums are driving change in dietary awareness and eating behaviors. University faculty members recognized that nutrition education provided by the students improved with each practicum session. On the other hand, students felt a sense of accomplishment through the implementation of the nutrition education programs and the observed changes in the dietary awareness and eating behavior of university faculty members. The students also learned to verify scientific evidence of the content of nutrition education programs and the importance of collaboration among students. These findings indicated that foodservice management practicums based on "meal provision as part of nutrition education" are effective in student learning.

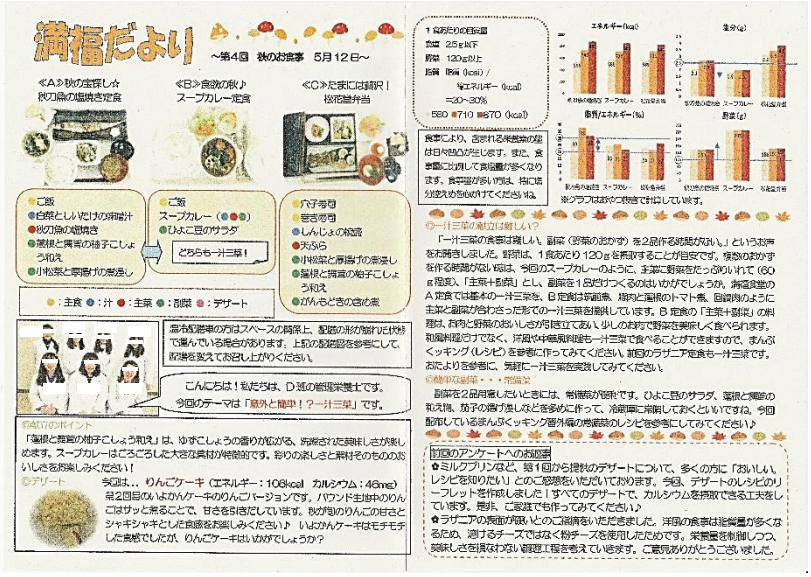

図 1. 給食便りと管理栄養士班による声かけの様子

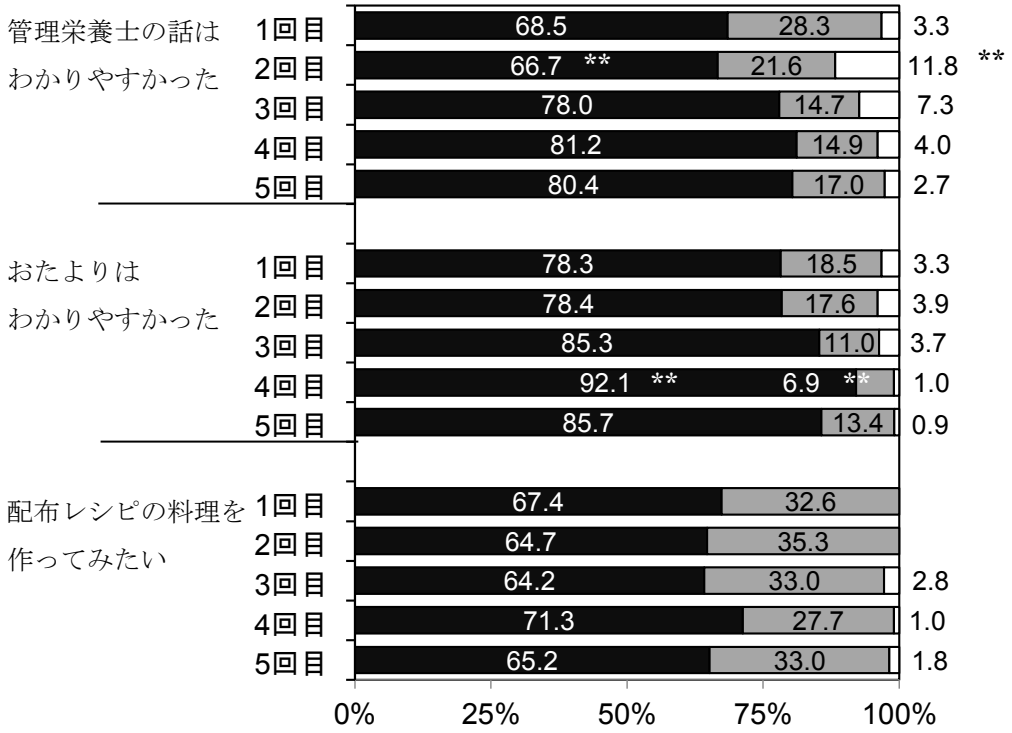

図 2. 食事提供回ごとの栄養教育に対する評価（2015 年度）

■あてはまる　■どちらでもない・あてはまらない　□未回答，** $p < 0.05$（ x^2 検定・残差分析）

1 回目(n=92)，2 回目(n=102)，3 回目(n=109)，4 回目(n=101)，5 回目(n=112)

表 1. 栄養教育目標

	2013 年度	2014 年度
大目標	食の視野を広げる	食の幅を広げ，野菜を食べる量を増やそう
中目標	①食品本来の味を知る ②日本の食文化に触れて継承していく ・野菜を食べる ・天然だしの美味しさに気付く	①和食を通して四季を感じよう ②他国の料理を通じて野菜を食べよう ・季節の野菜や魚を取り入れよう ・ご飯をおいしく食べよう ・だしを生かした調理法を知ろう
小目標	1 回 ご飯とおかずの組み合わせの理解を深めよう 2 回 旬の野菜を楽しもう 3 回 味覚の幅を広げよう① 4 回 味覚の幅を広げよう② 5 回 日本の食文化に触れよう	1 回 だしと口中調味 2 回 旬の野菜 3 回 コクの秘密① 4 回 コクの秘密② 5 回 食文化を通して習慣的な摂取量を考えよう
	2015 年度	**2016 年度**
大目標	一汁三菜で，楽しく美味しく食事しよう	組み合わせを知り，おいしさの幅を広げよう
中目標	①魚をおいしく食べよう ②肉のうまみで野菜をおいしく食べよう ③おかずの組み合わせを工夫して食べよう	①ごはんを最後までおいしく食べよう ②副菜を知ろう ③外食や中食と上手に付き合おう
小目標	1 回 知ってほしいな♪ 一汁三菜 2 回 いつの間にか栄養満点☆ 一汁三菜 3 回 盛り付けよう！ 一汁三菜 4 回 意外と簡単！？ 一汁三菜 5 回 世界も注目！ 一汁三菜	1 回 まずは一汁二菜でバランスをとろう 2 回 香りで食を豊かに 3 回 和洋折衷でおいしさの幅を広げよう 4 回 工夫して野菜をとろう 5 回 みんなで食べよう！ハレのお食事

＊ 実習はいずれの年度も 5 回であり，小目標に沿って各回の栄養教育を実施。

表 2. 給食経営管理実習の喫食者（アセスメント回答者）の属性と 3 回以上喫食人数　（人）

	男性			女性			3 回以上喫食人数
	10～20 代	30～40 代	50～60 代	10～20 代	30～40 代	50～60 代	
2013 年度（n=89）	4	14	27	20	18	6	50
2014 年度（n=95）	4	16	31	12	28	4	56
2015 年度（n=107）	6	18	32	12	36	3	69
2016 年度（n=105）	7	17	29	12	37	3	62

＊ アセスメントは記名式，実習後アンケートは無記名式。

表 3. 対象者の食事に対する満足度（2013～2015 年度）　（%）

	満足	少し満足	普通	少し不満	不満
2013 年度（n=50）	58.0	34.0	2.0	6.0	0.0
2014 年度（n=56）	53.6	35.7	10.7	0.0	0.0
2015 年度（n=69）	63.8	30.4	2.9	2.9	0.0

＊ 2016 年度は，実習後アンケートに食事に対する満足度の質問なし。

表 4. 実習後アンケート結果（2013, 2014 年度） （%）

2013 年度		(n)	なった	少しなった	ならなかった
関心期へ	今回の給食は日常の食生活を見直すきっかけになった	49	53.1	42.9	4.1
	野菜の香りや食感からコクを実感するようになった	49	46.9	51.0	2.0
	野菜やだしなど食材の美味しさを実感するようになった	46	54.3	41.3	4.3
	薄味を意識するようになった	45	42.2	48.9	8.9
	野菜の苦味が美味しさを増すことを実感するようになった	47	40.4	46.8	12.8
実行期へ	味付きご飯には薄味のおかずをつけるようになった	43	39.5	41.9	18.6
	いろいろな種類の野菜を食べるようになった	47	38.3	36.2	25.5
	家庭でも魚料理を作るようになった	50	34.0	40.0	26.0
	香りや苦味をうまく活用して料理をするようになった	48	20.8	47.9	31.3
	天然だしを活用するようになった	36	27.8	41.7	30.6
2014 年度		**(n)**	**はい**	**いいえ**	
関心期へ	だしの美味しさがわかった	49	95.9	4.1	
	野菜の香りや食感が美味しさを増すことを実感した	48	95.8	4.2	
	野菜の苦味，辛味，渋味が美味しさを増すことを実感した	51	92.2	7.8	
	日本の食文化への関心は高まった	53	83.0	17.0	
	旬の野菜を食べるよう心がけるようになった	53	81.1	18.9	
	野菜を使った簡単な料理を作ろうと思った	53	77.4	22.6	
	野菜 350gの量がイメージできるようになった	53	66.0	34.0	
	1 日の野菜摂取量がどれくらいか考えるようになった	56	37.5	62.5	
実行期へ	野菜の購入量が増えた	56	28.6	71.4	
	外食の際に野菜を使ったメニューを選ぶようになった	56	28.6	71.4	
	味付けを薄くするようになった	56	25.0	75.0	

2013 年度：喫食者数 89 名，実習後アンケート回答数 69 名（うち 3 回以上喫食者 50 名）
2014 年度：喫食者数 95 名，実習後アンケート回答数 70 名（うち 3 回以上喫食者 56 名）

表 5. 実習後アンケート結果（2015，2016 年度） （%）

2015 年度		(n)	はい	いいえ
給食実習後，食意識・食行動が変化した		69	92.8	7.2
関心期へ	一汁三菜の食事は，自然と栄養バランスが整うことが理解できた	65	100.0	0.0
	一汁三菜を考えるきっかけになった	64	100.0	0.0
	一汁三菜の食事は，満足感が得られることを実感した	68	97.1	2.9
	洋食や中華風料理でも，一汁三菜で食べることができると実感した	65	95.4	4.6
	一汁三菜の食事は，食べる量が一目で把握できることを実感した	68	86.8	13.2
	一汁三菜のよさがわかった	69	58.0	42.0
実行期へ	一汁三菜を取り入れる努力をするようになった	69	33.3	66.7
	普段，一汁三菜での食事で食事をする頻度が増えた	69	10.1	89.9
	実際に，常備菜を作った	68	17.6	82.4
	実際に，配布レシピの料理を作った	69	8.7	91.3
2016 年度		**(n)**	**はい**	**いいえ**
給食実習での栄養教育内容は，家庭で役立っている		58	72.4	27.6
実行期へ	外食の際には，なるべく野菜が多い料理を選ぶ	43	34.9	65.1
	食材の香りや香辛料を利用する	43	34.9	65.1
	1食の塩分量が多くなったら，他の時間や別日の食事は薄味にする	43	23.3	76.7
	野菜を加熱したり塩もみしたりして野菜をたくさん摂る	43	20.9	79.1
	副菜の量を多くしたり，汁を具だくさんにする	43	20.9	79.1
	料理のレパートリーが増えた	43	20.9	79.1
	1食のバランスが乱れたら，他の時間や別日の食事で補う	43	16.3	83.7
	少量のお肉で，野菜を美味しくたくさん摂る	43	16.3	83.7
	1 日に 350gの野菜を摂取する	43	14.0	86.0
	和食・中華・洋食を組み合わせる	43	11.6	88.4
	ラーメン・うどんの汁を残す	43	9.3	90.7
	外食の際には，品数の多い定食・弁当を選ぶ	43	9.3	90.7
	外食の際には，野菜を使ったサイドメニューを利用する	43	9.3	90.7
	外食の際には，卓上調味料は使わない	43	7.0	93.0
	調理の機会が増えた	43	2.3	97.7
	行事食が増えた	43	0.0	100.0
配布レシピの料理を作った		60	8.3	91.7

2015 年度：喫食者数 107 名，実習後アンケート回答数 85 名（うち 3 回以上喫食者 69 名）
2016 年度：喫食者数 105 名，実習後アンケート回答数 77 名（うち 3 回以上喫食者 62 名）

表 6. 対象者の 1 日野菜摂取量（2016 年度） （%）

	両手 2 杯以上	両手 1 杯程度	片手 1 杯程度	ほとんど食べない	未回答
給食実習前（n=105）	7.6	26.7	46.7	14.3	4.8
給食実習後（n=62）	11.3	37.1	50.0	0.0	1.6

* 給食実習前後で有意差あり（$p<0.05$，χ^2 検定）

表 7.実習後の栄養教育担当学生の感想（抜粋，2013～2015 年度）

栄養教育を行う上で意識したこと
・対象者にどのような行動変容を促したいのかを意識しながら目標・指導内容などを考えた。 ・対象者が現在の食生活を見直すきっかけを作りたいという気持ちを大切にし，目標のためには，5 回の給食で何を伝えたらいいかを意識した。 ・科学的根拠に基づき，分かりやすく，興味を持ってもらえる栄養教育内容や配布物にすること。 ・栄養指導する際，どうしたら対象者にうまく伝えられるかを考えた。 ・一人一人の考えをしっかり聞き，遠慮することなく自分の考えも伝えること。
苦労したこと
・目標設定の際など，係の中で何度も話し合いを重ね，理解度の差を埋めること。 ・目標・アンケート設定時に，それを設定した根拠や行う意義・目的を考えること。 ・科学的根拠を確認すること。 ・専門的な知識などを含め，対象者に伝えたいことを簡潔に，わかりやすくまとめること。 ・献立係などと連携して，給食内容と栄養教育に一貫性をもたせるように考えること。
達成感を感じたこと・嬉しかったこと
・対象者への教育媒体（おたより・レシピ）が仕上がったこと。 ・対象者への声掛けにより，対象者が内容を理解し，興味をもったことがわかったこと。 ・アンケートの結果より，対象者が教育内容を理解したこと，意識変容・行動変容がみられたこと。
後輩へのアドバイス
・栄養教育は給食実習の方向性を示す大切な役割である。 ・対象者にどのように変わってほしいのかという意識を忘れないこと。 ・栄養教育のすべてにおいて，根拠・意義・目的があること。 ・対象者に質問されそうなところを予想し，知識を蓄えておくことで栄養教育に自信を持つことができる。 ・献立係・アセスメント係など，他の係との理解度の差がなくなるように連携しあうことが大切。

〈原著論文〉

入学時のUPI（University Personality Inventory）から見た短期大学退学者の特徴について

高田　晃治，堀内　綾音
人間生活学科，カウンセリング・ルーム

要　約

山陽女子短期大学において入学直後に実施したUPI（University Personality Inventory）について，その後退学した学生（退学者群）と，卒業した学生および在学中の学生（非退学者群）との間で比較・検討した。退学者群は非退学者群よりも「強迫・関係念慮」の得点が有意に高く，「総得点」や「心身症状」の得点も高い傾向があった。UPIの各項目を詳細に見たところ，被害・関係念慮，希死念慮，自分の過去や家庭への否定的評価，他者との接触回避，強迫症状等に関する項目をマークした者の割合が退学者群の方が高かった。こうした結果に基づき，退学の可能性をはらんだ学生に対して大学教職員，カウンセラーとしてできることは何かを検討した。

1．目的

UPI（University Personality Inventory）は，全国学生保健管理協会によって1966年に開発された心理検査で，学生の心身の健康状態を把握してメンタルサポートに活かすために，国内の大学等で広く活用されている。山陽女子短期大学（以下「本学」とする）においても，2012年度に新入生を対象に導入して，2013年度以降は全学生を対象に年度初めの健康診断に合わせて実施してきた（高田・堀内，2017）[1)]。

本学においてUPIを導入することとなった背景の1つに，精神的な不調によって休学や退学に至る学生たちの存在があった。UPIは，心身の健康を問う56項目の質問と，「陽性項目」と呼ばれる4項目の計60項目から構成され，学生が自分に当てはまると思う項目にマークしていく形式の心理検査である。UPIは直接的に休退学の意志や，修学継続への不安そのものを測定するものではない。しかし，退学した学生のUPIの特徴について述べているいくつかの先行研究がある。

石川（2002）[2)]は，休学ないし退学した女子短期大学生5名のUPIについて検討し，「14. 考えがまとまらない」「30. 人に頼りすぎる」「36. なんとなく不安である」「6. 不平や不満が多い」「16. 不眠がちである」「24. おこりっぽい」「33. 体がほてったり，冷えたりする」「57. 周囲の人が気になって困る」の8項目を休退学者のサインとして挙げて，「自分一人では自分をコントロールできず，

不眠や不安，易怒性など情緒的にも安定しない学生の姿が浮かび上がる」と述べている。

小塩・願興寺・桐山（2007）[3] は，大学入学１年以内に早期退学した学生，２年次以降に退学した学生，退学しなかった学生の，入学時の UPI 得点を比較した。分析にあたって UPI の 56 項目に対して主成分分析を行ない，「UPI 総合指標」と「身体―精神徴候」という２成分を抽出した。早期退学者は非退学者よりも「UPI 総合指標」が高得点であった。また「身体―精神徴候」は早期退学者も２年次以降の退学者も非退学者より高得点で，退学の可能性を予測する上で身体的な症状に注目する必要性が示唆された。さらに，項目ごとに退学者と非退学者の回答についてカイ二乗検定をした結果，「2. 吐気・胸やけ・腹痛がある」「7. 親が期待しすぎる」「8. 自分の過去や家庭は不幸である」「10. 人に会いたくない」「11. 自分が自分でない感じがする」「12. やる気が出てこない」「25. 死にたくなる」「26. 何事も生き生きと感じられない」「28. 根気が続かない」「36. なんとなく不安である」「46. 体がだるい」「55. 自分の変なにおいが気になる」「58. 他人の視線が気になる」といった項目について，退学者と非退学者の選択率に有意差がみられた。

岡・吉村・山崖（2015）[4] は，2003 年～ 2013 年の 10 年間に退学した学生と在籍を継続した学生との UPI を比較し，退学学生は在籍学生よりも UPI 総得点が高く，また身体化症状，抑うつ傾向，不安の各領域で退学学生の値が有意に高く，強迫傾向も高い傾向があり，被害・関係念慮については差がなかったと報告している。さらに退学時の在籍学年ごとに UPI 総得点を比較し，１年次および２年次退学学生は在籍学生よりも高得点だったが，３年次および４年次退学学生は在籍学生との差はなかった。退学理由を他大学受験や海外大学進学などの「積極的理由」と健康上の理由や一身上の都合など「消極的理由」に分けて，２群間の UPI 総得点を比較したところ差はなかった。

これらの退学者の UPI 得点の高さを示す研究に対して，小泉（2017）[5] は入学から２年以内に休学か退学をした早期休退学者と在学者との UPI 得点に差がなかったと報告している。さらに，UPI の 60 項目それぞれについて早期休退学者と在学者を比較し，早期休退学者の方が「17. 頭痛がする」「35. 気分が明るい」「48. めまいや立ちくらみがする」「50. よく他人に好かれる」の４項目について「ない」と回答する割合が多かったとも報告している。この結果について小泉（2017）[5] は，大学の所在地や規模，学部，在学生の学力などの影響に加え，早期休退学者は自分の内面に向き合えず，UPI の質問項目に対して「いいえ」と回答をする傾向にある可能性を示唆している。そして，「もしも学生の内省力の低さと早期休･退学との間に何らかの関連があるのであれば，そして内省力の低い大学生が増加する傾向にあるのであれば，本研究のような結果が増えてくる可能性も考えられる」とも述べている。

それでは，地方都市の郊外に立地する小規模な私立女子短期大学である本学においては，退学した学生たちの入学時 UPI にはどのような特徴が見られるのだろうか。短期大学の場合，２年ないしは３年の就学年数ということもあり，退学者の大半が４年制大学でいう「早期退学者」という

ことになるだろう。短期大学退学者のUPIの特徴については，石川（2002）[2)]の5名の事例に基づく報告があるが，全体的な傾向を推測するには十分な人数とは言えない。 本研究では，本学において2012年度以来蓄積されてきたUPIの結果をもとに，退学した学生の入学時UPIの特徴を，退学しなかった学生の入学時UPIと比較することで明らかにしていきたい。そして，退学に結びつく心身の健康に関わる要因について検討し，学生生活への適応や卒業に向けての支援のあり方を考えていきたい。

2．方法

2012年度から2016年度までに人間生活学科，食物栄養学科，臨床検査学科に入学した学生のうち，入学式の2日後に実施された健康診断においてUPIを受検した学生，もしくは健康診断時に未受検だったため後日UPIを配布して入学年度の5月中に提出のあった学生692名のUPIの結果を分析対象とした。

対象者のうち，2017年4月1日までの時点で退学した学生（以下「退学者群」とする）は38名であった。退学せずに在学を継続した学生もしくは卒業に至った学生（以下「非退学者群」とする）は654名であった。退学者群と非退学者群の入学年度別の人数を表1に示す。これらの人数はあくまでも入学年度にUPIに回答した者の人数であって，実際の入学者数や退学者数とは異なっている。

なお，本研究では2017年4月1日時点で休学中の者，休学の後復学して在学中の者，休学の後復学して卒業に至った者は非退学者群に含めた。本学では健康問題等で休学する者もいるが，年度末の国家試験に備えて単位修得済みの前期は休学して後期に復学する者，進路変更して転学科するため後期は休学して年度が改まってから復学する者など，様々な理由による休学者がいて，それらの理由の詳細を判別することは難しかったためである。2017年4月1日までに退学に至った休学者については退学者群に含めた。

表1　入学年度別の退学者群と非退学者群の人数

入学年度	2012	2013	2014	2015	2016	合計
退学者群	10	14	6	5	3	38
非退学者群	137	129	136	118	134	654
合　計	147	143	142	123	137	692

3．結果

3-1.UPI総得点および各指標の比較

UPIの全60項目からいわゆる陽性項目とされる4項目（項目番号5, 20, 35, 50）を除いた56項

目の合計点を「総得点」とし，退学者群と非退学者群の各群の平均得点を比較した。退学者群の平均得点は 15.08（*SD*=11.57），非退学者群の平均得点は 11.30（*SD*=8.52）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，退学者群の総得点が高い傾向があった（*t*（39）=1.96, *p*=0.058）。

「心身症状」16 項目（項目番号 1, 2, 3, 4, 16, 17, 18, 19, 31, 32, 33, 34, 46, 47, 48, 49）について，退学者群の平均得点は 3.81（*SD*=3.30），非退学者群の平均得点は 2.88（*SD*=2.44）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，退学者群の心身症状が高い傾向があった（*t*（39）=1.70, *p*=0.096）。

「抑うつ傾向」20 項目（項目番号 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30）について，退学者群の平均得点は 5.95（*SD*=4.71），非退学者群の平均得点は 4.80（*SD*=3.93）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，有意差はなかった（*t*（40）=1.46, *p*=0.15）。

「対人不安」10 項目（項目番号 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45）について，退学者群の平均得点は 2.63（*SD*=2.50），非退学者群の平均得点は 2.00（*SD*=1.92）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，有意差はなかった（*t*（40）=1.52, *p*=0.14）。

「強迫・関係念慮」10 項目（項目番号 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60）について，退学者群の平均得点は 2.68（*SD*=2.43），非退学者群の平均得点は 1.61（*SD*=1.83）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，退学者群の強迫・関係念慮が有意に高かった（*t*（39）=2.64, *p*=0.012）。

「陽性尺度」4 項目（項目番号 5, 20, 35, 50）について，退学者群の平均得点は 0.76（*SD*=0.93），非退学者群の平均得点は 0.60（*SD*=0.91）であった。Welch の *t* 検定により両群を比較した結果，有意差はなかった（*t*（41）=1.05, *p*=0.30）。

退学者群と非退学者群の UPI 総得点，心身症状，抑うつ傾向，対人不安，強迫・関係念慮，陽性尺度の各平均得点をまとめたものが表２である。

表２　退学者群と非退学者の UPI 得点の比較

	退学者群（*n*=38）	非退学者群（*n*=654）		
	平均得点（*SD*）	平均得点（*SD*）	*t* 値	
総得点	15.08（11.57）	11.30（8.52）	1.96	†
心身症状	3.81（3.30）	2.88（2.44）	1.70	†
抑うつ傾向	5.95（4.71）	4.80（3.93）	1.46	
対人不安	2.63（2.50）	2.00（1.92）	1.52	
強迫・関係念慮	2.68（2.43）	1.61（1.83）	2.64	*
陽性尺度	0.76（0.93）	0.60（0.91）	1.08	

†：*p*<.10，*: *p*<.05

表３　UPI 項目ごとの退学者群と非退学者群の回答およびオッズ比

	退学者群（n=38）		非退学者群（n=654）				
	マーク有	マーク無	マーク有	マーク無	オッズ比	95%信頼区間	
1. 食欲がない	8 (21%)	30 (79%)	75 (11%)	579 (89%)	2.06	0.91 - 4.66	
2. 吐き気、胸やけ、腹痛がする	9 (24%)	29 (76%)	128 (20%)	526 (80%)	1.28	0.59 - 2.76	
3. わけもなく下痢や便秘をしやすい	13 (34%)	25 (66%)	179 (27%)	475 (73%)	1.38	0.69 - 2.76	
4. 動悸や脈が気になる	5 (13%)	33 (87%)	39 (6%)	615 (94%)	2.39	0.88 - 6.46	
5. いつも体の調子がよい	8 (21%)	30 (79%)	161 (25%)	493 (75%)	0.82	0.37 - 1.82	
6. 不平や不満が多い	9 (24%)	29 (76%)	109 (17%)	545 (83%)	1.55	0.71 - 3.37	
7. 親が期待しすぎる	2 (5%)	36 (95%)	28 (4%)	626 (96%)	1.24	0.28 - 5.42	
8. 自分の過去や家庭は不幸である	8 (21%)	30 (79%)	63 (10%)	591 (90%)	2.50	1.10 - 5.69	＊
9. 将来のことを心配しすぎる	12 (32%)	26 (68%)	190 (29%)	464 (71%)	1.13	0.56 - 2.28	
10. 人に会いたくない	8 (21%)	30 (79%)	66 (10%)	588 (90%)	2.38	1.05 - 5.40	＊
11. 自分が自分でない感じがする	8 (21%)	30 (79%)	75 (11%)	579 (89%)	2.06	0.91 - 4.66	
12. やる気が出てこない	11 (29%)	27 (71%)	203 (31%)	451 (69%)	0.91	0.44 - 1.86	
13. 悲観的になる	8 (21%)	30 (79%)	181 (28%)	473 (72%)	0.70	0.31 - 1.55	
14. 考えがまとまらない	17 (45%)	21 (55%)	231 (35%)	423 (65%)	1.48	0.77 - 2.87	
15. 気分に波がありすぎる	19 (50%)	19 (50%)	270 (41%)	384 (59%)	1.42	0.74 - 2.74	
16. 不眠がちである	12 (32%)	26 (68%)	150 (23%)	504 (77%)	1.55	0.76 - 3.15	
17. 頭痛がする	11 (29%)	27 (71%)	155 (24%)	499 (76%)	1.31	0.64 - 2.71	
18. 首すじや肩がこる	20 (53%)	18 (47%)	267 (41%)	387 (59%)	1.61	0.84 - 3.10	
19. 胸が痛んだり、しめつけられる	4 (11%)	34 (89%)	55 (8%)	599 (92%)	1.28	0.44 - 3.74	
20. いつも活動的である	10 (26%)	28 (74%)	86 (13%)	568 (87%)	2.36	1.11 - 5.03	＊
21. 気が小さすぎる	9 (24%)	29 (76%)	140 (21%)	514 (79%)	1.14	0.53 - 2.46	
22. 気疲れする	14 (37%)	24 (63%)	270 (41%)	384 (59%)	0.83	0.42 - 1.63	
23. いらいらしやすい	20 (53%)	18 (47%)	249 (38%)	405 (62%)	1.81	0.94 - 3.48	
24. おこりっぽい	11 (29%)	27 (71%)	105 (16%)	549 (84%)	2.13	1.02 - 4.43	＊
25. 死にたくなる	8 (21%)	30 (79%)	48 (7%)	606 (93%)	3.37	1.46 - 7.75	＊
26. 何事も生き生きと感じられない	3 (8%)	35 (92%)	44 (7%)	610 (93%)	1.19	0.35 - 4.02	
27. 記憶力が低下している	13 (34%)	25 (66%)	163 (25%)	491 (75%)	1.57	0.78 - 3.13	
28. 根気が続かない	16 (42%)	22 (58%)	193 (30%)	461 (70%)	1.74	0.89 - 3.38	
29. 決断力がない	15 (39%)	23 (61%)	273 (42%)	381 (58%)	0.91	0.47 - 1.78	
30. 人に頼りすぎる	15 (39%)	23 (61%)	235 (36%)	419 (64%)	1.16	0.60 - 2.27	
31. 赤面して困る	7 (18%)	31 (82%)	127 (19%)	527 (81%)	0.94	0.40 - 2.18	
32. どもったり、声がふるえたりする	8 (21%)	30 (79%)	129 (20%)	525 (80%)	1.09	0.49 - 2.42	
33. 体がほてったり、冷えたりする	14 (37%)	24 (63%)	158 (24%)	496 (76%)	1.83	0.92 - 3.63	
34. 排尿や性器のことが気になる	0 (0%)	38 (100%)	24 (4%)	630 (96%)	0.33	0.02 - 5.60	
35. 気分が明るい	9 (24%)	29 (76%)	110 (17%)	544 (83%)	1.53	0.71 - 3.33	
36. なんとなく不安である	15 (39%)	23 (61%)	317 (48%)	337 (52%)	0.69	0.36 - 1.35	
37. 独りでいると落ちつかない	7 (18%)	31 (82%)	62 (9%)	592 (91%)	2.16	0.91 - 5.10	
38. ものごとに自信をもてない	15 (39%)	23 (61%)	244 (37%)	410 (63%)	1.10	0.56 - 2.14	
39. 何事もためらいがちである	12 (32%)	26 (68%)	190 (29%)	464 (71%)	1.13	0.56 - 2.28	
40. 他人に悪くとられやすい	7 (18%)	31 (82%)	52 (8%)	602 (92%)	2.61	1.10 - 6.23	＊
41. 他人が信じられない	8 (21%)	30 (79%)	76 (12%)	578 (88%)	2.03	0.90 - 4.59	
42. 気をまわしすぎる	12 (32%)	26 (68%)	123 (19%)	531 (81%)	1.99	0.98 - 4.06	
43. つきあいが嫌いである	9 (24%)	29 (76%)	98 (15%)	556 (85%)	1.76	0.81 - 3.83	
44. ひけ目を感じる	9 (24%)	29 (76%)	86 (13%)	568 (87%)	2.05	0.94 - 4.48	
45. とりこし苦労をする	6 (16%)	32 (84%)	59 (9%)	595 (91%)	1.89	0.76 - 4.71	
46. 体がだるい	14 (37%)	24 (63%)	147 (22%)	507 (78%)	2.01	1.01 - 3.99	＊
47. 気にすると冷汗が出やすい	9 (24%)	29 (76%)	95 (15%)	559 (85%)	1.83	0.84 - 3.98	
48. めまいや立ちくらみがする	10 (26%)	28 (74%)	147 (22%)	507 (78%)	1.23	0.58 - 2.58	
49. 気を失ったり、ひきつけたりする	1 (3%)	37 (97%)	7 (1%)	647 (99%)	2.50	0.30 - 20.84	
50. よく他人に好かれる	2 (5%)	36 (95%)	34 (5%)	620 (95%)	1.01	0.23 - 4.38	
51. こだわりすぎる	11 (29%)	27 (71%)	109 (17%)	545 (83%)	2.04	0.98 - 4.23	
52. くり返し確かめないと苦しい	13 (34%)	25 (66%)	121 (19%)	533 (81%)	2.29	1.14 - 4.61	＊
53. 汚れが気になって困る	6 (16%)	32 (84%)	41 (6%)	613 (94%)	2.80	1.11 - 7.09	＊
54. つまらぬ考えがとれない	12 (32%)	26 (68%)	105 (16%)	549 (84%)	2.41	1.18 - 4.93	＊
55. 自分の変な匂いが気になる	1 (3%)	37 (97%)	41 (6%)	613 (94%)	0.40	0.05 - 3.02	
56. 他人に陰口をいわれる	5 (13%)	33 (87%)	20 (3%)	634 (97%)	4.80	1.70 - 13.60	＊
57. 周囲の人が気になって困る	14 (37%)	24 (63%)	159 (24%)	495 (76%)	1.82	0.92 - 3.60	
58. 他人の視線が気になる	19 (50%)	19 (50%)	279 (43%)	375 (57%)	1.34	0.70 - 2.59	
59. 他人に相手にされない	5 (13%)	33 (87%)	20 (3%)	634 (97%)	4.80	1.70 - 13.60	＊
60. 気持ちが傷つけられやすい	16 (42%)	22 (58%)	159 (24%)	495 (76%)	2.26	1.16 - 4.42	＊

（註1）＊はオッズ比の95%信頼区間に1.00を含まない項目である。
（註2）項目34は度数0のセルがあったため，オッズ比は各セルに0.5を加えた人数で算出した。

3-2.UPI 質問項目ごとの比較

表３に，UPI の 60 の各質問項目について，退学者群と非退学者群の群別に「はい」とマークした人数，マークしなかった人数およびパーセンテージを集計し，両群間のオッズ比を算出したものを示す。

オッズ比の 95% 信頼区間に 1.00 が含まれなかった項目は，「8. 自分の過去や家庭は不幸である」（*OR*=2.50, *95%CI*: 1.10-5.69），「10. 人に会いたくない」（*OR*=2.38, *95%CI*: 1.05-5.40），「20. いつも活動的である」（*OR*=2.36, *95%CI*: 1.11-5.03），「24. おこりっぽい」（*OR*=2.13, *95%CI*: 1.02-4.43），「25. 死にたくなる」（*OR*=3.37, *95%CI*: 1.46-7.75），「40. 他人に悪くとられやすい」（*OR*=2.61, *95%CI*: 1.10-6.23），「46. 体がだるい」（*OR*=2.01, *95%CI*: 1.01-3.99），「52. くり返し確かめないと苦しい」（*OR*=2.29, *95%CI*: 1.14-4.61），「53. 汚れが気になって困る」（*OR*=2.80, *95%CI*: 1.11-7.09），「54. つまらぬ考えがとれない」（*OR*=2.41, *95%CI*: 1.18-4.93），「56. 他人に陰口をいわれる」（*OR*=4.80, *95%CI*: 1.70-13.60），「59. 他人に相手にされない」（*OR*=4.80, *95%CI*: 1.70-13.60），「60. 気持ちが傷つけられやすい」（*OR*=2.26, *95%CI*: 1.16-4.42）の計 13 項目で，いずれも退学者群の方が非退学者群よりも「はい」にマークした割合が高かった。

４．考察

本学の退学者群の UPI 総得点は，非退学者群よりも高得点となる傾向が見られた。この結果は小塩・願興寺・桐山（2007）[3] や岡・吉村・山崖（2015）[4] の報告と同様のものであり，本学においても入学時の学生の全般的な心身の健康状態が退学と関連していること，UPI 総得点がその指標としてある程度有効であることが示唆された。

UPI の各指標についてみると，心身症状の得点は退学者群の方が非退学者群よりも高い傾向があり，これも小塩・願興寺・桐山（2007）[3] や岡・吉村・山崖（2015）[4] の報告と同様の結果であった。ただしその差は明確なものではなく（p=0.096），項目ごとに比較した場合も「46. 体がだるい」のみオッズ比が 2.01（*95%CI*: 1.01-3.99）で有意であった。小塩・願興寺・桐山（2007）[3] の指摘するように身体症状に注目することは重要だと考えられるが，それは学生が退学するかどうか直接的に予測すること以前に，身体症状へのアプローチを通して学生が抱えている困難を入学後の早い段階から把握することの大切さと考えるべきだろう。学生からの身体面の訴えに対応する上で保健室の役割は大きく，保健室とカウンセリング・ルームとの連携もより必要になってくると考えられる。

抑うつ傾向については，退学者群と非退学者群との間に有意な得点差は見られなかった。ただし項目ごとに見ると，「8. 自分の過去や家庭は不幸である」，「10. 人に会いたくない」，「24. おこりっぽい」，「25. 死にたくなる」の 4 項目でオッズ比が有意であった。項目 8，項目 10，項目 25 は小塩・

願興寺・桐山（2007）[3] でも退学者に多く見られた項目であり，項目 24 は石川（2002）[2] が休退学者の事例から特徴として挙げた項目の１つでもある。

これらの中で「25. 死にたくなる」は退学するかどうか以前に希死念慮を示唆する項目であり，深刻な心理的問題が背景にあることが推測されるため特に注意が必要である。可能な限り学生自身と UPI の結果について話し合い，抱えている問題に対する理解と支援を進めるべきである。

「8. 自分の過去や家庭は不幸である」は入学以前からの生活歴や家族関係での深刻な悩みを示唆する。これも単に退学を予見できるかどうかではなく，学生が生きてきた歴史と抱えている苦悩の深さを想像し，カウンセラーとしてこうした学生を受け止めるための緒として注目すべき項目であろう。なお，項目 8 について非退学者群でも 63 名（10%）の新入生が該当していたことにも注意したい。こうした「自分の過去や家庭は不幸」という本人の思いが学生時代の内に解消されるとは考えにくいが，青年期の発達過程において，学生が変えようのない過去を抱えながら，どのように家族との関係を見つめ直し，自らの将来を切り拓いていくのか，カウンセラーとして学生に対して支援できることは何か，ということを考えていく必要がある。

「10. 人に会いたくない」は，対人関係からの回避，退却傾向を示す項目であり，入学後早期からの長期欠席にも繋がりうるものである。山田（2006）[7] は入学直後の早い時期からの欠席が早期退学に繋がることを指摘している。富永・栗原（2017）[8] は，「学生の長期欠席は休・退学，留年に直結し，本人の将来にとって大きなマイナスとなるので，学生を受け入れた大学としてはその防止に努めなければならない」「学生間および学生と教職員との繋がりが，学生の勉学意欲を高める要因になることが想定される」と述べている。入学後間もない時期から欠席が続く場合，担当チューターが学生本人ならびに保護者に連絡して面談するといった対応は本学においても行われている。しかし，教職員としてはこうした危機対応のみに留まらず，「人に会いたくない」という学生から「会ってもよい」さらには「会いたい」と思われるような存在になるために教職員自身がどうあるべきか，日頃から考えていくことがより重要と思われる。そして，学生にとって会いたいと思える人たちとのネットワーク―換言すれば「居場所」―の形成まで展望しながら，学生生活を支援していくべきであろう。

対人不安については，退学者群と非退学者群との間に有意な得点差はなく，項目別でも「40. 他人に悪くとられやすい」の１項目のみオッズ比が 2.61 で有意であった。「他人に悪くとられやすい」という文章からは，本人の対人関係における自信のなさや自意識が窺われるが，被害・関係念慮との関連性も読み取れるので，注意が必要である。

強迫・関係念慮については，退学者群の得点が非退学者群よりも有意に高かった。岡・吉村・山崖（2015）[4] は，退学学生は在学学生と比較して強迫傾向が高い傾向があり，被害・関係念慮については差がなかったと報告している。本研究では得点としては強迫傾向と被害･関係念慮を「強迫･

関係念慮」としてまとめており，岡・吉村・山崖（2015）[4] との直接の比較は難しいが，項目ごとに見た場合，強迫傾向に関する項目，被害・関係念慮に関する項目とも，退学者群のオッズ比が高い項目が複数あった。

強迫傾向については，「52. くり返し確かめないと苦しい」，「53. 汚れが気になって困る」，「54. つまらぬ考えがとれない」といった項目のオッズ比が有意であった。強迫症状により疲弊し，生活上の支障も大きくなって退学に至る学生の姿が想像される。ただし，項目 52 は退学者群 13 名（34%）と非退学者群 121 名（19%），項目 54 は退学者群 12 名（32%）と非退学者群 105 名（16%）という，少なくない人数が「はい」とマークしていることにも注意すべきである。箭本・鈴木（2017）[6] は，UPI とアパシー傾向との関連を検討し，入学時の「強迫傾向・対人関係念慮」の傾向が強い学生ほど授業への退却の度合いが少なかったことを示している。その上で「見かけ上は授業をサボることが少なく適応的に見える学生でも，『強迫傾向・対人関係念慮』が高い学生は，その出席する動機は必ずしも積極的なものではなく，授業には出席しなければならないといった強迫的な認知や他人からよく見られないかもしれないといった不安のような消極的なものである可能性が高く，早期に個別介入を要する援助ニーズを持った学生なのである」「授業に出席しているかといった行動面だけに着目するのではなく，なぜ授業に行くかといった動機付けの部分に注目しながら，授業に行くための自分なりの意味づけを模索させるような介入を行っていく必要があるだろう」と指摘している。入学時点において強迫症状を自覚しながらも自ら支援を積極的に求めることなく，人知れず困難を抱えながら学生生活を送っている学生たちへのアプローチについて，引き続き検討していく必要がある。

被害・関係念慮に関する項目では「56. 他人に陰口をいわれる」，「58. 他人に相手にされない」「60. 気持ちが傷つけられやすい」においてオッズ比が有意であった。項目 56，項目 58 と，対人不安に関する項目とされる先述した「40. 他人に悪くとられやすい」の 3 項目に共通するのは，「他人に」何かされるという直接的な被害体験であり，自分自身の問題というよりも他人による問題としての認識である。入学直後の UPI に記されたこうした被害体験は，入学直後の時点で現実の他人による言動のために生じることもあり得るが，入学以前から生活史の中で刻み込まれてきた被害体験を反映したもの，あるいは自身の内的体験を他人に投影したものと考える方が妥当であろう。項目 56，項目 58 とも退学者群 5 名（13%）と非退学者群 20 名（3%）に見られ，オッズ比はいずれも 4.80 と全項目中最高値を示していた。これらは，退学の可能性を含め，学生生活の適応を考える上で慎重に見るべき項目と考えられる。可能な限り学生自身から話を聴き，必要に応じてより専門的な支援に繋げることも考慮すべきであろう。

また，「60. 気持ちが傷つけられやすい」という項目からは，傷つきやすい自己への自覚が窺われる一方で，「傷つけられ」という受け身的で被害的な体験も見て取れる。項目 60 は退学者群 16

名（42%），非退学者群 159 名（24%）が該当しており，少なからぬ人数の新入生が傷つきやすさを抱えて入学していることが窺われる。小泉（2017）[5] の指摘した学生の内省力の低下という問題は，本学においては内的体験の他者への投影や被害・関係念慮といった形で現われているとも解釈できる。学生たちはどのようなことで傷つくのか，傷つけられやすい気持ちはどのように守られているのか，どのようにして傷つきが癒えるのか，あるいは癒やされないまま傷つきを深めてしまうのか，といったことを検討していくことで，学生の心理的健康や対人関係をより良いものにし，退学リスクを低下させるための示唆が得られることが期待される。

陽性尺度の平均得点については，退学者群と非退学者群との間に有意差はなかった。ただし，項目ごとに見ると「20. いつも活動的である」のオッズ比が 2.36 と有意で，退学者群の方が高い割合を示した。この結果は意外とも言えるもので，慎重に解釈していく必要がある。まず，「いつも活動的である」という回答の背景には，いつも活動的でなければならない，休むことのできない強迫性や，他者からの評価を気にする心性など，箭本・鈴木（2017）[6] が述べたような強迫・関係念慮に関わる問題の存在が推測される。あるいは，小泉（2017）[5] の言う学生の内省力の低下という視点から考えると，自分自身の内面の問題に気づき，悩むことが難しく，外界に向けて活動することによって自分の問題と向き合わず逃避している可能性もある。その他，退学していく学生たちも一様ではなく，UPI で測定される心身の健康上の問題を理由としないケースもあるということ，本研究での「退学者群」も，岡・吉村・山崖（2015）[4] が退学理由について「積極的理由」と「消極的理由」に分類したように，いくつかのサブタイプに分けられるのではないか，ということも考えられる。入学後に本学が掲げる学習成果とは異なる新しい目標が見つかり，新しい目標に向かって取り組みたいという学生がいた場合，そしてその学生が活動的で行動力を持っていた場合，積極的に退学していくことも予想される。今後の課題として，退学者の退学理由の実態を知ること，入学時「いつも活動的である」と回答し，やがて退学していく学生の実像について，特に対人関係や他者からの評価に対する過敏さの問題について，UPI の他の項目への回答との関連性，入学後の学生生活，単位修得状況などから明らかにしていくことなどが残されている。

文部科学省高等教育局学生・留学生課（2014）[9] によると，全国の国・公・私立大学，公・私立短期大学，高等専門学校における平成 24 年度中途退学者の総数は全学生数 2,991,573 人のうち 2.65%（平成 19 年度比 0.24 ポイント増）に当たる 79,311 人で，その理由別の内訳として，経済的理由 16,181 人（20.4%），転学 12,240 人（15.4%），学業不振 11,503 人（14.5%），就職 10,627 人（13.4%），病気・けが・死亡 4,616 人（5.8%），学生生活不適応 3,461 人（4.4%），海外留学 579 人（0.7%），その他 20,104 人（25.3%）といった数値が挙げられている。これらの理由はあくまでも文部科学省に対する大学側の回答であり，複数の理由が絡んでいたとしても回答は 1 つの選択肢に集約されているため，退学者本人の実情を表わしたものとして妥当であるかという問題はある。しかし，この

調査報告からも退学の理由は多岐に亘っており，UPI と関連していると思われる「病気・けが・死亡」や「学生生活不適応」といった理由はこれらの退学理由の一部に過ぎないことが窺われる。

地方の小規模な私立女子短期大学において，近年の 18 歳人口の減少という背景もあって，学生を一人でも多く受け入れようとすればこれまで以上に多様な困難を抱えた学生が入学してくることは必至である。健康上の困難であれ，学力上の困難であれ，経済的な困難であれ，学生の抱えている困難が深刻で重篤であるほど，学生生活の継続は難しくなり，退学のリスクも高くなる。入学者が抱える困難を多少とも軽減し，よき人間関係の体験の場を提供し，社会生活を送る上で求められる知識や技能を育み，卒業までの間，学生の青年期発達を支援するのが我々大学教職員に課せられた役割だと思われる。

学生相談におけるカウンセラーには，学生の生きる内的世界と外的世界，時間軸と空間軸，生物的側面と心理的側面と社会的側面のあらゆる次元に想像を巡らせながら，目の前の学生を理解する役割が求められる。UPI は単に退学のリスクを予見するために実施されるものではなく，カウンセラーの学生理解のために，そして学生自身の自己理解の促進のために用いられるべきものである。そのためにも, UPI の実施ならびにフィードバックを学生とのコミュニケーションの機会とし，UPI を媒介とした相互のコミュニケーションを通じて学生の姿がより的確に把握できるよう，今後とも臨床実践ならびに研究を重ねていきたい。

文　献

1）高田晃治・堀内綾音　2017　UPI（University Personality Inventory）を用いた短期大学生へのメンタルヘルスの啓発活動に関する一報告　山陽女子短期大学研究紀要，**38**, 14-23.

2）石川雅健　2002　UPI（精神健康調査）からみた現代女子短大生のパーソナリティ　東海女子大学紀要，**22**, 75-79.

3）小塩真司･願興寺礼子･桐山雅子　2007　大学退学者における UPI 得点の特徴　学生相談研究，**28**, 134-142.

4）岡　伊織・吉村麻奈美・山崖俊子　2015　津田塾大学新入生における精神的健康度の変化―43 年間にわたる大学生精神医学的チェックリスト（UPI）の結果より―　津田塾大学紀要，**47**, 175-195.

5）小泉晋一　2017　入学時の UPI（University Personality Inventory）得点と早期休・退学との関連　共立大学研究論集，**15**, 73-92.

6）箭本佳己・鈴木由美　2017　大学生のアパシー傾向と UPI（University Personality Inventory）との関連　都留文科大学研究紀要，**85**, 243-254.

7）山田ゆかり　2006　大学新入生における適応感の検討　名古屋文理大学紀要，**6**, 29-36.

8）富永弥生・栗原　久　2017　短期大学における女子学生の入学時の健康度と中途退学との関連―自記式健康度チェック（THI）による評価を通して―　常葉大学教育研究実践報告誌，**1**，138-147.

9）文部科学省高等教育局学生・留学生課　2014　学生の中途退学や休学等の状況について　文部科学省報道発表　平成 26 年 9 月 25 日

Trends in Dropout Students' UPI (University Personality Inventory) Scores at Entrance to Junior College

Koji Takada, Ayane Horiuchi

Department of Human Life, Counseling Room, Sanyo Women's College

Summary

We compared UPI (University Personality Inventory) scores of dropout and non-dropout students just after entrance to Sanyo Women's College. Dropout students scored significantly higher in "obsession and referential idea" than non-dropout students. Dropout students' "overall scores" and "somatic symptoms" scores were marginally but significantly higher than those of non-dropout students. Dropout students more frequently marked items regarding "idea of persecution and referential," "suicidal ideation," "negative evaluation on past and family," "contact avoidance," and "obsession" compared with non-dropout students. We also considered the roles of college teachers, staff, and counselors of students at risk of dropout.

〈原著論文〉

ホメロス、ジョイス、アナーヤ
――〈チカーノ・ユリシーズ〉に見る環大西洋的想像力

水野　敦子
人間生活学科

チカーノ作家ルドルフォ・アナーヤの『ヘメスの春』に出てくる〈チカーノ・ユリシーズ〉という言葉から、20 世紀最高傑作の一つとされるジェイムス・ジョイスの『ユリシーズ』と『ヘメスの春』の関連性とアナーヤにみる環大西洋的想像力を探る。アナーヤとジョイスは植民地支配下で生きることの苦悩を文学にしたが、両作家は狭いナショナリズムを脱し、コスモポリタン性を志向する革新性を有している。故郷離脱者であったジョイスと違い、アナーヤは土着のものや四季のサイクルが表象する人道主義や自然の恵みを提示し、アメリカ資本主義の対抗言説とした。アナーヤは同時に、『ヘメスの春』を、同じ植民地支配を経験した国家の物語としての『ユリシーズ』や、ギリシア・エジプト神話に併置し、アメリカ南西部の閉鎖的空間を、環大西洋を跨いだ空間へと開いていこうとした。

はじめに

ルドルフォ・アナーヤの四季四部作の最終巻『ヘメスの春』（*Jemez Spring*, 2005）は、主人公探偵サニーが宿敵レイヴンを追って、アメリカ南西部ニューメキシコにあるアルバカーキの町を駆け巡る春分の日一日の出来事である。ここで興味深いのは、愛妻リタのもとに帰還したサニーが、「チカーノ・ユリシーズ」と呼ばれることであろう。ジェイムス・ジョイスの『ユリシーズ』（*Ulysses*, 1922）は、ホメロスの『オデュッセイア』（*Odyssea*）の主人公オデュッセウスの英語訳から取られているが、10 年にわたる、エーゲ海沿岸ギリシア、小アジアを巡る英雄の冒険と帰郷の壮大な物語は、広告取りの主人公ブルームの午前 8 時から翌朝午前 2 時 30 分までのダブリンでの一日に改変されている。ギリシア神話の枠組みを借りて中年男性の平凡な一日を描いた『ユリシーズ』は、意識の流れなどの様々な実験的手法や多彩な言語を駆使して、彷徨える人間の魂を描きだし 20 世紀最高傑作の一つとなった。故郷喪失と帰郷という神話構造を借用した作品には、他にはカリブ海に浮かぶ英領セント・ルーシャ生まれのノーベル賞作家デレク・ウォルコットの『オメロス』（*Omeros*, 1990）も有名である。アナーヤ、ジョイス、ウォルコットの主人公たちは、大国による植民地支配という歴史的受難を背負い、時空間を超越した冒険を通して、失われた民族的アイ

デンティティを探り、新たな文化を創造している。

『ユリシーズ』と『ヘメスの春』の主人公の彷徨うダブリンとアルバカーキの町は、主人公たちにとって宇宙の中心であり、近代の都市生活の急速な変化を目の当たりにしながら、オデュッセウスのごとく、故郷に残した妻のもとへと旅を続ける。小論では、アナーヤとジョイスの影響関係と、アナーヤが『ユリシーズ』をいかにアメリカのパラダイムシフトしたかを考察しながら、〈チカーノ・ユリシーズ〉に見られる環大西洋的想像力の行方について明らかにしてみたい。

1．ニューメキシコとアイルランド――歴史、言語、吟遊詩人

それではまず、ニューメキシコとアイルランドの歴史を概観し、両地域の文化的な共通性から見てみたい。ニューメキシコは、1848 年にアメリカに併合されるまではメキシコの領土であった。ラテン・アメリカの古代史については未だ不明な点が多いが、大井によれば、形成期または先古典期（紀元前 1000 年～前 100 年）には神殿都市が発展し、それに続く古典期（紀元前 100 ～後 1050）には、最も完成度の高い文化が築かれたという。メキシコにはこの時代を代表する新大陸最大の都市テオティワカンがあり、そこではピラミッド群が建設された。神殿都市やピラミッド群の建設など、ギリシアやエジプトと同様の高度な文明が大西洋を挟んだメキシコに形成されていたことは驚くべきことである。

四季四部作でもアメリカスとエジプトとの関連は、何度も言及される。『シャーマンの冬』では、「3000 年前にエジプト人は海を渡り、アメリカスに住み着いたという人もいる」（105）とエジプト人のアメリカス渡来が語られる。同書には、サニーの始祖であるアメリカ先住民 Owl Woman がアステカに旅して下賜された壺にはエジプトのアンク十字で書かれた予言があるという記述もある。また、『ヘメスの春』では、古代エジプト神話の英雄オシリスは弟に謀殺され、バラバラにしてナイル川に投げ込まれるが、ある詩人はオシリスの体の一部がリオ・グランデ川に打ち上げられたと書いたと述べられる。紀元前 3000 年頃はエジプトでピラミッドが建てられた時期であるが、エジプトからやってきた人々がメキシコにピラミッドを伝えたとも推測され、古代における環大西洋を巡る文明の往来が神秘的なレベルにまで拡大して語られる。

15 世紀にはアステカ文明が繁栄するが、1521 年にスペインのエルナンド・コルテスによって滅ぼされる。アステカ帝国では、樹皮紙などに書かれた規則書や絵文書の多くは、悪魔の書として焼かれたため、先住民の文化と歴史を知るには焚書を免れた絵文書しかなく、この時代の歴史を知るには、16 世紀にやって来たスペイン人たちが記録した文書しかない。その一つがガスパール・ペレス・デ・ビリャグラの『ヌエバ・メヒコの歴史』（*Historia de la Nueva Mexico*, 1610）である。ニューメキシコは 1598 年ファン・デ・オニャーテの遠征によってスペイン領になるが、この遠征軍の隊長がこのビリャグラであった。『シャーマンの冬』（*Shaman Winter*, 1999）で、サニーがニューメ

キシコの歴史を勉強するのもスペイン人の書いたこの歴史書である。

メキシコは1821年スペインから独立するが、米墨戦争（1846～1848）によって領土の3分の1を奪われ、グアダルーペ･イダルゴ条約（1848）によってニューメキシコはアメリカに編入された。当時、利己的な領土欲のためにアメリカが仕掛けた米墨戦争に抗議してヘンリー・デイヴィッド・ソローが人頭税支払いを拒否して投獄されたことは有名である。今福はメキシコにとっての「他者」としてのアメリカの巨大さを指摘し、メキシコのノーベル文学賞受賞詩人オクタビオ・パスが米墨戦争当時から続くアメリカの横暴について、彼の名著『孤独の迷宮』（*El laberinto de la soledad*, 1960）で述べた文章の次の一節を引用している。

> 一世紀以上も前から、アメリカ合衆国は我々の前に、巨大な、しかしほとんど人間らしさを持たぬ現実として存在している。ときに微笑を浮かべて両手を広げ、ときに猛りながら拳を振り上げ、それは我々には目もくれず、耳も傾けず、ずかずかと我々の土地に侵入し、我々を踏みつぶしていく。この巨人を抑え込むことは不可能である。(333)

グアダルーペ･イダルゴ条約ではメキシコ系の人々はアメリカ市民としての市民権が約束されたが、実際には二等市民として様々な差別を受け、管啓次郎の言葉を借りれば「祖国で異邦人」として生きることを余儀なくされた。

メキシコ系アメリカ人、チカーノはスペイン人とインディオとの混血であるが、こうしたチカーノ蔑視の背景には人種的偏見と同時に、スペインの異端審問に関わる「黒い伝説」がある。1494年のトリデシーリャス条約でスペインとポルトガルで世界を二分し、スペインは「太陽の沈まぬ帝国」となるが、16世紀の宗教改革、オランダ、イギリス、フランスなどの台頭によってスペインの優位は次第に崩され、1588年には無敵艦隊が敗北し、16世紀末には衰退の兆しが見えた。スペイン衰退に輪をかけたのが、当時の新興勢力であったイギリス、オランダによる、スペインの「黒い伝説」の喧伝であった。

アメリカ大陸においても、スペインは1800年にミシシッピ川以西のルイジアナ領土をフランスに返却するなど、徐々に力を弱めていったが、Weberによると、アメリカ帝国主義もまたスペインの「黒い伝説」を自らの正当化のためのプロパガンダに利用したという。19世紀アメリカ人旅行者の書き物に、スペインの「黒い伝説」に由来するニューメキシコの封建的性質についてのコメントが現われたが、アメリカはそれを自らの帝国主義的意図を合理化するためのプロパガンダに利用したというのである。アングロ支配が強まり、ヒスパニックエリートは土地を奪われ、牧場主であった者も、農業に従事するようになり、経済の担い手の地位から外れ、チカーノはアメリカ社会の中で周縁化していく。

一方、アイルランドの古代史についての記述も殆ど残っていないが、紀元前3世紀頃からケルト族がヨーロッパ南部および大ブリテン島から移住を始めた。その社会では、ケルト民と神とを仲

介するドイルド僧が絶対的権力を持っていた。森や山や大地に宿る自然の神を崇拝し、ドルイドがシャーマン的存在であったことは、ニューメキシコと同じ精神風土をもっていたことを表している。『ヘメスの春』結末でも、妻のベッドに帰還したサニーの「春」をドイルド僧が礼賛したと述べられる。しかし、432年にアイルランドにやって来た聖パトリックのキリスト教布教により、ドイルドは次第に駆逐される。

795年に始まるバイキングの来襲も、1014年にブライアン・ボルーが撃退するが、12世紀後半に、レンスター領主ダーモット・マクマローがブレイフネ王とコンノート王連合軍に敗れて、ヘンリー2世に援軍を要請した時から、イギリスのアイルランド植民地支配が始まる。12世紀後半にはイギリス人がアイルランドへ移住し、次第に領主化していき、イギリス人不在地主によってアイルランド人は小作人化していった。1541年にはヘンリー8世がアイルランド王の称号を得、1609年にはイギリスはアイルランドに本格的な入植を開始し、多数のスコットランド系移民が入植した。Chengによると『ユリシーズ』が発表された20世紀においても、イギリス人はアイルランド人を劣等民族と見下し、「白いニグロ」、「猿」、「野蛮人」として他者化していたという。

ジョイスは没落するカトリック家庭の出身であるが、アイルランドは宗教的にもイギリスから大きな影響を被った。16世紀ヘンリー八世の離婚問題に端を発してイギリスはローマ教皇庁から離れ、カトリックは弾圧の対象となり、アイルランドでも1695年から1727年にかけてアイルランド刑罰諸法が制定されて、カトリック教徒の公的活動に制限が加えられた。カトリック解放令が出されるのは100年後の1829年で、カトリック教徒は被選挙権を獲得し、カトリック教徒に対する差別は漸く撤廃された。彼らは固有のアイルランド語を有していたが政治的に目覚めたカトリック教徒は、英語を熱心に身につけるようになり、英語を使用して、改革と進歩を手に入れようとした。

以上見て来たように、ニューメキシコとアイルランドは植民地支配による土地の喪失と人種的・民族的偏見という体験を共有するが、母語を抑圧する支配者への抵抗として生まれたのが吟遊詩人や多言語使用の「声の文化」であろう。アイルランドの抒情詩は9世紀に修道院の写字僧と共に始まり、吟遊詩人はノルマン侵攻以前から存在し、12世紀に確立した。ニューメキシコにおいても新聞やテレビがない時代に読み書きができない人のために、吟遊詩人が歴史や事件を謳って町から町へと歩き、それが19世紀末にはギター伴奏を伴うコリードとなった。『オデュッセイア』から始まる口承伝統は、アイルランド、アメリカ南西部へと引き継がれ、社会に対する民衆の喜怒哀楽や権力者への抵抗を表現し、それらを共同体で共有する役割を果たした。

このように支配者に対する抵抗が言語を通しても行われたことも共通している。アナーヤは英語とスペイン語の混じったスパングリッシュで執筆し、ジョイスは多様な英語の使用によって、英語がイギリスの専売特許ではないことを示した。

チカーノの多言語的状況がとりもなおさず、支配者への抵抗となっていることを端的に表現した

のが、テキサス出身のチカーナ作家グローリア・アンサルドゥーアである。彼女はアメリカ南西部では、家庭でスペイン語を話すチカーノたちも、学校での英語使用が強要され、英語を支配言語とする国に生きながら､自分たちにとっての価値を伝え合うことのできるために言語パトワ（混成語）を作り出し、南西部でのチカーノは、実に8種類もの言葉をもっているという（193 － 4）。

『ユリシーズ』の舞台であるダブリンも、国としてのアイルランド語、政治的＝文化的強制による英語、教会の言語としてのラテン語、オペラの言語としてのイタリア語、その他という他言語的状況にある（丸谷）。こうした他言語的状況のなかで、ジョイスは、古英語から現代英語まで30名以上の作家の文体を模倣した。鈴木が主張するように、ジョイスは植民地支配者の言語である英語を非イングランド的な経験に流用し、この武器が圧迫となることを示したのである（595）。

こうしたジョイスの文学的戦略は、1980年代以降、イギリスの旧植民地から多くの作家を輩出したポストコロニアル文学の先駆けとなった。ニューメキシコとアイルランドにおける政治的・文化的強制による英語使用という現実のなかで、アナーヤとジョイスは支配言語としての英語の権威を希薄化するために、多言語的状況を有効なテキスト戦略として利用している。

２．コスモポリタニズムとギリシア

アナーヤはニューメキシコで生まれ、1963年ニューメキシコ州立大学卒業後は、高校教師をしながら執筆活動を続け、現在までニューメキシコに定住して土地の物語を書き続ける土着の作家である。一方、ジョイスは1902年にユニヴァーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）卒業後、ソルボンヌ大学医学部入学を目指してパリに行くが学業を断念する。以後、パリ、イタリア、スイスで英語教師をして糊口を凌ぐという苦しい家計のなかで、支援者から援助を受けながら執筆活動を続けた。彼は異郷に暮らしながら、終生ダブリンへの思いを抱き、ダブリンを舞台にした作品を書き続け、1940年にチューリヒで死亡し、その地に埋葬された。土着の作家であるアナーヤと故郷離脱の作家であるジョイスの大きな違いはナショナリズムに対する考え方であるが、この章では両者はコスモポリタンであり、そうした思想の根底にあるのは、ギリシア精神であることを明らかにしたい。

アナーヤが1960年代にチカーノの復権を求めて始まったナショナリズム的運動であるチカーノ運動から出発した作家であるのに対し、ジョイスは、当時のW. B. イェイツたちのアイルランド文芸復興運動に対し、その運動が内包するナショナリズムを否定的に見ていた。実際のところ、この文芸復興運動には限界があった。1923年にノーベル文学賞を受賞したイェイツは、イギリス系アイルランド人でプロテスタントの支配階級に属し、文芸復興運動は彼らのアイデンティティを確立させる運動でもあった。さらに、文芸復興運動家は古いアイルランドの神話や民間伝承によって人々を連帯させようと、それらの収集や翻訳を行ったが、その運動は現状を回避したロマンティッ

クな夢想という面があった。

アイルランド文芸復興運動に背を向けたジョイスは、ハンガリー系ユダヤ人で女性らしい男性という主人公ブルームとジブラルタル生まれのユダヤ人モリーというアウトサイダーを主要登場人物に設定し、彼らのコスモポリタン性を浮き彫りにしている。ブルームは第 12 挿話では、酒場での他の市民たちのナショナリスティックな議論に賛成せず、民族とは何かという質問に、「同じ場所に住んでいる同じ住民です」と答えるが、この言葉に彼のコスモポリタン性が集約されている。

結城は、若き学校教師でブルームの息子的な存在でもあるスティーヴンとブルーム夫妻について次のように論じている。

> スティーヴンは歴史が物語であることを意識しつつも、その物語に屈したまま自由になれそうにもない。逆にブルームは自己の置かれた状況が偶発的なものであることを知っており、別の物語を想定することができる。モリーは時間に規定されることもなく、記憶を反復しながら新しい物語を創造している。ブルームやモリーの人物像を織り上げる重層的なコスモポリタンの文化こそダブリンの市民に欠落しているものである。(144)

ブルームが別の物語を想定することができるのは、多様な視点を有しているからである。また、妻モリーは『オデュッセイア』の貞淑な妻ペネロペとは対照的な不倫妻であるが、記憶を反復しながら新しい物語を創造する人物として「新しい女性」の可能性を秘めており、モリーの誕生日を聖母マリアと同じ日に設定した作者の意図を窺うことができる。

ジョイスは『ダブリン市民』(*Dubliners*, 1914) で現実の不満から逃避する無気力さを「麻痺」という言葉で表現したが、結城も指摘するように、ジョイスはコスモポリタンの文化こそダブリン市民に欠落していることを主張している。

一方、チカーノ運動から出てきたアナーヤはナショナリズムが強い作家とされる。それは、登場人物の次のような台詞に端的に表れている。「われわれが自分たちの宇宙を知っている限り、われわれは大丈夫だ。境界を破壊したら、その時には全ては流動的になり、われわれは白人の世界に滑り込んでしまう。」(『ヘメスの春』135) しかし、アナーヤはチカーノ・ナショナリズムを標榜しながら、世界の飢えた人々へ思いを寄せ、カリブ海マルティニック出身の作家エドゥアール・グリッサンの唱える「関係の詩学」に共通するローカルからグローバルへというコスモポリタン性をもった作家である。核をもって世界制覇をしようとするレイヴンを敗り、故郷に〈春〉をもたらした終結部で次のように語られる。

> 後日、サニーが学んだことの細部がカフェにやってきた仲間内で政情を論じた時現われることになろう。彼ら、都市、周辺地域は彼らの将来の世代に影響を与えた闘いに巻き込まれた。それはイラクのテロリスト達への戦争あるいは北朝鮮の脅威だけでなく、世界中の飢えた子供たちの食料を供する必要、死滅寸前の文化を救う必要があるというものだった。(『ヘメスの春』

296-7）

アナーヤは「アストラン――境界なきホームランド」（1989）と題するエッセイで、チカーノはアストラン精神によって「エスニシティの限界を乗り越え、境界なき世界を創造しなければいけない」（241）と主張している。それは、余田が指摘する、「チカーノは正当な血統の起源の場所への執着がもたらす民族主義的なアイデンティティではなく、新世界人というポストエスニックな帰属のあり方に開かれている」という混血のもつ可能性に繋がるものであろう。

両作家のコスモポリタン性を見るとき、根底に彼らのギリシアへの憧れがあるのではないかと思われる。サニーがギリシア神話を教えていた元学校教師であることも興味深い。ギリシアと言えば、人間中心主義的な合理的精神、超越的普遍的な性格でコスモポリタニズム型文化が特徴的であり、ソクラテスの弁証法的対話や広場での直接民主制、人間的な神々で知られる。

松井はギリシア精神について次のように述べている。

> ギリシアは多神教で神々は人間的な感情を露わにし、青年の溌溂さをもち快楽に溺れている。まさにギリシアの神々は理性的で禁欲的で、理知的な成人のごときキリストの神とは何から何まで正反対なのである。ギリシアの神々の英雄は個性豊かでそれらの物語は吟遊詩人によって謳い継がれた。（中略）ギリシア精神の英雄的人間観は、理想を実現しようとする人物であるとし、地上を人間の友として歩き、遭遇する困難に際し、勇猛果敢な態度を失わず、比類なき気品を示す。

アナーヤ作品には『ハラマンタ――太陽の道を行け』（*Jalamanta: A Message From The Desert*, 1996）から『ランディ・ロペスは帰郷する』（*Randy Lopez Goes Home*, 2011）まで『オデュッセイア』と同じ故郷離脱と帰郷のパターンを取る作品が多い。ここからもわかるように、アナーヤ文学にはギリシア古典の西欧思想が流れているが、中でも『ハラマンタ』にはソクラテスの弁証法的対話が見られ、ギリシアの影響が大きい。

『ハラマンタ』の舞台は、アステカ時代の都市国家で、主人公のファティマは30年間にわたる砂漠での彷徨の後に妻のもとに戻るが、一人息子は軍隊に取られ行方不明であるという『オデュッセイア』に類似した家庭状況である。Herrera-Sobekはハラマンテと弟子との間で交わされる宇宙、神、倫理に関する長い弁証法的対話に古代ギリシャ哲学、特にソクラテスの影響を見る。ソクラテスの生きた時代のアテネは社会的無秩序の時代で、古い秩序がギリシアの生活を支配しており、より高い精神や道徳性を求めたソクラテスは、それを対話を通して弟子自らが結論を得るようにした。ハラマンタもまた、自らを知るためには、真の光を見えなくしている全てのものから解放され、真実を隠しているヴェールを自ら取り除くことが必要であると説く。

四季四部作において、居酒屋（キャンティナ）やリタの営む年中無休の食堂（コンシナ）は人々が政治や様々なことを話し、議論する重要な場となっている。『シャーマンの冬』では、居酒屋（キャンティナ）について人々の議論の場として次

のように語られる。「たばこで曇ったバーではいろいろな考えやとりとめもない話、哲学の話を交換し、歴史を再創造したり再分析することが続けられるだろう」(174)。リタの食堂も年中無休で美味しい料理を提供するため、階級を超えて人々が集まり、会話する。こうした人々の議論の場としての会話所がニューメキシコには伝統的にあったことが次のように語られる。

> プラティカは、フォーラムという口承伝統にあたるもので、最初にリオ・グランデ河流域に移住してきたヌエボ・メヒカの人たち同様古いものであった。一度会話が営まれるとサンディア山に寄り添って暮らすニューメキシコの人々は定住し、農を営み、羊と子供を育て、告解者として大地に骨を埋めた。
>
> プラティカは広場(アゴラ)のギリシア人同様古く、ヘブライ人によって物語が記録されるよりもずっと以前に、洪水や最後の男と女の物語を語ったシュメール人同様古くからある文化的儀式だった物語は電話やテレビよりも古いものだった。こうした口頭伝承は、デジタル化され、電話線や携帯の周波が、タオスからラス・クラス、チワワにまで、さらに、テハスの谷からはるばるリオ・グランデがメキシコ湾に注ぐブロンズヴィルまで、リオ・グランデ河流域を行きつ戻りつしても、生き残った。プラティカはあらゆる共同体の詩的精髄を人々に注ぎ込んだのだ。(『ヘメスの春』27)

サニーは、死んで霊となったドン・エリセオ老人との対話によって導かれ、また、宿敵レイヴンとも、武力で戦うというより対話による論戦になっている。レイヴンはサニーに対し「汝自身を知れ」(161)とソクラテスの有名な言葉まで述べるのである。さらにレイヴンは魔術師(ブルホ)でさまざまに人間や動物に変装し変幻自在にサニーの元に現われるが、サニーとレイブンは双子であると四季四部作のなかでも何度も言及され、彼らの間には「輪廻転生」(metempsychosis)があるとも語られる。

> 輪廻転生(metempsychosis)のようなことがあるなら、(中略)サニーとレイヴンは古代から双生児で、計り知れない長い年月をかけてやってきて、上昇するために互いに戦い、交互に上手になっていた。それはちょうど、文明が光を見たと思った時に、無垢な人を虐殺したり世界戦争の勃発が起こったり、あるいは、すさまじい恐怖と共にあるホロコーストがこの世に降りかかってくるようなものだ。(『ヘメスの春』161)

『ユリシーズ』でも、ギリシアへの憧れを至るところで見ることができる。若い学教教師スティーヴンは作者ジョイスの分身であり、友人に文学好きの医学生マリガンがいる。この二人の若者は、アーノルドの紹介するギリシアの異教精神に憧れ、キリスト教の伝統で鬱屈するアイルランドのギリシア化を唱える。イギリスの詩人・批評家マシュー・アーノルドは、ギリシア主義とは事物を如実に見ることが最高の観念で俗物主義を嫌い、意識の自発性がその支配的観念であると主張している。

スティーヴンは『若き芸術家の肖像』(*A Portrait of the Artist as Young Man,* 1916)の主人公

スティーヴン・ディーダラス（Stephen Dedalus）で、その名前はオウィディウスの『変身物語』（*Metamorphoses*）に登場する工匠ダイダロス（Daedalus）に由来する。ダイダロスは蝋で作った翼を発明し、息子のイーカロスと共に幽閉された塔から脱出を図るが、イーカロスは太陽に近づきすぎたために蝋がとけて墜落死する。ダイダラスは腕のたつ知恵者であるが、人間の傲慢さやテクノロジーを批判する神話とされている。ジョイスはギリシア神話をもとに、世俗を嫌うインテリであるスティーヴンをダイダラスに重ね、高卒の広告取りのブルームの寛大さと対比している。

ブルームはまたナルキッソスの水仙から、古代ギリシャ人を例にあげて「輪廻転生」（metempsychosis）の概念を説明し、「輪廻転生」して「木」に生まれ変わるギリシア人の物語を思い浮かべる。『シアの夏』（*Zia Summer,* 1995）はドン・エリセオ老人が老木に語りかける印象的な場面で始まるが、ジョイスやアナーヤの作品、ギリシア神話にはアニミズム的な思考の共通性をみることができる。また、『ユリシーズ』第四挿話でブルームはサーカス団が子供たちに施す過酷な訓練を想像し、それが引き起こす〈変身〉（metamorphosis）について考える。その後徐々に話は〈輪廻転生〉（metepsychosis）に変わっていき、生前とは違った姿で蘇った死者たちは、〈変身・転生〉して愛する者のもとを訪れるという話になる。

以上見て来たように、アナーヤとジョイスのギリシア精神への憧れは、登場人物たちのコスモポリタン的性格を形成し、アルバカーキやダブリンを、神話的な宇宙大の広がりを持った都市にしている。

３．夢、記憶、歴史

『シャーマンの冬』で登場人物は「歴史は征服者たちのものだ」（46）と言い、アメリカの歴史はイギリス人がプリマスに到着する 1620 年から始まっていると不満を述べる。プリマス到着以前には、アメリカ大陸は無人であったかのような扱いである。サニーの先祖、アンドレ・バカが隊長として参加したスペインのオニャーテ遠征軍は 1598 年にニューメキシコに到着し、イギリス人のプリマス到着よりも早いが、アメリカ史の中では無視されている。サニーの曾祖父エルフェゴ・バカはチカーノをアングロの横暴から守った実在の人物であるが、彼もまた歴史の中で抹殺されているとし、チカーノの英雄たちはアメリカ史の中で黙殺されているとサニーは憤る。『リオ・グランデの秋』（*Rio Grande Fall,* 1996）ではスペイン人はアステカ人が人食い人種だという作り話をでっち上げ、新たな宗教で人々を支配しようとしたと語られる。植民者は、現地人を人食い人種と貶めることで、自らの道徳性を正当化し、植民地支配を続けるが、まさに「歴史が征服者たちのもの」なのである。

レイヴンとサニーが戦うのがカミノ・レアルとルート 66 との交差するところであることも注意すべきである。王の道を意味するカミノ・レアルは、スペイン植民地当時、メキシコとカリフォル

ニアのスペイン人宣教師の布教所を結ぶ交易路であった。一方、ルート 66 はシカゴとカリフォルニア州サンタモニカを結ぶ大陸横断道路で、1984 年に廃線となるまで 59 年間アメリカの西部発展を促進した。アルバカーキはアメリカスの南北をつなぐ交易路とアメリカを東西に結ぶ道路との交差点に位置するのである。レイヴンとサニーの闘いは、アメリカとスペインによるニューメキシコの植民地支配を表象してもいる。

アナーヤが征服者によって作られた歴史を夢という神秘的な方法によって解体しようとしたことは、ドン・エリセオ老人の「夢は精神世界に入る方法であり、歴史へ入る方法でもある」(『シャーマンの冬』22) という言葉からも窺える。夢は記憶にも繋がっているが、記憶について次のように述べられている。

> しかし、魂の中に刻まれているのは、永遠である。記憶は頑丈な老女なのだ。その女は肉体の細胞の中に横たわり、奇妙な時に目覚め、嫌な記憶を頭に流し込む。
>
> 記憶はまたウエストメサの層崖にある火山石に彫り込まれたペトログリフ (岩面印刻) の中にも住んでいる。古代のシンボルはアナサジ文化の記憶であった。少数のプエブロ長老が物語をささやく。絵文字はシア・ストーンと呼ばれる小石の上に彫られていると言われている。その聖なるシンボルは統一された記号で、宇宙の神秘、命の意味を明らかにするものであった。それはずっと昔に先祖に与えられた。
>
> シアストーンを求めてサニーとドン・エリセオ老人は風の行きかうメサと渓谷に古代アナサジ文化の生息地を探検した。(中略) 彼らは命、宇宙の統一された論理に対する答えを持っている象形文字を探した。(中略) サニーは老人に従って夢の世界に入った。彼は冬のシャーマンとなり、彼の夢を作りだすことのできる魔法使い (ブルホ) になった。何のために？レイヴンに会うために。彼はいつもそこでいつも、待っていた。(『ヘメスの春』8)

サニーはペテログリフ国定公園に行って、火山岩に書かれた先住民の絵を見たり、再開発のために土地が掘り起こされて、予言の石であるシア・ストーンが永遠になくなることを憂う。ソローは『ウォルデン』(*Walden*, 1854) で先住民の遺物を掘り起こし、そこから自然と一体化した人々の別の歴史があることを発見しているが、アナーヤもアングロとは別の歴史があることを訴えているのである。

ジョイスもまたアナーヤ同様に植民地支配者によって与えられた歴史についての異議申し立てをしている。スティーヴンは、古代ローマ史と 17 世紀イギリス史を教える学校教師であるが、彼は、第二挿話で、歴史とは「物語」であり、現実とは様々な可能性の中から選び取られた物語の中の一つであり、「歴史とは(中略)僕がなんとか目を覚ましたいと思っている夢なんです」と言う。彼が「目を覚ましたいと思っている」悪夢とはアイルランドの植民地支配の歴史であろう。

第一挿話では、スティーヴンは、イギリス人のヘインズを征服者、ヘインズを塔に引き入れるマ

リガンを謀反人と呼び、アイルランドを「両方になぶられる寝取られ女」に捉える。興味深いのは、スティーヴンが第一四挿話で「不義の妻、それがおれたちのあらゆる不幸の原因さ」と、女性に植民地支配の原因を求めることである。ここには、コルテスの妾となって子供までもうけたマリンチョを民族の裏切り者と批判するチカーノとの共通性を見ることができる。サニーの始祖をスペイン人隊長と先住民女性としたアナーヤには、コルテスとマリンチョが念頭にあることは明らかで、混血であるチカーノの複雑性が現われている。

スティーヴンの勤める学校の校長ディジーは次のように言う。「われわれはたくさんの過ちやたくさんの罪を犯しましたよ。一人の女がこの世に罪を持ち込んだせいでね。（中略）一人の不実な女がこの我々の土地によそ者を引き入れた。マクマローの妻と、その情夫ブレフニーの領主オロークがね。一人の女がパーネルを失脚させもした。」（第二挿話）19 世紀に国民から人気のあったパーネルと不倫関係にあった女性の存在によってパーネルが失脚したことは事実であるが、先述したように、イギリスを引き入れたのは、マクマローの妻ではなく、夫のマクマローである。インテリであるはずの校長の間違いや男尊女卑の思考に、ジョイスの知識人に対する風刺をみることができる。

スティーヴンが脱出願望を抱くのは、アイルランドが「悪夢としての歴史」に苛まれているからであるのに対し、ブルームが帰属願望を抱くのは「歴史は反復とともに変化」を伴っているからである。スティーヴンは単一の視点を求め、ブルームは多様な視点を包摂している。道木が指摘するように、ブルームはユダヤ人としてダブリン社会の周縁に立つアウトサイダーとなり、彼の視線がそこに暮らす人々への理想的なコメンテーターとして働く。道木はまた、彼は新しい女らしい男として、型破りなヒーローとして登場し、女性や文化的逸脱者に限定された社会的言説の周縁部に存在するとも述べる。ブルームは平凡な人間で、孤独をかみしめながら、優しい眼差しで人生を見つめ、他者に同情を寄せる。ジョイスの求める理想的人物はブルーム夫妻であろう。（道木 144）

ジョイスは混乱に満ちた現代史を、狭いナショナリズムを超えた、広大な展望と寛容さをもつコスモポリタン的思想によって乗り越え、英語でさまざまな実験的手法を駆使して、イギリス英語の特権性を剥奪した。

４．『ユリシーズ』のパラダイムをアメリカ化する

これまで見てきたように、アイルランドとアメリカ南西部の歴史と社会がイギリスとアメリカという帝国主義国家の植民地支配の中で生まれたため、両地域は多くの共通性を持ち、両社会が親和性をもつことは明らかである。ジョイスから創作のイマジネーションを得たアナーヤは、『ユリシーズ』の壮大なパラダイムを、『ヘメスの春』でアメリカ南西部に移植した。両作品は、英米への強い対抗意識から生まれたが、ナショナリズムを超越してコスモポリタンに向かおうとする革新性を有している。

しかし、両者のコスモポリタン性には大きな違いがある。ジョイスは根無し草として外部からダブリンを見つめたのに対し、アナーヤは故郷に定住して、白いアメリカと対峙した。こうした両者の違いは現実を見るということに伺うことができよう。この両作品の大きな違いは、オデュッセウスの帰還をイタカの屋敷で待ち続けた忠実な飼い犬アルゴスに対応する犬の存在の有無に現れている。『ユリシーズ』には愛犬は登場しないが、『ヘメスの春』ではサニーの愛犬チカが登場し、チカは「現実を見る」という点で大きな役割を担う。

『シャーマンの冬』で冬至の日に、悪夢の中で、レイヴンによって左目を抉られたチカは、『ヘメスの春』では、サニーが表層の下に隠されている真実を見ることができるようになって事件を解決するや、その両目が開く。ドン・エリセオ老人はサニーに「表面の下に真実は隠されている」と教えるが、サニーが表面の下に隠された真実を「見る」ことができるようになり、それはチカの片目の開眼で象徴的に表されている。

「片目」についてもサニーはエジプト神話でホルスがおじのセスに片目を切り取られた話から目の持つ魔力を語ったり、オデュッセウスが片目の巨人ポリュペーモスの目を潰した話をする。

> 視力について昔の物語ではいろいろな言及がされたがまだ殆どの人は半分眠ったままで、片目の人間が真実、人生の目的、意味を探しているとサニーは思った。南西部の火山の噴火による溶岩に覆われた広大な不毛地帯を夢遊病者のように歩くのだ。意識のないままに。なぜだ。もし意識がなければ痛みもさほど感じないからだと彼は思った。
>
> そうだ、その通りだ。我々は痛みを感じたくないのだ。人間は片方のいい目だけで生きていくことができ、片目のポリュペーモスのような普通の生活を送ることができる。オデュッセウスがやって来て、片目に棒を差し込む迄は。レイヴンはサニーの心に杭を打ち込んだ。(『ヘメスの春』3)

サニーは普通の人が見ているのは表面だけで、現実だと思うその下を「見る」ことが重要で、新しい種類の視力を発展させなければならないという。アナーヤは、生と死、過去と現在、現実と幻の融合するマジック・リアリズムの世界を展開しながら、四季の冒険を通して、南西部の歴史と文化を提示した。アナーヤはこうして「現実」の意味を問うているが、ラテン・アメリカ文学に通じるこうした神秘性がジョイスとの大きな違いであろう。

結末で、サニーはリタの元に帰還し、ニューメキシコの春を喜ぶ。

> 春の夜は愛と愛のミューズのためのものだった。リタはサニーの腕のなかで温かさに包まれ、サニーは彼女のすやすや眠る息の音を聞くことができた。彼は、彼女が夢のなかで、おそらくリンゴの木に水をやるヘメスにおり、チカが飛び回るコマドリを追っているのだろうと思った。(『春』297)

翌朝、愛犬チカの鳴き声で目を覚ましたサニーが窓の外を覗くと、まばゆい太陽の光のなかで、

ドン・エリセオ老人が立って畑仕事をし、彼の双子の娘達が、チカを追いかけている。この幻想的な光景を見たサニーは太陽に祈り、太陽の元で生きる平和と調和を感じ、彼は再びリタの待つベッドに戻って物語は終わる。

林は、この作品の主人公は太陽のミステリーを解決する太陽の子サニーではなく、四季の一年、特に、3 月 21 日、春分の日一日が主人公であり、サニーの存在はコスモロジーの風景の一点景なのであると論じる。太陽信仰のあるアストラン神話を信奉するチカーノらしく、人々に「太陽の道」を歩むことを切望して作品は終わるのである。

アナーヤの場合、『ウルティマ、ぼくに大地の教えを』（*Bless Me, Ultima*, 1972）に登場する黄金の鯉から、『ヘメスの春』におけるチカーノ創生神話に繋がる亀へと土着のイメージを掲げ、チカーノの人々に故郷を喚起している。土着のものや四季のサイクルが表象する人道主義や自然の恵みを提示することによって、アナーヤは自然の搾取の上に成立するアメリカ資本主義への対抗言説を構築した。彼はアメリカ資本主義社会の軽佻浮薄な文化を否定し、現実の下の真実を見抜く目を養うことを訴える。

チカーノの英雄たちが国家的物語から排除されてきたなかで、アナーヤはアメリカ南西部をアイルランドという植民地支配を経験した国家の物語としての『ユリシーズ』や、ギリシア・エジプト神話に併置し、アメリカ南西部の閉鎖的空間を環大西洋を跨いだ空間へと開いていこうとした。

引用参考文献

Anaya, Rudolfo. “Aztlan: A homeland Without Boundries”, *Aztlan: Essays on the Chicano Homeland,* Albuqueque: U. of New Mexico P, 1989, 230-241.

——. *Jalamanta*: *A Message From The Desert*, 1996.

——. *Jemez Spring*, Alburqueque: U of New Mexico P, 2005.

——. *Shaman Winter*, New York: Warner, 1999.

——. *Zia Summer*, Albuquerque: U of New Mexico P, 1995.

Cheng, Vincent J. *Joyce, Race and Empire,* NY: Cambridge UP, 1995.

Herrera-Sobek, Maria. “The Nature of Jalamanta: Religious, Philosophical, Spiritual, and Political Interconnections in Rudolfo Anaya’s Ecological Novel, ” *The Forked Juniper*, Edited by Robert Cantu, Norman: U of Oklahoma P, 2016.

Joyce, James. *Ulysses*, Edited by Hans Walter Gabler et. Al. Vintage, 1986. 『ユリシーズⅠ～Ⅳ』丸谷才一・永川玲二・高松雄一訳、東京：集英社、2003 年。

Weber, D. J.(ed). *New Spain’s Far Northern Frontier,* Albuquerque: U of New Mexico P, 1979.

アンサルドゥーア，グローリア「野生の舌を飼い馴らすには」菅啓次郎訳『世界文学のフロンティ

ア　旅のはざま』，東京：岩波書店、1996 年，187-209。
今福龍太『ハーフ・ブリード』，東京：河出書房新社，2017 年。
大井邦明・加茂雄三『ラテンアメリカ（地域からの世界史)』，東京：朝日新聞社，1992 年。
鈴木聡「訳者あとがき」テリー・イーグルトン著，鈴木聡訳『表象のアイルランド』，東京：紀伊國屋書店、1997 年，591-98.
林康次「アメリカスにおけるローカリズム，旧南西部と南西部――フォークナーとアナーヤの〈帰郷〉物語をめぐって――」『地域創世研究年報』第 2 号，愛媛大学地域創成センター，2007 年。
松井道昭「ヨーロッパ史における普遍主義」
file:///C:/Users/mizuno%20atsuko/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/3E7U9S7J/universalism_1.pdf
道木一弘『物語りの『ユリシーズ』，東京：南雲堂，2009 年。
余田真也『アメリカ・インディアン・文学地図』，東京：彩流社，2012 年。
結城英雄『ジョイスを読む――20 世紀最大の言葉の魔術師』，東京：集英社新書，2004 年。

〈ノート〉

普通小麦澱粉とモチ小麦澱粉の混合物のRVA粘度特性に対するPC及びLPCの影響

石永　正隆，泉　貴子
食物栄養学科

要　約

モチ小麦澱粉と普通小麦澱粉の混合物は，RVA粘度曲線でモチ小麦澱粉と普通小麦澱粉に由来する2つのピークを示した。リゾホスファチジルコリンはモチ小麦澱粉と普通小麦澱粉の粘度上昇開始時間（OT）とピーク時間（PT）を長くし，ピーク粘度（PV）を減少させた。モチ小麦澱粉に対しては，恐らく普通小麦澱粉のアミロースを介しての影響と考えられた。ホスファチジルコリンは普通小麦澱粉のPTやPVに影響を与えたが，モチ小麦澱粉に対してはOTには全く影響を与えず，PTが少し延び，PVがやや増加した。これは単に普通小麦澱粉の粘度が加算された結果と考えられた。

緒　言

これまで各種澱粉を2種類混合し，物理化学的特性について多くの研究がなされている[1-6]。小麦澱粉については，佐々木らは，普通小麦澱粉（NS; Native Starch）とモチ小麦澱粉（WS; Waxy Starch）の混合物に関する研究を[7-9]，Hansenらはアミロース含量の異なる小麦澱粉の混合物に関する研究を報告している[10]。

我々は既に，NSの内因性のリゾホスファチジルコリン（LPC）量やその脂肪酸組成が糊化過程によって変化すること[11,12]，外因性のLPC及びホスファチジルコリン（PC）はNSの粘度上昇開始温度や最高粘度に対して相反する影響を与えるが、モチ小麦澱粉の粘度特性に対しては殆ど影響を与えないことを明らかにしてきた[13,14]。

一方，PCを主としたレシチンがパンを初めとして多くの小麦粉を材料とした商品に使われている[15,16]。従って，NSとWSの混合物の粘度特性に対する外因性のLPCやPCの影響を調べることは，モチ小麦利用の一助になると思われる。

実験方法

NSは長田産業から供与された。モチ小麦粉もち姫は青森県立保健大学藤田修三教授より供与さ

れ，Kim & Seib の方法により WS を調製した[17]。NS と WS の水分，蛋白質，炭水化物，脂質等の成分値は既報の通りであり，NS と WS のアミロース含量はそれぞれ 28.9% と 3.8% であった[13]。キューピーファインケミカル（キューピー（株））より LPC-1 及び PC-98N（いずれも卵黄由来，純度 98% 以上）を購入した。LPC 及び PC 溶液の調製は既報に従って調製した[13]。

ラピッドビスコアナライザー（RVA:Rapid Visco Analyzer）による粘度測定は，既に述べた方法で行った[11,12]。すなわち, TecMaster, Perten Instruments AB（ Hägersten, Sweden)社製を用い，専用のアルミ製サンプル容器（キャニスター）に水あるいはリン脂質分散液 26g と澱粉試料 4g（乾燥重量で 11.6%，WS と NS の総量が 4g）を混合し，試料を調製した。キャニスターに秤取った後，両者が均一に混合されるように 3-4 分間スパーテルで十分に撹拌し，機器にセットし RVA 測定を開始した。粘度上昇開始時間及び温度を OT 及び OTemp（onset time and temperature of the initial rapid increase in paste viscosity)とし, 2 RVU/4-sec sampling time を目安とした[18]。ピーク粘度，時間及び温度をそれぞれ PV（Peak Viscosity)，PT（Peak Time）及び PTemp（Peak Temperature)とし, 最終粘度を FV(Final Viscosity)とした。PV1 と PV2 の間の最低粘度(Trough Viscosity）の時間を TT とした。

結果および考察

1．WS と NS の混合物の RVA 粘度曲線

Fig. 1 は澱粉量を 4g に固定し，WS と NS の量をそれぞれ変化させた RVA 粘度曲線を示したものである。既に佐々木らが明らかにしたように[7-9]，混合澱粉では，それぞれの澱粉粒の糊化が別個に進行した考えられるピーク粘度（PV1, PV2）を示した。ただ，相互に干渉しあって WS の OT や PV1 に達する時間 (PT1) はやや長くなり, NS の PT2 はやや短くなった (Fig. 1 , Table 1)。NS の OT がどの程度影響受けたか，粘度曲線が重なっているので不明であるが，PV1 と PV2 間の TT が短縮しているので，OT も短縮しているものと思われる。このような現象は佐々木らの報告と一致する[7-9]。この要因としては，佐々木ら推測しているように，アミロースと澱粉粒や両澱粉粒間の相互作用[7-9] の関与が大きいかもしれない。例えば，NS 粒からのアミロースの溶出が WS によって促進されるとか，NS 粒が WS 粒を取り囲むような状況になり，WS 粒の吸水が抑制されている可能性が考えられる。これらの影響を受けて WS の OT が NS の割合が増加するにつれて長くなったのかもしれない（NS 0g：10.5 min，62.1 ℃，NS 3.5g：11.4 min，65.6 ℃）（Table 1)。

一方，FV は NS の量が増えるに伴い，つまり冷却中にゲル形成に関与するアミロース含量が増加するにつれて高くなった[7-9]。つまり，FV は NS が 0g の時 167 RVU であったが，3.5g に増加すると 430 RVU となり，NS 単独の場合の 500 RVU に近づいた（Table 1)。

上記に示したように，小麦澱粉では，NS と WS の種々の量の混合物では，どちらかが極端に少

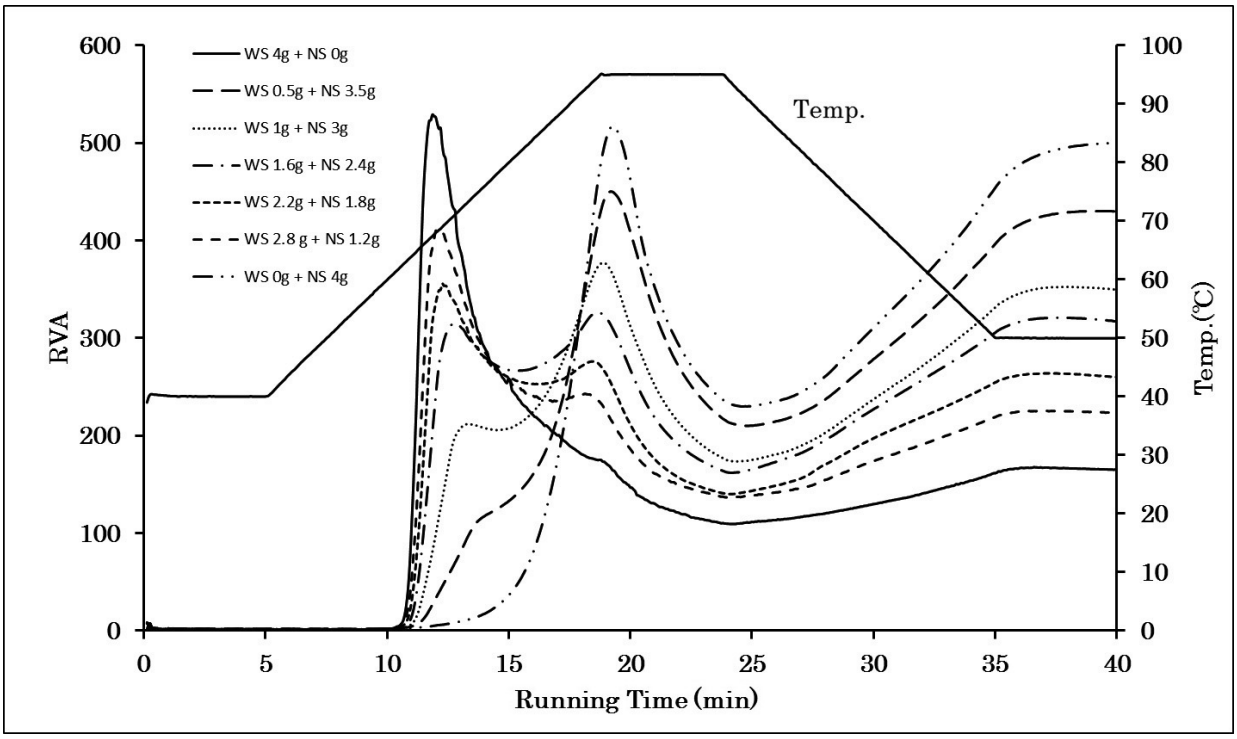

Fig. 1. Pasting Profiles of mixed starches of Native and Waxy Wheat starches

The starch water suspension contained 4 g (11.6%, db) of mixed starches (native and waxy wheat starches) in 26 g of water. The starch suspension was stirred at 960 rpm for 10 s and then maintained at 160 rpm during the subsequent heating and cooling cycle. The starch suspension was stirred at 40 for 5 min, and subsequently heated to 95℃ at a heating rate of 4℃ /min, held at 95℃ for 5 min, cooled at a constant rate (4℃ /min) to 50℃ , and held at 50℃ for 5 min.[11,12)]

Table 1. RVA Pasting Properties of Starch Mixtures of Native and Waxy Wheat syarches

Waxy(g)	Nonwaxy(g)	OT* Time(min)	OTemp ℃	PT1 Time(min)	PTemp ℃	PV1 RVU	TT Time(min)	PT2 Time(min)	PV2 RVU	FV RVU
4	0	10.5	62.1	11.9	67.4	529				167
2.8	1.2	10.6	62.3	12.1	68.2	412	17.1**	18.1	243	223
2.2	1.8	10.7	62.6	12.3	69	356	15.9	18.5	276	260
1.6	2.4	10.9	63.4	12.8	71.1	315	15.3	18.7	326	319
1	3	11.1	64.2	13.3	73.3	212	14.6	18.9	377	350
0.5	3.5	11.4	65.6	13.8	75.1	113	14.5	19.2	450	430
0	4	14.9	79.4					19.3	517	500

*:OT and Otemp:onset time and temperature of the initial rapid increase in past viscosity (2RVU/4-sec sampling time)
PT1 and PT2:the time of the first peak and second peak
Ptemp:the temperature of the first peak
PV1 and PV2:the viscosity of the first peak and second peak
TT:the time of trough (minimum viscosity between first and second peak viscosities)
FV:final viscosity

ない場合を除き，はっきりと２つのピーク粘度が測定されたが（Fig. 1），米澱粉やトウモロコシ澱粉では小麦澱粉ほどはっきり分離していない[3,4]。澱粉粒間の大きさ・形・澱粉粒内の結晶構造の違いあるいは，澱粉粒間や漏出したアミロースともう一方の澱粉粒との相互作用などが影響していると考えられている[1,7-9]。

WS と NS の混合物の RVA 粘度特性に対する LPC と PC の影響を調べるために，混合物の量は，大体同じピーク粘度与える量，つまり WS を 1.6 g，NS を 2.4 g とした（Fig. 1）。

２．LPC の WS-NS 混合物の RVA 粘度曲線に対する影響

Fig.2 から明らかなように LPC 添加は WS と NS の粘度曲線に影響を与えた。ただ，WS の OT は LPC の添加の有無にかかわらず 10.9 min（63.4 ～ 63.7 ℃）で（Table 2），単独の場合と同様に影響はなかった[13]。しかし，WS 由来の PT1 は無添加の 12.8 min（71.1 ℃）から 1.3%LPC 添加の 13.3 min（73.3 ℃）まで延びた。同時に WS 由来のピーク粘度（PV1）も無添加の 315 RVU に比べて，0.08% LPC 添加では 195 RVU，1.3% LPC 添加では 121 RVU とそれぞれ 62 %及び 38 % に抑制された。僅かのアミロース（3.8 %）を含む WS の粘度特性は，LPC によって全く影響を受けなかったので[13]，NS 粒から溶出した多量のアミロースと LPC の複合体が形成され[19,20]，この複合体が WS 粒の OT 以降の吸水・膨潤を抑制し，粘度上昇も抑制されたと考えられた。つまり，澱粉粒表面でアミロース LPC 複合体形成が水の澱粉粒内への浸入を抑制するので[13,19,20]，この複合体を表面に有する NS 粒が WS 粒との相互作用で，WS 粒の吸水・膨潤を抑制したとも考えられる。なぜ OT が影響を受けず、OT 以降に影響を受けたか。その理由の一つとして，アミロースと LPC の相互作用が時間的にズレが生じたためなのかもしれない。

WS 粒の崩壊とともに NS 粒の粘度が上昇しているのでどの時点が NS の OT か不明であるが，単独の場合，LPC 添加で OT は無添加の 14.8 min より長くなることが知られているので[13,20]，混合物の場合も，LPC 添加で同様の現象が起きていると考えられる。これは，TT が無添加の 15.3 min から，1.3% LPC 添加の 17.9 min まで長くなったことからもわかる（Table 2）。

また，NS 粒由来の PV2 も 0.08% LPC で 264 RVU 及び 1.3% LPC で 103 RVU と単独の澱粉の場合と同様に LPC 添加濃度依存的に抑制され，かつ PT2 も無添加の 18.7 min から 1.3% LPC 添加で 24.5 min に延びた。しかも，0.33 及び 1.3% LPC では NS 粒の PV2 は，ピーク粘度として観察されるか否かぐらいであり，LPC とアミロース複合体により，NS 粒の崩壊がかなり抑制されていた[19,20]。一方，0.08% LPC では，NS 粒由来の高い PV2 が見られたが，単独の場合のように，無添加と同程度のピーク粘度を示さなかった[13]。恐らく，崩壊していない WS 粒やアミロース -LPC 複合体との相互作用が NS 粒の吸水・膨潤に影響を与えていると考えられた。

1.3% LPC 添加では，単独の NS 粒の場合，吸水・膨潤はなく，RVA 測定時の冷却段階において

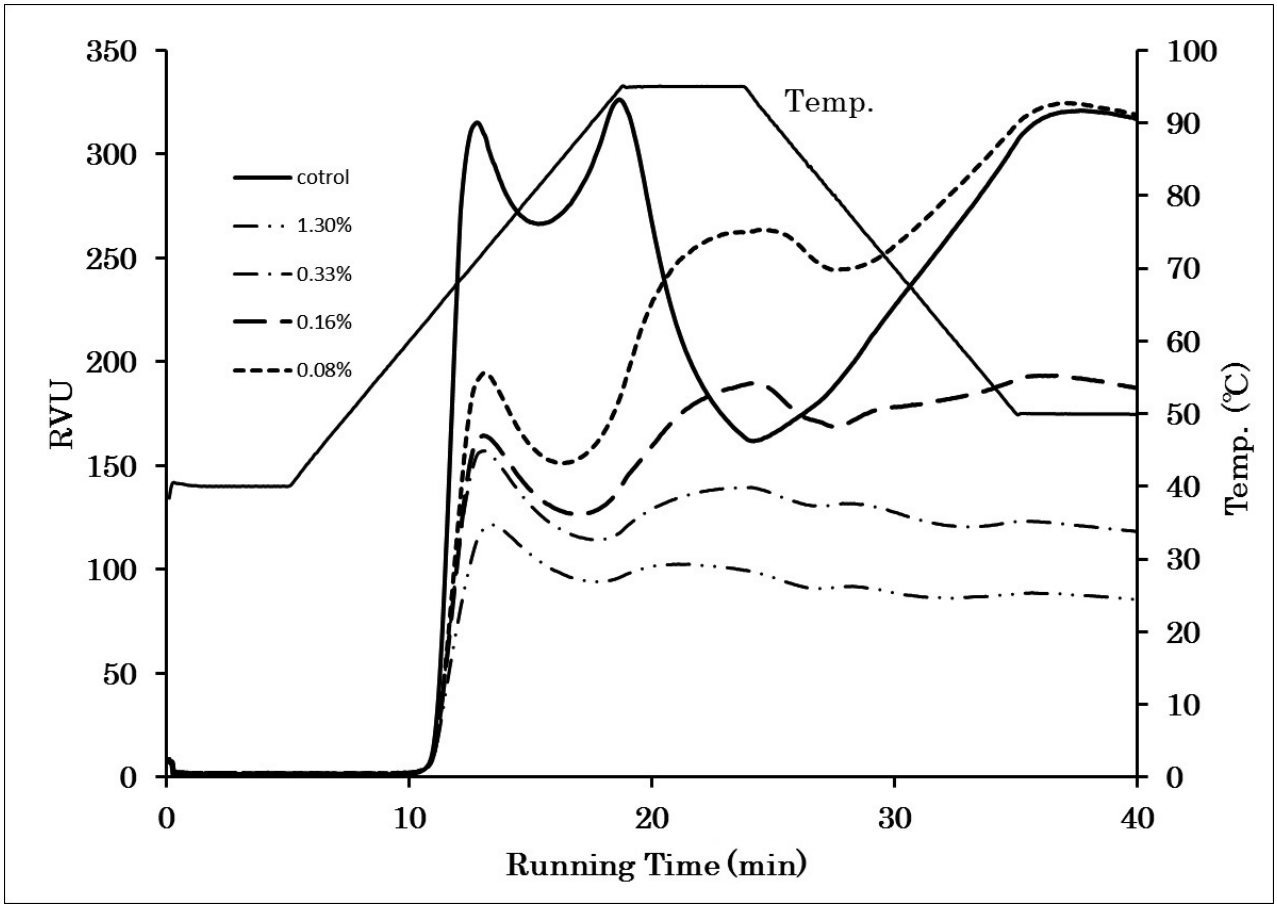

Fig.2　Effect of various concentration of LPC on pasting profiles of mixed starches of Native and Waxy Wheat starches

See legends of Fig. 1. The starch water suspension contained 4 g (11.6%, db) of mixed starches (2.4g of native and 1.6g waxy wheat starches) in 26 g of LPC dispersed water.

Table 2. Efects of LPC on RVA Pasting Properties of Starch mixture Native and Waxy Wheat Starches*

LPC % (w/w)	OT** Time(min)	OTemp ℃	PT1 Time(min)	PTemp ℃	PV1 RVU	TT Time(min)	PT2 Time(min)	PV2 RVU	FV RVU
control	10.9	63.4	12.8	71.1	315	15.3	18.7	326	319
0.08	10.9	63.7	13.2	72.4	195	16.4	24.5	264	320
0.16	10.9	63.7	13.1	72.2	165	16.9	24.4	190	188
0.33	10.9	63.7	13.1	72.2	157	17.7	24.1	140	119
1.30	10.9	63.7	13.3	73.3	121	17.9	21.1	103	86

* The starch mixture compsed 2.6g of native and 1.4g of waxy wheat
** See legend of Table 1.

もほとんど粘度上昇は観察されないが[13]，混合物の場合は一定の FV が観察された（Fig. 2）。これは，幾らか吸水・膨潤した WS 粒と崩壊した WS との混合物によると推測された。0.08% LPC 添加の場合，FV はかなり増加し，無添加と同じ 320 RVU であった。これは NS 単独の場合にも見られたようにアミロースやアミロペクチンと LPC モノマーが緩やかな包接化合物を形成して凝

集し，温度低下と共にネットワーク形成が促進され，これが強固なゲル化を促進したためと考えられた[13]。しかし，上記に述べたように混合物の場合は無添加の場合のFVより上昇することは無かった。これは，既報の場合[13]よりNSの量（4 gから2.6 gに減少）に対するLPC量が高かったためと考えられた。

3．PCのWS-NS混合物のRVA粘度曲線に対する影響

WS単独の場合と同様に[13] WSとNSとの混合物においても，PC添加はWS粒のOTにほとんど影響は与えず，無添加の10.9 min（63.4 ℃）とほぼ同じで10. 7 ～ 10.8 min（62.8 ～ 63.1 ℃）であった（Fig. 3, Table 3）。PT1は無添加で12.8 min（71.1 ℃）だったが，1.3% PCの場合は13.1 min（72.5 ℃）で幾らか影響があった。一方，PV1はPC添加濃度依存的に増大した。NS粒の粘度上昇開始がどの時点から始まっているか不明であるが，NS単独の場合，PCはOTを短縮させているので，混合物の場合もそれを反映して，PV1とPV2間のTTがPC添加濃度依存的に短縮している。単独の場合と同様にNS粒のPV2はPC添加量の増加とともに増大し（326 RVUから417 RVU），PT2は逆に短くなった（18.7 minから16 min）。しかしながら，Fig.3からわかるようにWSの粘度曲線は添加PC濃度に関係無くPV1直前までほとんど同じであった。PV1が高くなりPT1が長くなったのは，NS粒の粘度が加算された結果によると考えられた。

PCがNSのOTやPVに影響を与える理由について，既報[13]では，PCとNS粒の表面との間に相互作用が生じ，その澱粉粒からのアミロースの溶出を防ぎ，一方では水の吸収を抑制せず，かえって浸透圧の差を生じさせ，水の吸収が促進されていると推測した。混合物の場合，Fig. 1とTable 1から解るようにNSの量が増えるとWS粒のOTやPT1は延びた。これは上述したようにNS粒からのアミロースの溶出が関与していると推測した。しかし，上述したようにPC添加の濃度に係わらず，PV1直前までの粘度曲線がほとんど同じであったことから，PCとアミロースの相互作用が，WS粒の吸水・膨潤に対して影響を及ぼすことはほとんど無いと推測された。

FVに関しては，高濃度の1.3% PC添加で，他の濃度より10 – 30 RVU高かった（Fig. 3, Table 3）。ゲルがPCによって強くさせられたというより，RVA測定において，温度が95 ℃から50 ℃に低下するときに，糊液中で液晶状態のPCの分子運動が低下したことに起因するのかもしれない。

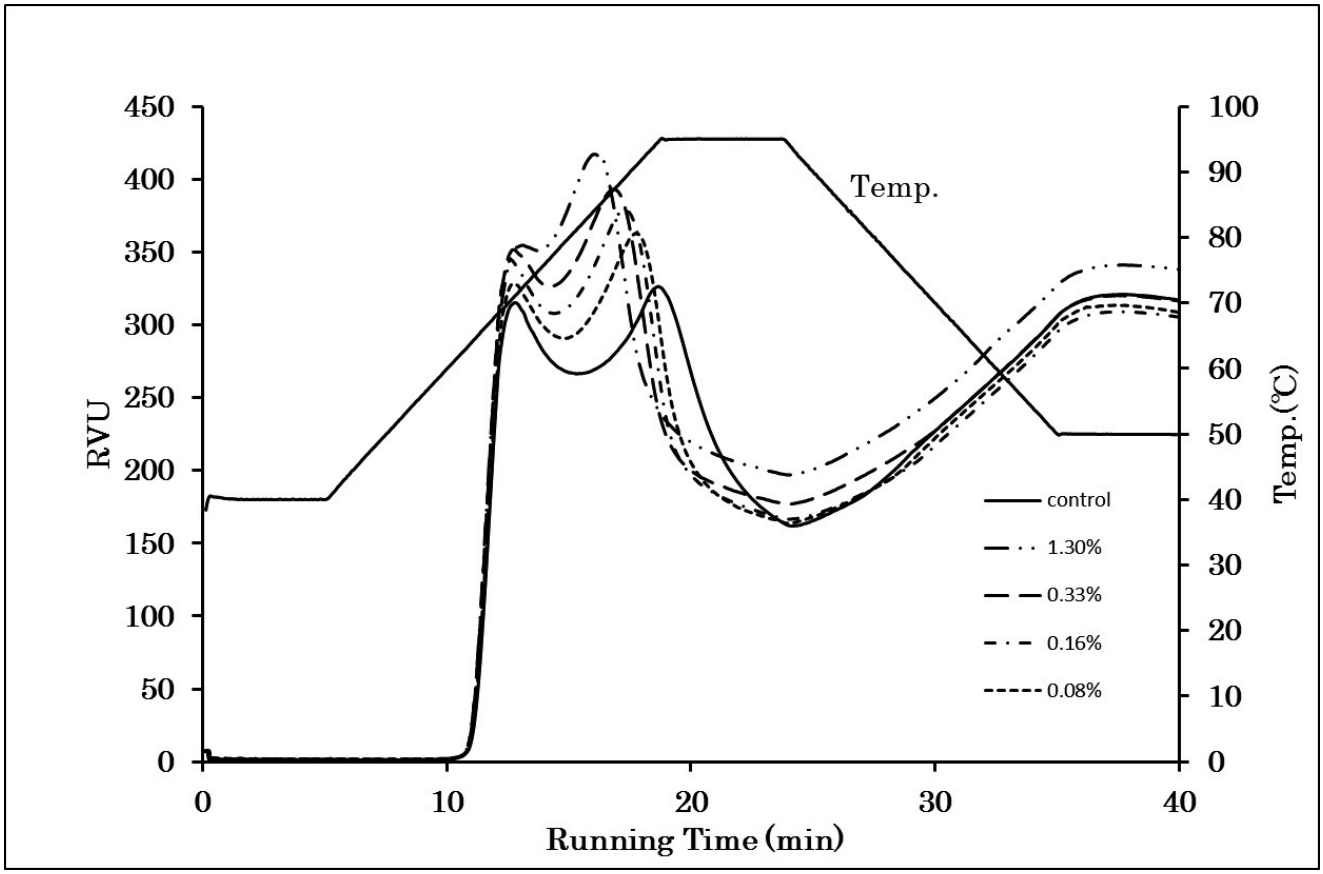

Fig.3　Effect of various concentration of PC on pasting profiles of mixed starches of Native and Waxy Wheat starches

See legends of Fig. 1. The starch water suspension contained 4 g (11.6%, db) of mixed starches (2.4g of native and 1.6g waxy wheat starches) in 26 g of PC dispersed water.

Table 3. Efects of PC on RVA Pasting Properties of Starch mixture Native and Waxy Wheat Starches*

PC % (w/w)	OT** Time(min)	OTemp ℃	PT1 Time(min)	PTemp ℃	PV1 RVU	TT Time(min)	PT2 Time(min)	PV2 RVU	FV RVU
control	10.9	63.4	12.8	71.1	315	15.3	18.7	326	319
0.08	10.8	63.1	12.7	70.9	328	14.9	17.7	363	310
0.16	10.7	62.8	12.6	70.3	345	14.4	17.3	379	307
0.33	10.7	62.8	12.7	70.9	352	14.2	16.9	393	318
1.30	10.7	62.8	13.1	72.5	355	13.7	16	417	340

*,** See legend of Table 2.

以上の結果から，モチ小麦澱粉とウルチ小麦澱粉の混合物に対するLPCやPCの影響は，ウルチ澱粉への影響があり，その影響を受けてモチ小麦澱粉のPVやPTが影響を受けることが解った。この結果は，モチ小麦澱粉の今後の利用に際して貴重な知見を提供するものである。

本研究の一部は科学研究費補助金基盤研究C（24500961）の助成を受けたものである。小麦澱

粉をご提供いただいた（株）長田産業様及びモチ小麦粉モチ姫をご提供いただきました青森保健県立大学教授藤田修三教授にお礼申し上げます。

文　献

1）Obanni , M. & Bemiller, J. N. (1997). Properties of Some Starch Blends. *Cereal Chem*., 74: 431-436.

2）Ortega-Ojeda, F. E. & Eliasson, A. C. (2001). Gelatinisation and retrogradation behaviour of some starch mixtures. *Starke*, 53: 520-529.

3）Zhu, F. & Corke, H. (2011). Gelatinization, pasting, and gelling properties of sweetpotato and wheat starch blends. *Cereal Chem*., 88: 302-309.

4）Lin, J.-H., Kao, W.-T., Tsai, Y.-Che, Chang & Y.-Ho. (2013). Effect of granular characteristics on pasting properties of starch blends. *Carbohydrate Polymers*, 98: 1553-1560.

5）Waterschoot, J., Gomand, S. V., Fierens, E. & Delcour, J. A. (2015). Starch blends and their physicochemical properties. *Starch*, 67: 1-13.

6）Fonseca-Florido, H.A., Castro-Rosas, J., Hernández-Hernández, E., Mata-Padilla, J.M., Velazquez, G., Ávila-Orta, C.A., Rodríguez-Hernández, A.I. & Gomez-Aldapa, C.A. (2017). Structural properties of waxy corn and potato starch blends in excess water. I*nt. J. Food Properties*, 20:sup1, S353-S365.

7）Sasaki, T., Yasui & Matsuki, J. (2000). Effect of amylose content on gelatinization, retrogradation, and pasting properties of starches from waxy and nonwaxy wheat and their F1 seeds. *Cereal Chem*., 77: 58-63.

8）佐々木朋子 (2003). 食糧その科学と技術 , 41:89-103.

9）Sasaki, T., Yasui, T.,M atsuki,J.. & Satake, T. (2002). Rheological properties of mixed gels using waxy and non-waxy wheat starch. *Starch*, 54: 410-414.

10）Hansen, L.E., Jackson, D.S., Wehling, R.L., Wilson J.D. and Graybosch, R.A. (2010). Functionality of native tetraploid wheat starches: Effects of *waxy* loci alleles and amylose concentration in blends. *J. Cereal* Sci., 52 : 39-45.

11）Ishinaga, M., Ueda, A., Matsunaka, C. & Tamura, M. (2011). Distribution of starch lysophosphatidylcholine in pasting and gelation of wheat starch suspensions. *Food Sci.Tech. Res*., 17: 311-318.

12）塩田（原田）良子，石永正隆，釘宮正往，杉山寿美 (2015). 小麦澱粉のリゾレシチンの存在形

態 . 日本食品科学工学会誌 , 62: 159-164.

13）石永正隆，塩田（原田）良子，松本茜 . 杉山寿美 （2016）. A- 及び B-type 小麦澱粉とモチ小麦澱粉の RVA 粘度特性に対する LPC と PC の影響 . 山陽女子短期大学紀要 , 37: 10-23.

14）石永正隆, 松本茜, 杉山寿美（2017）. 小麦澱粉のRVA粘度特性に対するLPC-PC混合物の影響. 山陽女子短期大学紀要 , 38:1-13.

15）武山進一 , 笹島正彦 , 関村照吉 , 遠山良（2002）. 冷麺の茹で伸び防止の検討 . 岩手県工業技術センター研究報告 , 9:177-180.

16）濱口展年（2012）. 大豆レシチンの種類と使い方 . 月刊フードケミカ , ル 2: 51-56.

17）Kim, H.-S. & Huber, K. C.（2008）. Channels within soft wheat starch A- and B-type granules. *J. Cereal Sci*., 48: 159–172.

18）Zeng, M., Morris, C, F., Batey, I. L. & Wrigley,C.W.（1997）. Sources of variation for starch gelatinization, pasting, and gelation properties in wheat. *Cereal Chem*., 74: 63–71.

19）Putseys, J. A., Derde, L. J., Lamberts, L., Östman, E., Björck, I. M., & Delcour, J. A.（2010）. Functionality of short chain amylose–lipid complexes in starch-water systems and their impact on in vitro starch degradation. *J. Agric. Food Chem*., 58: 1939–1945.

20）Ahmadi-Abhari, S., Woortman, A. J. J., Hamerc, R. J., Oudhuis, A. A. C. M. & Loos, K.（2013）. Influence of lysophosphatidylcholine on the gelation of diluted wheat starch suspension. *Carbohydr. Polym*., 93: 224-23.

Effects of LPC and PC on the Pasting Properties of Mixed starches of Normal and Waxy wheat

Masataka Ishinaga and Takako Izumi

Department of Food and Nutrition, Sanyo Women's College

Summary

Mixed starches of waxy (WS) and non-waxy (NS) wheat produced two peaks in RVA profiles; the first originated from WS wheat and the second from NS wheat. LPC lengthened the onset time (OT) of the initial rapid increase in paste viscosity and peak time (PT) and markedly lowered the peak viscosity of WS and NS wheat in the mixed starches. The effect of LPC on WS wheat was mediated by amylose from the NS wheat. PC shortened the PT and increased the peak viscosity (PV) of NS wheat in the mixed starches. However, PC had no effect on the OT of WS wheat in the mixed starches but slightly increased the PT and PV. These effects appear to be due to the additive effect of the viscosity of NS wheat.

（報告）

ルバーブを活用した低糖度ルバーブソースの開発と和洋菓子への適性

岡崎　尚[1)]，小柗　有貴奈[1)]，重津　七香[1)]，中西　唯奈[1)]，浅田　莉奈[1)]，則武　一生[2)]
深瀬農園[3)]

１）山陽女子短期大学食物栄養学科
２）廿日市市環境産業部　吉和魅惑の里企画室
３）ルバーブ生産者

はじめに

廿日市市吉和地域では，その冷涼な気候に適したルバーブが栽培されている。しかしながら，その加工や料理への利用は十分ではなく，その需要が安定していない。一方，「吉和魅惑の里」（廿日市市）で生鮮野菜として出荷されるルバーブの販売量が少しずつ増え始め，ルバーブが認知されるようになった。このような動きが一時的なブームに終わるのではなく，ルバーブの生産を増やして農家の安定収入に役立てるためには，新たな商品開発や食べ方の提案によって消費者にルバーブのよさを知ってもらうことが重要である。

ルバーブの特徴として，クエン酸含量及びペクチン含有量が高いこと，アントシアニンや植物繊維など健康に役立つ素材であることが挙げられ，これらの特徴を生かした活用が望まれる。また，業務用ジャム類の生産量は，糖度が40％以下のフルーツソースの生産が1/4を占めている[1)]。ソースとしての活用は，パンにつけて食べるだけでなく，料理や和洋菓子，冷菓などの副素材として使われることが多い。したがって，健康的な面と幅広い用途に使える両面を生かした活用を提案した。

１．ルバーブの活用

原料としてルバーブを扱う場合，葉柄の赤色の発色具合や酸性度合いが商品性を考えるとき重要となる。8月上旬と11月上旬にルバーブの色の比較をしたところ，8月より11月のルバーブの方が赤の発色が良いことが分かった（写真１）。これまでの報告でも，9月，10月のルバーブからは色調のよいジャムができることが示されており[2)]，吉和産ルバーブの場合，秋から晩秋のものがジャム利用に適している。また，8月は野菜としての需要が多いことを考えると，需要の落ちる秋のルバーブを加工用に使うことが有効である。

（1）ルバーブソース

JAS 規格では糖度が 40％以上のものがジャムに分類され，この値より低いものがフルーツソースに分類される。様々な和洋菓子の材料として使いやすさを考えると，ゾル状のソースが優れている。そこで，ルバーブに含まれるペクチンの特性を活かしたルバーブソースの製造を試みた。

試作品は 2 種類考案した。できるだけルバーブ組織が崩れしないようにし，コンポートの形態をめざした。この場合繊維が残る。二つ目は，繊維をなくして滑から食感のソースを試作した。製造方法はルバーブの葉柄を 2cm程度に切り，重量 2 に対して砂糖を 1 加えてパウチに生のまま入れて脱気密封した。これを冷凍保管し，出荷前に 90℃で 60 分間加熱し製品とした。一方，繊維を無くしたタイプは，同じ配合で 30 分程度加熱し，ルバーブの組織を崩した後ミキサーで繊維をなくしたものをパウチに詰めて殺菌した（写真２）。いずれのタイプも pH4 以下の酸性食品に分類されるので，常温で 1 年程度の賞味期間の設定が可能であろう。

（2）ルバーブソースの改良

収穫時期が 8 月のものでは，発色の弱いものも見られる（写真１）。生産者の話では同じ収穫時期であっても，株の違いによっても発色が異なるので，発色の良い原料が揃うように入手することも必要である。原料ルバーブを色の濃さで分けてそれぞれのルバーブソースを調製した（写真２）。赤の濃い莖からは，赤色の強いもの，弱くなると緑色のソースとなる。したがって，原料を色の選別をすることで色の特徴のあるソースを調製することができる。ルバーブに含まれるペクチンは低メトキシルペクチン[3)] とされているので，そのゲル特性から，カルシウムイオンの添加によって，糖度が低くてもソースの粘度が高くなる可能性がある。

２．ルバーブソースのスイーツとの相性

ルバーブソースと様々な和洋菓子との相性を調べた。

（1）クレープのトッピングとして（写真３）

クレープ上にホイップクリームを広げ，その上にアイスクリーム，イチゴなどのフルーツを乗せ，さらにルバーブソースをかけて相性を調べた。ルバーブソースとホイップクリーム・アイスクリームの組み合わせは，クリームの柔らかさにルバーブの酸味が合わさってパンチの利いたおいしさになるとの評価であった。繊維あり，なしのルバーブソースを比較したところ，イチゴやクレープ生地などの食感を感じる素材では，ルバーブの繊維あり（コンポートタイプ）の方がおいしいとの評価であった。

また，ホットケーキのトッピングに使う場合でも，繊維ありの方が好評であった。

（2）ルバーブソースとシュークリーム（写真３）

シュークリームの中のカスタードクリームにルバーブソースを加えて，味の調和と相性を評価し

た。シュークリームの皮とカスタードクリームの間にルバーブソースを加えて口中調味をすると，酸味による味の対比効果によってクリームのおいしさが際立つとの評価を得た。この場合もシュークリーム生地があるので，繊維ありの方が好評であった。

（３）プディングとの相性（写真３）

糖度が低く，酸味の強いソースの特性を生かし，市販プリンにサワ―の味を添えることで，両者の相性がよくなった。また，ソースの赤色は色彩的にプリンのトッピングに適していた。さらに，繊維のあるものはプリンの滑かな食感では繊維を強く感じるので，繊維をなくしたものが適していた。

（４）アイスクリームのトッピング（写真３）

アイスクリームの甘い乳脂肪の味にソースのサワ―の味を加えることで，味の対比効果が生まれ，よりアイスクリームのおいしさが引き立つ。また，アイスクリームの白（バニラ）にルバーブの赤色が映えることから色彩的に好ましい。また食感がなめらかなアイスクリームには，ルバーブソースの繊維なしが合うとの評価であった。

（５）餡との相性（写真３）

和菓子に使われる小豆餡との相性を調べた。もみじ饅頭の餡にルバーブソースをトッピングして味を評価したところ，甘さにサワ―の味が加わって餡のおいしさが強まるとの評価であった。ルバーブソースの糖度は35％程度で低くしているので，ルバーブソースの滑らかさによって口中調味をすみやかに行うことができ，おいしさが口の中に広がる。また，粒あんとの相性なども面白いと思われる。色彩的には，小豆餡よりも白あんのトッピングの方が適当と思われる。また繊維ありの方が評価が高かった。

３．ルバーブソースの評価

ひろしまフードフェスティバル（10/29 開催）及び山陽女子短期大学大学祭（10/21,22）に参加し，来訪者へのアンケート調査によってルバーブソースの評価を行った。フードフェスティバル及び山陽女子短期大学大学祭で 191 人にアンケートをとった。その結果，甘さについては「甘すぎる」や「甘さが足りない」といった意見は1％以下でほとんど普通の甘さとして評価された。酸味でも，「若干酸味が強すぎる」，「酸味が足りない」といった意見がわずかにあった。したがって，ルバーブに本来含まれる酸味と糖度は35％程度にすることで，十分評価の高いルバーブソースができると判断した。ソースの流動性については，プレーンヨーグルトにソースを加えて評価したところ簡単に混合でき，試作品の流動性には問題がないと判断した。ルバーブと砂糖だけを原料にしてつくられていることから，添加物を加えていないことの安心感や安全性が評価されることを期待したい。繊維については，数名が気になるとの書き込みもあったので，これから商品化を進めるにあたって

検討していく必要がある。著者らの繊維に対する評価では食品の種類によって繊維あり・なしの好みが分かれたが，今後の商品化にはもう少し議論を要する。

４．総括

今回試作したルバーブソースを最終的に則武氏（廿日市市環境産業部，吉和魅惑の里企画室）及びルバーブ生産者の深瀬氏を交えて意見交換した。今回のように糖度35％程度に低くしたものが様々なスイーツに合うことがわかったことから，商品としての可能性を実感していただいた。また，吉和地域の商工会や小中学校の学校教育にも話を広げて，地域ぐるみの商品化を進めているところとの報告を受けている。

文　献

１）日本ジャム工業組合（ http://www.jca-can.or.jp/~njkk/）2018.2.20
２）大塚洋子，澤山茂，川端晶子，ルバーブジャムの調製とそのキャラクタリゼーション，日本調理科学会誌，28，177-184（1995）.
３）大塚洋子，澤山茂，川端晶子，ルバーブの食物繊維とくにペクチンの理化学的性質，日本調理科学会誌，28，146-150（1995）.

写真１　葉柄全体が赤くなっているもの（11 月）　葉柄の一部が赤く発色していないもの（８月）

写真２　瓶詰およびパウチ詰によるルバーブソース（左：繊維あり，右：繊維なし）

写真３　和洋菓子へのルバーブソースのトッピング
上左：イチゴ入りクレープ，上中：ミニシュークリーム，上右：プリンプディング，
下左：もみじ饅頭，下右；アイスクリームとクレープ

（報告）

学生の学習時間についての実態及び学修行動の把握

惠野村　明美
臨床検査学科

はじめに

本年度のＦＤ活動の取り組みとして,「学習時間についての学生アンケート」（以下, 学習アンケートと略称）を実施した。学習アンケートを実施することで，全体及び各学科（人間生活学科・食物栄養学科・臨床検査学科）のさらなる教育改善を図るため，有効な分析ができるのではないかと考えた。

今回の学習アンケート結果は，現状把握が可能な臨床検査学科の学生について分析，考察した。

調査概要

１．実施時期：平成 29 年 6 月 1 日（月）～　6 月 8 日（月）

２．調査対象：臨床検査学科の 1 年生（42 人），2 年生（39 人），3 年生（44 人）
回答者総数　125 人　回答率　100％

３．調査方法：学習時間についてのアンケート
授業を受けた時間，授業に関する勉強，授業に関係ない勉強，アルバイトや仕事の 4 項目について実施

４．調査目的：学生の学習時間の実態と，学習成果との関係を分析する。分析結果から，今後どのような配慮や取り組みが必要とされるのかを検討し，教育改善に必要な情報を得る。

５．補　　足：講義と演習については，最大 30 時間の授業をもって 1 単位とし，実験・実習および実技については最大 45 時間の授業をもって 1 単位としていることから，臨床検査学科の卒業認定の 104 単位を得るには 1 日 8 時間程度の授業時間を確保しなければならない。また文部科学省中教審報告によると，1 単位の授業科目には 45 時間の学習が求められている。

6．アンケート用紙

学習時間についてのアンケート

本学学生の学習時間について、現状を調べる目的でアンケートを実施します。
あなたの１週間の活動時間について、アンケートに答えてください。
よろしくお願いします。

問い：あなたは今学期、平常の１週間の中で、1～4 の活動にどのくらい時間を費やしていますか。1 日の活動時間を書き出して 1 週間の合計時間を、A～H の記号で答えてください。
下の計算欄を使って集計してください。90 分の場合、1.5 時間と計算してください。

O　0 時間　　A　1 時間　　B　1～5 時間　　C　6～10 時間　　D　11～15 時間

E　16～20 時間　　F　21～25 時間　　G　26～29 時間　　H　30 時間以上

1　授業を受けた時間	
2　授業に関する勉強（　予習・復習・宿題　）	
3　授業に関係ない勉強（　自主的な学習　）	
4　アルバイトや仕事	

計算欄

結果と考察

1．「Q1 授業を受けた時間」について

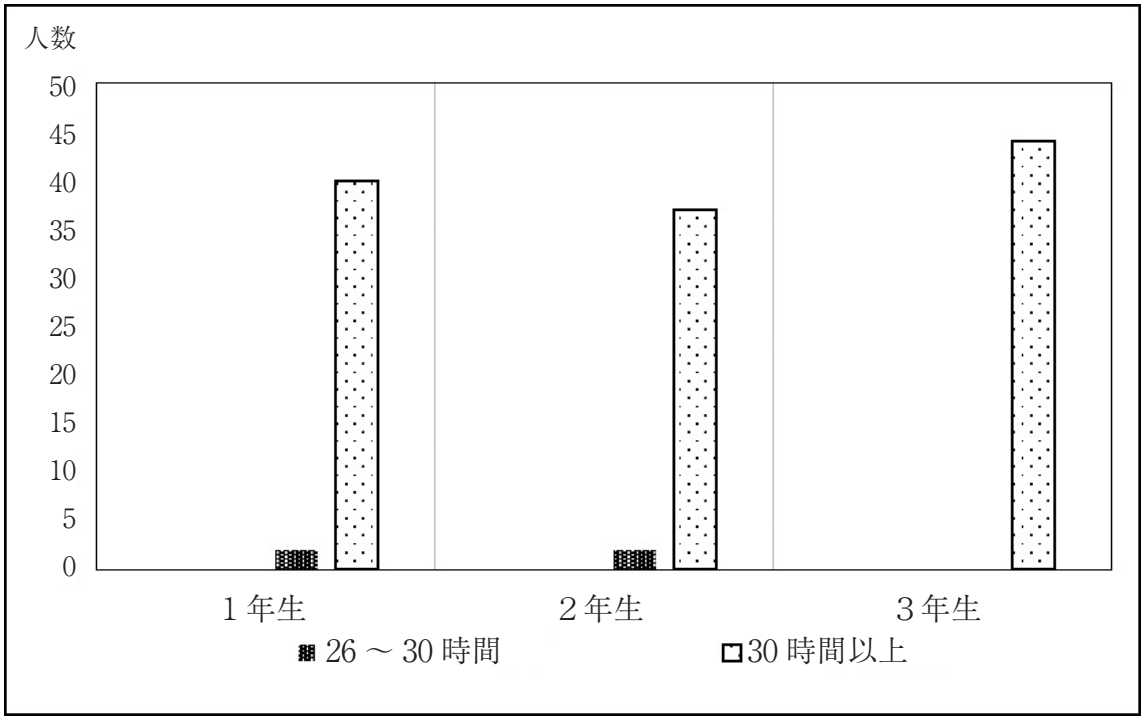

図１　授業を受けた時間

１年：30 時間以上と回答した学生は 40 人（95％）で最も多く，１年次の必修科目の授業は，１週間に 21 コマ(90 分が１コマ)あり，時間にすると 31.5 時間となる。図に示すように２人(5％)の学生はアンケート用紙から 27 時間であることがわかった。うち１人は「Q2 授業に関する勉強」で，学習時間が１週間に１時間と回答していた。この学生の状況を把握できたことは，二次的効果として評価できる。教員側は，この学生の動向を把握し，今後，教員が指導・支援していかなければならない。

２年：30 時間以上と回答した学生は 37 人（95％）で最も多く，必修科目の授業は１週間に 20 コマあり，時間にすると 30 時間となる。26 ～ 30 時間と回答した学生は図に示すように２人（5％）であったが，アンケート用紙に記載していた内容から，うち１人は実習時間を入れていなかったことが判明した。他の１人は授業時間を１時間として誤って計算していた。このことから，実際は 39 人（100％）の学生が 30 時間以上授業を受けていたことになる。

３年：月曜日から木曜日は臨地実習に出ており，金曜日は授業を受けていたことから，全員 36 時間となった。臨地実習は１日７時間として計算した。

2.「Q2 授業に関する勉強」について

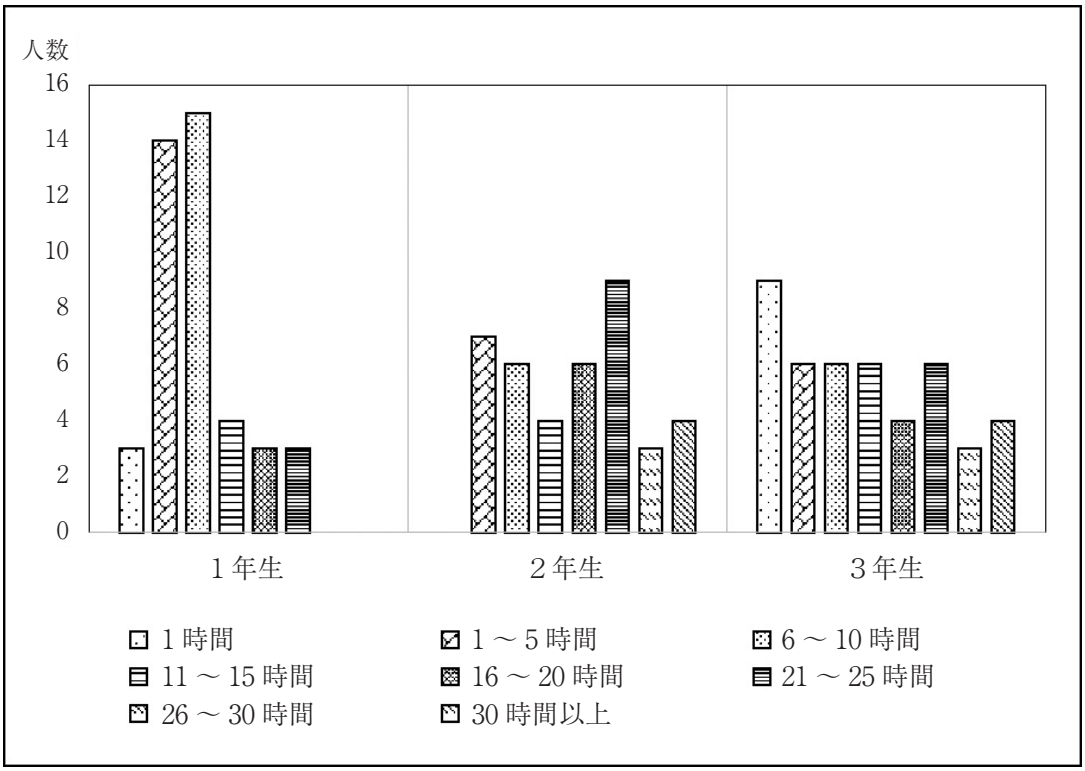

図２　授業に関する勉強

1 年：11 時間以上を授業に関する勉強に当てている学生は 10 人（24%）でクラスの 5 分の 1 に過ぎず，「6 ～ 10 時間」と回答した学生は 15 人（36%）で最も多かった。「1 ～ 5 時間」と回答した学生は 14 人（33%）であり，1 日に換算すると最も長くて 1 時間 30 分程度であった。考えていたより全体に低い結果となった。短大に入ってすぐのこの時期は，高校時代のモチベーションのままで，まだ勉強に対する意識が低い状態であると推測される。そのため，現時点で 11 時間に満たなくても，今後の教員の言動や指導が学生のモチベーションを高める重要なキーになると考えられる。

ここで注目すべきは，授業に関する勉強時間が，週「1 時間」の 3 人（7%）である。うち 1 人は 0 時間，他の 2 人は 1 時間であった。学習（授業に関する勉強）を全く，或いはほとんどしていないことになる。これが毎週続くと仮定すると，授業内容の理解は難しくなると推測される。Q1 で学習時間が不足していた 1 人に加え，Q2 で新たに明らかになったこの 2 人についても学生との面談を早期に実施し，学習への意識の把握と学習指導を実施する必要がある。

2 年：「21 ～ 25 時間」と回答した学生が最も多く，「16 ～ 20 時間」と回答した学生を合わせて 16 時間以上を学習に当てている学生は 22 人（56%）であった。最も勉強が必要な時期にも関

わらず，週 10 時間以下の学生は 13 人（33%）であった。2 年次が始まったばかりの時期であるので，今後，講義や実習を続けていく過程で学習の必要性を自覚し，学習時間が増えていくことを期待したい。反対に 21 時間以上勉強している学生は 16 人（41%）いた。平日と土日も入れると，毎日平均 3.8 時間勉強していることになる。従って半数近くの学生は，十分学習時間を確保していると考えられる。

3 年：最頻値は「1 時間」と回答した学生 9 人であった。これらの学生は Q4 で「アルバイトをしている」と回答しており，アルバイトに時間を拘束され学習時間を確保できない現状があると推測された。この 9 人については，今後注意し観ていく必要がある。

全体として，2 年生に比べて学習時間が少ない傾向であったが，臨地実習中のため，休日は実習で緊張した心身の休養も必要であり妥当な時間であると考えられる。

3．「Q3 授業に関係ない勉強」について

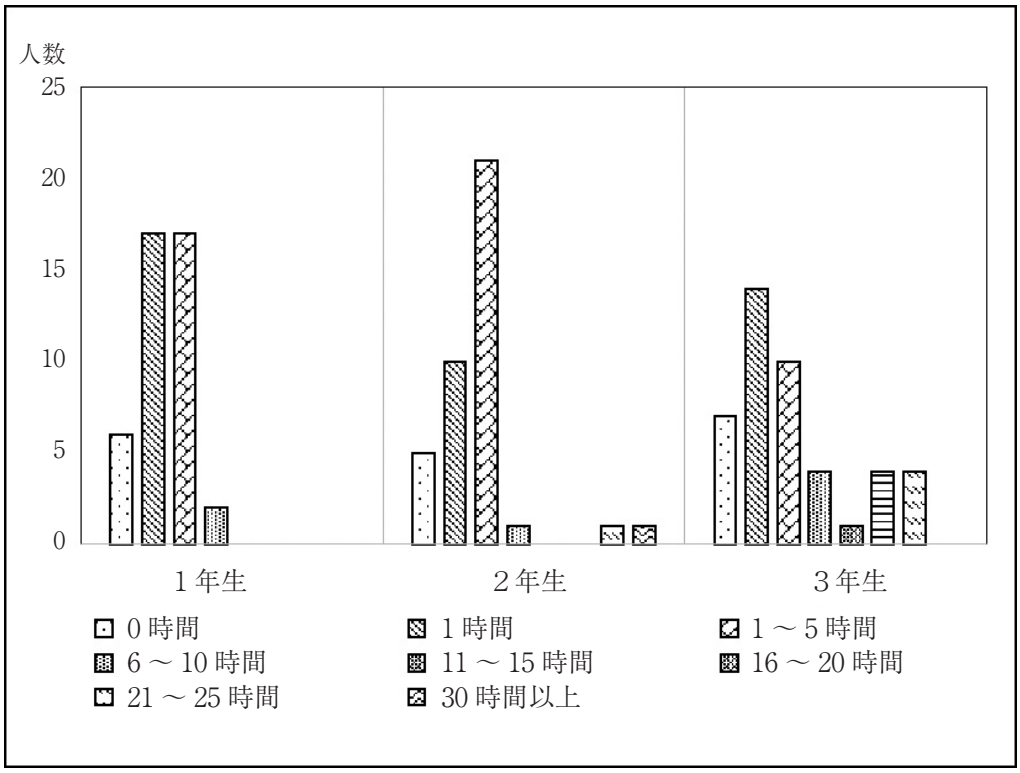

図３　授業に関係ない勉強

1 年：「1 時間」と回答した学生が 17 人（40%），「1 ～ 5 時間」と回答した学生が 17 人（40%）と最も多く，合わせて 42 人（100%）の学生が 10 時間以下であった。短大に入学したばかりで，毎日の授業内容を理解することで精一杯で，授業に関係ない勉強をする時間がなく，また精神的な余裕がないと考えられる。その中で 2 人が 6 ～ 10 間勉強しており，6 月初旬

という時期に，何について勉強しているのか興味深い。

２年：「1 ～ 5 時間」と回答した学生が 21 人（54%）と最も多く，37 人（95%）の学生が 10 時間以下であった。学習内容は不明ではあるが，2 人（5%）は 21 時間以上勉強していた。2 年生は実習レポートや授業の復習に時間を費やし，授業に関係ない勉強時間はとりにくい状態だと考えられる。その中でこの 2 人は，自主的に国試対策などの勉強を始めているのではないかと推測される。

３年：「1 時間」と回答した学生が 14 人（32%）と最も多く，11 時間～ 30 時間以上勉強していた学生が 9 人（20%）いた。この 9 人の学生は「授業に関係ない勉強（自主的な勉強）」が何を指しているのか不明であるが，アンケート時，学生からの質問はなかった。3 年生は臨地実習中であり，実習中に得た情報やそれらに関する考察等に当てたと考えられる。

4．「Q4 アルバイトや仕事」について

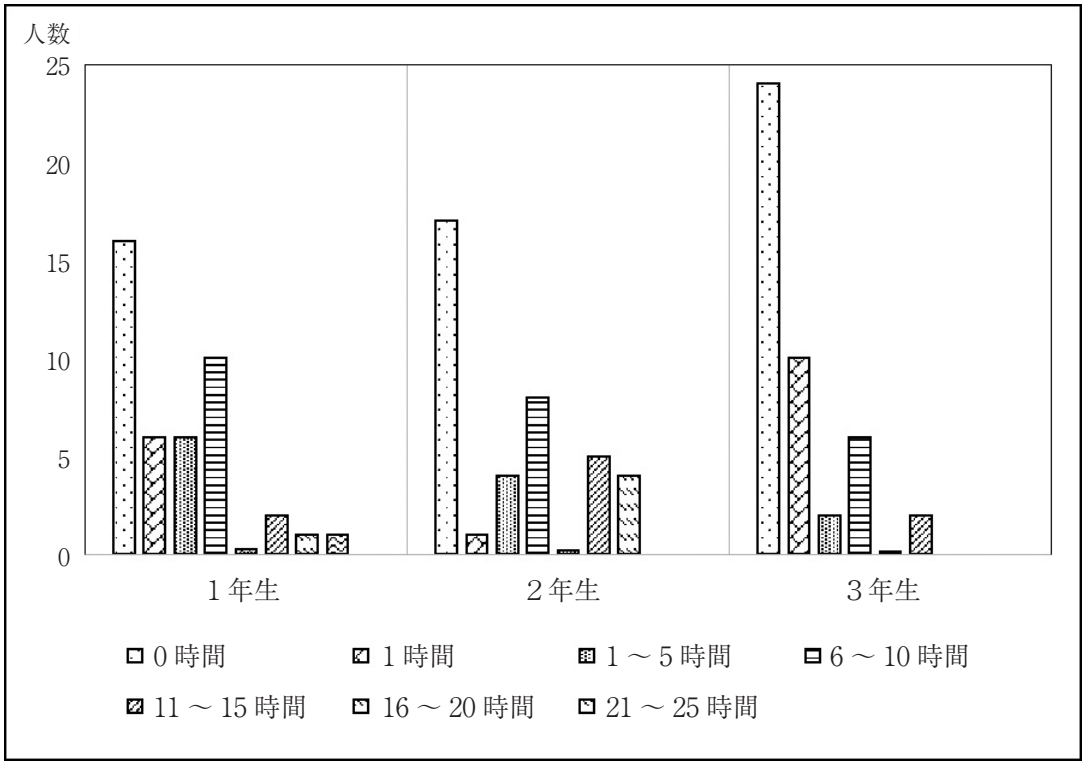

図 4　アルバイトや仕事

１年：「0 時間」と回答した学生は 16 人（38%）であった。残りの 26 人（62%）はアルバイトをしていた。その中の最も多い 11 時間以上アルバイトをしていた 4 人（10%）の学生は Q2 で考察したところの，勉強時間が週 1 時間の学生であった。アルバイトをしているため勉強時間がとれなかったとは言えない。過去，経済的な理由でアルバイトをしながら，寧ろ他の

学生より勉学に励む学生もいた。アルバイトが勉強の弊害になるとは一概には言えないが，少なくともこれらの学生においてはアルバイトに費やす時間が多いため，勉強時間が不足していると考えられる。或いは，臨床検査技師になるという目標とそれに向けて自分がしなければならないことを見失っている可能性もある。

２年：「0時間」と回答した学生は24人(55%)であった。アルバイトをしていない学生は17人(44%)であった。アルバイトをしている学生のうち，最も多い時間として11時間以上が9人(23%)いた。これらの学生は全員，勉強時間が週「1～5時間」と回答していた。アルバイトをすると勉強時間が必然的に確保できなくなる。教員はこれらの学生の経済的状況と，生活態度を注意深く把握したうえで指導しなければならない。

３年：「0時間」と回答した学生は24人（56%）であった。アルバイトをしている学生のうち，最も多い勉強時間は「11～15時間」と2人（5%）が回答していた。この学生の勉強時間については，1人は「11～15時間」，他の1人は「26～30時間」であった。臨地実習とアルバイトの両立は精神的にも体力的にも負担が大きいことが推測されるので，今後の学生の様子と授業態度をしっかり把握し指導していきたい。

まとめ

臨床検査学科において，一番の目的は臨床検査技師国家試験の合格である。そのためにはモチベーションの向上と維持が不可欠である。今回のアンケートは6月に実施されたが，「Q2授業に関する勉強」のアンケートから，1年において32人（76%）が1週間に10時間以下の学習であった結果を考えると，この時点ではまだ自主学習の習慣がついていないことが明らかとなった。短大生活に慣れた連休明けのこの時期こそ，臨床検査技師を目指す勉強への意欲を引き出すためには学生への働きかけが効果的であり，その後の勉学に対する姿勢を左右する重要な時期であると確信する。

授業のための事前の予習と復習，授業時間外の自主的学習は，学生のタイムマネジメントに委ねられることからも，如何に自分の目標を認識しているかが重要となってくる。

教員は教育の質を高めていくため，学生の現況や資質を知ると共に，教員側の教育改善のための意識を高めることも忘れてはならない。

アンケートから考察すると，自主的な学習時間は成績上位域ほど熱心に取り組む傾向がみられた。しかし，成績の中・下位域では，勉学での小さなつまずきが自身喪失や意欲減退を招くことが否定できないため，教員が学生の日常や授業態度からそのあたりを把握することも重要になる。「Q3授業に関係ない勉強」については，時間のみを把握するのが目的であったため，内容には触れなかったが，「授業に関係ない勉強」の内容を知ることも，学生の現状を把握する上では参考になるため，今後は任意で記入してもらうことが望ましいと考える。「Q4アルバイトや仕事」のアンケートにつ

いては，アルバイトをしている学生は物理的に勉強時間が少なくなり，またそれだけではなく勉強に対する意欲も減ってくることが現状として見られるため，個々の学生の状況を把握して支援していくことが必要である。そのためには一方的な講義に止どまらず，学生参加型など様々な授業形態を取り入れることが必要である。そうすることで学生の意欲を向上させ，また個々の理解度や習熟度の把握にも役立つ。教員は事前に授業の目標を明らかに示すと共に，短時間で効果的に学べる課題を作成し，その都度学生に対応した対策を講じることが重要である。学生の学習に関する実態を把握することが出来，また今後の学生指導上，今回のアンケートは大変有意義なものとなった。

〈報告〉

「広島県の取り組み」－院内がん登録の活用－ 実務者の役割・医療機関の実例

梅本　礼子
山陽女子短期大学　人間生活学科

要　約

背景:「がん登録等の推進に関する法律」(以下「がん登録推進法」が平成28年1月に施行された。この法律は、全国がん登録の実施や国内におけるがんの罹患、診療、転帰等に関するこれらの情報を利用及び提供、保護等について定めるとともに、院内がん登録等の推進に関する事項等を定めている。「院内がん登録の実施に係る指針」では、院内がん情報の活用により四つの効果を期待している。「病院において、当該病院において診療が行われたがんの罹患、診療、転帰などの状況を的確に把握し、治療の結果などを評価すること及び他の病院における浄化と比較する事により、がん医療の質の向上が図られること。」「病院や国立がん研究センターにおいて、院内がん情報等を適切に公表することにより、がん患者及びその家族などの医療機関の選択等に資すること。」等が掲げられている。

経緯：上記の目的達成のため、全国がん登録情報よりも詳細な治療の状況を含む院内がん情報を、医療機関においてどのように医療の質向上に活用していくのか、さらに病院や国立がん研究センターにおいて全国規模で収集された院内がん情報を、各地域の実情を反映し、地域住民に適切に分かりやすく公表できているか、がん患者やその家族の医療機関選択に活かされているかなど、医療機関（特にがん診療連携拠点病院等に准ずる）の登録実務者の院内がん情報収集能力のみならず、診療情報管理能力が問われている。

活用事例：院内がん情報を中心として、１）どのような手法で医療機関のがん診療の実態及び特徴をどう解釈し、分析していくのか、２）１）で得られた情報をどのような場面で活用するのか、どのような見せ方でがん患者や家族にも分かりやすい情報として公表していくのか、３）がん診療連携拠点病院等を中心とした医療機関間比較が行える院内がん登録全国集計（ゼロ年集計）を院内でどのように共有するのか、これらの事例を示しながら解説した。事例は筆者が従事していた医療機関の了承を得た上で、ホームページに公表されている院内がん情報の集計、分析情報を用いた。併せて４）院内がん情報を活用する際のルール、留意点も示した。

１）主な分析・集計について

1．定型集計　登録数：臓器別・症例区分別・年齢階級別・性別・地域別・来院経路別・発見経緯別

2．症例区分（2，3）（初回治療施行）に限定した集計　登録数：臓器別、統合ステージ別初回治療法別

3．臓器ごとの特徴、診断及び治療の傾向、標準治療ガイドラインを意識した集計　臓器別登録数：統合ステージ別発見経緯別・組織診断別・年齢階級別初回治療法別・初回治療法別

2）利活用の場面について

1．がん診療にかかる委員会・協議会等

2．院内カンファレンス・キャンサーボード等

3．がん相談室等

4．地域のかかりつけ医、医療従事者に向けた研修会等

5．市民公開講演会・市政だより等

6．診療実績を公表するホームページ等

3）院内がん登録全国集計結果の院内共有について

1．全国、都道府県、医療圏と比較したがん診療の実態把握をするための資料

2．医療機関間における診療実績、治療法別実績を比較し、がん診療の方向性を検討するための資料

3．院内がん登録の精度管理が行える資料

4．院内がん登録上のルールの制限により、がん診療の実態を須く表せていない点にも注意する

4）院内がん情報を活用・提供する際のルール、留意点について

1．がん登録の集計ルール（国立がん研究センター提示）を遵守・理解する

2．病院・診療科の納得する、要望に応える情報を提示する⇒患者の医療機関選択の目安となる

3．経年的変化を示し、変動の原因を解析する

4．独自の項目には解釈を加え、患者の目線でがん登録への理解を深める　などが挙げられる

まとめ：広島県では、２０１５年から県内で統一した院内がん登録の算出ツール、フォーマットを定め、がん診療連携拠点病院、県指定がん診療連携拠点病院のホームページで、各医療機関のがん診療の実態を報告するよう協力を求めている。さらに患者や家族、地域住民の理解、医療従事者の理解を深めるため、院内がん登録の項目名称、定義の解釈や注釈についても統一した説明文書を添付している。これらの取り組みは、院内がん情報が患者への情報提供や医療機関を選択する指標となるだけでなく、地域のがん診療の質向上、がん対策の立案に対する適切な情報提供となっている。今後、登録実務者には、登録の品質管理、精度管理を重視するだけではなく、医療機関比較はもとより、医療機関の医療の質向上に資する正確な情報を提供できる管理能力が求められている。

山陽女子短期大学紀要投稿規定

1　執筆者は原則として本学教職員とする。ただし紀要委員会において認められた者はこの限りでない。

2　原稿は他の出版物に発表されていない原著に限る。

3　原稿は紀要委員会に提出するものとする。

4　本紀要は年１回刊行する。ただし別冊を時宜に応じて刊行することがある。

5　原稿内容の種類は論文・総説・資料・研究ノートとする。

6　執筆予定者には紀要委員会から執筆要項を記載したフォーマットを渡し、執筆者はそれに則って記述する。

7　紀要には上記の論文以外に、教育・研究活動報告の頁を設け、学会発表の要旨および本学主催学術集会の報告など学術に関するもの、また、教育活動の報告についても紀要委員会の議を経て掲載する。

8　校正は原則として執筆者が行うものとする。ミスが発覚した場合以外は、校正中、原稿の改変、追加を行ってはならない。

9　別刷りは１論文につき30部以内は無償とする。

附　則

この規定は平成23年４月１日から施行する。

附　則

この規定は平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規定は平成25年４月１日から施行する。

編　集　委　員

石永　正隆（編集委員長）

恵野村　明美

岡崎　尚

堀内　綾音

浦崎　順子

山陽女子短期大学紀要　第39号

平成30年３月31日発行

編 集 者　山陽女子短期大学紀要委員

発 行 者　山 陽 女 子 短 期 大 学

〒738-0003 広島県廿日市市佐方本町1-1

電　話　0829−32−0909

印 刷 所　株式会社インパルスコーポレーション

〒731-0141 広島市安佐南区相田1丁目16-27

〈三人の文学者の引用テキスト〉

大田洋子『屍の街』（『日本の原爆文学②　大田洋子』、ほるぷ出版、一九八三年一月）

大田洋子「冬」「山上」（『大田洋子集　第一巻』、三一書房、一九八二年七月）

梶山季之「食欲のある風景」（『梶山季之傑作集成⑮　さらば京城』、桃源社、一九七三年八月）

梶山季之「積乱雲　遺稿」（「別冊新評　梶山季之の世界」、新評社、一九七五年七月）

梶山季之「わが青春の恋と詩と真実」（『梶山季之傑作集成別巻　青春と友と旅』、桃源社、一九七四年八月）

梶山季之「噂の屑籠」（『積乱雲　梶山季之――その軌跡と周辺』、紀伊国屋書店、一九九八年二月）

中井正文「神の島」（『神の島』、いつくし文庫、一九四九年四月）

中井正文「神話」「海」（『広島の橋の上』、渓水社、一九八八年一月）

〈引用参考文献〉

岩崎文人編『広島県現代文学事典』（勉誠出版、二〇一〇年一〇月）

江刺昭子『草饐　評伝大田洋子―』（濤書房、一九七二年七月）

浦西和彦「大田洋子年譜」（『大田洋子集　第四巻』、三一書房、一九八二年一〇月）

梶山美那江編『積乱雲　梶山季之――その軌跡と周辺』（紀伊国屋書店、一九九八年二月）

大下英治他「梶山季之記念講座報告」（『梶山季之を偲んで――梶山季之記念講座報告書――』、広島朝鮮史セミナー事務局編集・発行、二〇〇七年六月）

（人間生活学科）

たかもしれないが、すでに見た「食欲のある風景」以外に、地御前時代を描いた小説は残されていないのである。

地御前が、梶山の中で浮上してくるのは、移民のテーマとの関連からである。梶山は、一九六五（昭和四〇）年に、ハワイからアメリカ西海岸、中南米にかけて日系移民の初めての取材旅行を行っているが、その後も、家族旅行も兼ねた取材旅行などで、数度、ハワイを訪れている。最後のハワイ取材は急逝した年の三月だが、その前年の一九七四（昭和四九）年七月から八月にかけても、ハワイ取材に赴いている。そのときのインタビュー、座談会の記録は、『積乱雲　梶山季之――その軌跡と周辺』に収録されていて、それらを見ると、「布哇ホノルル・地御前村人会有志」など、地御前村出身者が圧倒的に多い。また、同書には、一九七四年一〇月に広島に講演に訪れた際に取材されたと思われる地御前関係者へのインタビューも収録されている。これらの事実と、『積乱雲』の書き出しの「遺稿　その1」が書かれたのが、一九七四年の一一月だった（梶山美那江の証言による）ことを考え合わせれば、移民のテーマの要となる場所を、地御前に定めたのは、一九七四年よりも数年前、おそらく、朝鮮・移民・原爆の三テーマを一つの長編にまとめるという方針を決めた一九七一（昭和四六）年頃のことではなかっただろうか。それにしても、何と周到な調査だろうか。地御前関係者の取材では、明治・大正の地御前村の歴史にまで及んでいる。このように、梶山は、綿密な調査を繰り返しながら、『積乱雲』の発端を地御前（G村）に置いて書き出そうとしていたのである。

もちろん、構想だけで終わった小説を、必要以上に過大視するべきではないだろうとは思う。大下英治は、「無理に『積乱雲』に帰らなくても、『赤いダイヤ』のような普通の純文学の作家たちには書けないエンターテインメントを書き続けるべきだったと思うんです」と、梶山がライフワーク『積乱雲』の執筆に執着していたことに疑問を投げかけている。それは、「梶山季之はあれだけの量で、すでにあれだけの全体において、もうライフワークは果たした」という思いからの発言なのだが、それはそうとしても、やはり、せめて移民をテーマとした長編小説だけでも完成させて欲しかった。「廿日市ゆかり」という視点から見たとき、梶山季之の早世によって、廿日市から発信される長編小説が生まれる可能性が失われたことは、かえすがえすも残念なことなのである。

※本稿は、第三七回山陽女子短期大学公開講座（二〇一七年度前期）「廿日市学のすすめ」の第三回「廿日市ゆかりの文学者たち―大田洋子・梶山季之・中井正文―」（二〇一七年六月一〇日）の講演原稿を書き改めたものである。

る。繰り返しになる部分もあるが、最後に、三人の文学者にとっての廿日市の意味についてまとめることによって、本稿を閉じることにしたい。

まず、大田洋子の場合は、原爆被災から逃れて、当初、避難してきた場所が、少女時代を過ごした玖島村であったことの意味は、決して小さくない。玖島村の自然は、洋子にとって、東京在住の頃からのあこがれであった。しかし、その自然風景は、もはや心を休ませてくれるだけのものではなくなってしまっている。村には、原爆被災者が続々と入って来て、次々に死んでしまうという現実の中で、自然風景は慰安の対象ではなくなってしまうのである。彼女は、もっと山奥へと逃れたいと思う。しかし、すでに見たように、結局、彼女は、現実社会へと戻る決心をする。廿日市の山間部の自然が慰安でなくなることによって、大田洋子は、原爆問題に立ち向かう決意を固めるのである。

次に、中井正文の場合はどうか。『神の島』の「あとがき」には、「東京の文学生活」に復帰したい念願を持ちながら不本意な地方生活を続けていることを嘆きながらも、「やうやく遅まきながら私はいまこの土地に腰をすゑなほして、この広島市をめぐる瀬戸内海沿岸を作品の生きた背景として、新鮮な地方主義文学を打ちたててみたいと不遜な決意をするやうになつた」と書かれている。そして、「神の島」は、「そのやうな錯雑した気持の推移から生れた、自分としても一風変つた作品である」というのである。主人公の男が、東京生活に疲弊して、死に場所を求めて宮島（＝神の島）に至るという小説の枠組みは、まさに「錯雑した気持の推移から生れた」と言えるだろうし、「瀬戸内海沿岸を作品の生きた背景として」描こうとする意図の表れとも言えるだろう。さらに言えば、そもそも、戦前に書かれた小説「神話」からして、すでに瀬戸内海沿岸地帯の地形、風土を背景にして描かれた小説だった。中井正文にとって、海と山が近く、宮島も見える廿日市の風土は、浪漫的資質を育み、文学的感性を触発するものではなかっただろうか。

最後に、梶山季之の場合はどうか。先の二人と違って、梶山の場合は、廿日市の在住期間は二年足らずと短いし、廿日市が生まれ育った場所だったというわけでもない。その意味では、生まれ育った外地・朝鮮の風土の方が彼の身体に染みついていたのではなかっただろうか。梶山が、多くの朝鮮ものの小説を書き残したのは、そのためだったとも思われるのである。それに対して、廿日市（地御前）は、父祖の地ではあっても、外地から引揚げて一時的に住んだ地だったので、おそらく、多くの外地生まれの引揚げ者が語るように、梶山にとっても「異郷」の地であったはずである。しかも、この時期、梶山は、「敗戦、引揚げ、インフレ……と揺れ動く世の中に」「すっかり絶望していた」（「わが青春の恋と詩と真実」）というのである。もしも、梶山が私小説作家であったなら、地御前時代のことを小説に書き残し

た。水の中は、外よりも暖かいように思われる。首から上だけを海面にのこして、両方の腕をのばした。そのとき、海の中の霊たちの、新しい魂を迎え入れるような楽しげな笑い声にまじって、あざけり笑うような底意地のわるい声もわきあがってきたが、卯之助はそれにかまわずに最後の手がかりを離した。

卯之助は、死ぬことによって、死んだ娘と添い遂げようとするのである。つまり、ここにあるのも、「死と再生」のテーマであると言えるだろう。

宮島や厳島神社の宗教的な意味については、私は不案内である。また、中井正文が、それをどの程度知っていたのかも不明である。しかし、宮島の対岸で、厳島神社の摂社（地御前神社）を擁する地御前の地で生まれ育った中井にとって、宮島が身近な存在であったことだけは確かであり、元来が浪漫的気質の持ち主であった中井だからこそ、宮島を特殊な力を持った島として描き得たと言えるのではないだろうか。

おわりに

廿日市（現在の市域）の地形的特色は、平野が少なく、山地が多いという点にある。そのため、沿岸部と山間部では、気候・風土も違っている。もちろん、こうした特色は、広島県全体についても当てはまるし、瀬戸内海沿岸地帯の県全体にも当てはまることである。そういう意味では、廿日市は、瀬戸内海沿岸地帯の典型であると言うこともできるだろう。本稿で取り上げた三人の文学者が描いた廿日市には、そうした瀬戸内海沿岸地帯の特色が反映していることは指摘できる。

例えば、山間部の友和村を描いた大田洋子の小説「山上」は、「その山上の村の冬の寒さは、云いようもなくきびしくて、深いものだった」という一文から始まっているが、それに対して、沿岸部の地御前村を描いた梶山季之の『積乱雲』の「遺稿　その1」には、「冬には、小雪がちらつくこともあるが、奥地と違って積もることもなく、雪の降る日はむしろ暖かい位だ」という叙述がある。冬の気候が全く違っているのである。また、中井正文の「神話」では、山の村と海辺の村の両方が描かれているが、その間の道のりは四つの峠を越えて五里で、それほど距離が離れているわけでなく、沿岸部から内陸に入るとすぐに山間地帯になるという瀬戸内海沿岸地帯の特色が投影している。そして、そういう地理的条件があるから、山の村の男と海辺の村の娘との恋愛物語が成り立つのである。

もちろん、彼（および彼女）らは、廿日市の風土を描くために、本稿で取り上げた小説を書いたわけではない。彼らは、それぞれの固有のテーマを、これらの小説をとおして描こうとしたのである。そこで、本稿では、これらの小説に描かれた廿日市に関わりがある箇所に着目しながら、それぞれの固有のテーマとの関連を探ってきたのであ

その意味での作者の愛着は深いと云へよう」と書いているように、中井はもともと、ノヴァーリスやホフマンらドイツロマン派の影響を受けた文学者だった。したがって、宮島を、ある種の「神域」であるような特別な島と捉えさせたのは、彼の浪漫的資質であり、結果的に、「神の島」は、浪漫的な傾向を濃厚に帯びた小説となったのである。

小説「神話」では、厳島神社の祭礼行事である管弦祭が、重要な意味合いを持って出てくる。すでに触れたように、「神話」は、一九三九（昭和一四）年に中央公論社の知識階級総動員懸賞の創作第二席に選ばれながら掲載されなかった小説だが、中井が、手もとに残された「粗稿」をもとに書き直して、著書『広島の橋の上』（一九八八年三月）に収録している。現在、読むことが出来るのは、書き直された「神話」だけである。

「神話」は、山の村の男と海辺の村の娘との恋愛物語である。谷間の寺の潅仏会で初めて出会った卯之助（山の村の男）ときぬ（海辺の村の娘）の二人は、「おかげんさん」（管弦祭のこと）の日に再会することを約束する。

待ちに待たされた管弦祭の当日が、いよいよ目の前に迫ってくる。その前日には、州掘りという昔ながらの行事がおこなわれることになっている。それはまた多くの人たちが参加して、なかなかの見ものだった。きぬもその一人として、いつも熱心に奉仕した。一里ほどの海をへだてて宮島の対岸にあたる、きぬの住んでいる村の海辺に、あの厳島神社の古くからの摂社がある。その摂社へご神体を奉安して海をわたってくる管弦船の水路をつくるために、正面の砂州を深く掘りひろげる作業だった。お州掘りの説明をした箇所である。地名は出てこないが、娘の住んでいる海辺の村が地御前であることは分かる。二人は、この管弦祭の夜に結ばれ、将来を約束し合う。

きぬと自分がこのように引き合わされたのは、ありがたい仏さまのお力であって、あの管弦祭の夜にふたりがみょうとの契りを結べたのも、神さまのおみちびきにちがいなかったことだけは、卯之助も信じて疑いたくなかった。

潅仏会（仏）と管弦祭（神）が、二人を結びつけたというわけである。しかし、物語は、悲劇で終わる。隣町の煉瓦工場で働いていたきぬが、煙突の下敷きになって死んでしまうのである。それを聞いた卯之助は、きぬの魂が海の中にいる、と思って、海のほとりの神殿（そう書かれていないが、地御前神社のことである）から浜辺まで歩いていって、乗り上げてあった小船に乗り込む。そして、最後の場面となる。

「ああ、きぬ……きぬさあん……いま、いくよ。すぐ、いくよ……」

卯之助は沈みかけた小船のともに両腕をかけて重たい体を支えながら、こごえきった足のさきから体をゆっくり沈めていっ

…（略）…一方の舷をこえて足さきから水面へ落ちた。一旦沈んで、すぐ頭だけ浮びあがつた。水はさう冷たくなかつた。なにも周章でることはない。しばらく立ち泳ぎをやつてゐたが、やがて仰向けの姿勢になり、四肢の力を全部ぬいて伸ばしてみた。顔だけが水面に出て、きわめて楽な浮き工合だ。小波がかすかに全身を揺すぶりつづけ、だんだん気が遠くなつて夢の中へでもひきこまれていくやうに愉しい。ああ、このまま死ねたら！…

しかしながら、男は、結局、生きる決意をして、「神の島」を目指して泳ぎ始める。題名にもなっている「神の島」とは宮島のことである。東京で勤めていた雑誌社が解散になり、結核を患ってもいた男は、精神的な鬱屈もあって、自殺するつもりで、宮島にやって来たのである。東京で、男は、面識のあった高名な詩人に、次のような詩を見せていた。

汝　悩める不安な魂よ
いまは神の島へ往け
遠い西の海の彼方に
不思議な島があつて
古い海の神を祭つてあるのだが
…（略）…
いつしか地上の不安も消えて
苦しみも去り　悲しみも忘れ
ただ　甘くやさしい死のいざなひに
あこがれる心はせつなく高鳴る
人はひとたびそこに死んで
久遠のいのちによみがへるといふ
あの神の島へ往け
悩みつかれた不安な魂よ

ここで語られているのは、「死と再生」への希求である。死んで、「久遠のいのちによみがえる」ことによって救われるのである。男は、「神の島」に、その力があると信じているのである。だから、「神の島へ往け」ということば――これは男の内面にある男自身の命令である――が繰り返されるのである。ただし、実際は、男は、「久遠のいのちによみがえる」のでなく、死を回避して、現実に生きることを決意することになる。綾目広治は「「神の島」は〈死と再生〉の物語だと捉えられるが、再生への意志が芽生えるのも、その地が神域であったからだと言える」（『広島県現代文学事典』）と男の〈再生〉と神域としての宮島とを結び付けた解釈を示している。これは首肯できる解釈であるが、「神の島」と題名はつけられていながら、宗教性は薄い小説であることも指摘しておいてよいだろう。中井は、『神の島』の「あとがき」の中で、「神の島」について、「いまの私が一度ふつ切りたいと思つてゐる、浪漫的な要素を濃厚にひきづつた小説で、

る。「地御前（G村）」が発端に据えられることは必然だったと言ってよいのだが、そのあたりのことは、「おわりに」で再説することにしよう。

三　中井正文と宮島・地御前

地御前の生まれで、カフカの翻訳者として知られる中井正文は、四つの作品集を持つ小説家でもあった。

中井正文は、大正二（一九一三）年に、佐伯郡地御前村に生まれている。旧制第五高等学校、東京帝国大学文学部ドイツ文学科卒業し、昭和一四（一九三九）年には、中央公論社の知識階級総動員懸賞の創作第二席に「神話」が選ばれるが、「恋愛を主題にした文芸作品は一切掲載するべからず」というお達しで、掲載されなかったという。第一席は、奇しくも大田洋子の「海女」だった。昭和一九（一九四四）年には、「寒菊抄」が直木賞候補となっている。昭和二四（一九四九）年に、小説集『神の島』を刊行する。戦後ながらく、広島大学に勤める。フランツ・カフカの翻訳者として知られ、『変身』『アメリカ』などの翻訳がある。平成二七（二〇一五）年に、一〇三歳で、地御前で死去した。

中井正文の場合は、梶山季之のような地御前への強い思いを感じさせるようなことは書いていないが、エッセイ「海」（『広島の橋の上』）で、次のような「海」への思いは語っている。

さて、ちんぴらのこちとらは瀬戸内海の、宮島の対岸あたりに生まれて、そこで育ち、現在もそこに住みついている。そのころは生家の二階から、すぐ目のまえに海が見えていたものだ。子供のころの思い出は、まっすぐ海へとつながっている。…（略）…

満潮の海は、子供たちをいよいよ夢中にさせる。海面はふくれあがって、石の岸壁や、がんぎを波の舌がひたひたとなめている。ゆたかな水は青みどり色をおびて、きれいに透きとおり、藻が底でゆらめいているのまで見える。あの水の中へさっと飛びこむときのはずんだ、うれしい気持ち…、くたびれるまで思いのままに泳ぎまわる。文字どおりの赤銅色に焼けた体をやさしい水はひんやりと抱きかかえて、すこしも逆らおうとはしない。泳ぎつかれると、手足の力をぬいて、あおむけに体をらくに浮かべて、まぶしい空の白い雲をぼんやりながめつづけていた…

海辺の村に育った子どもの海中での身体感覚をよく伝えている文章だと言うべきだろう。ここに、あえて長く引用したのは、身体を海に浮かばせたときの子ども時代の感覚が、「神の島」（一九四九年四月）という小説で、主人公の男が、舟から海に飛び込んで死のうとする場面の叙述などに生かされている、と考えられるからである。

にして、朝鮮、ハワイへと舞台が広がって行く構想が見て取れる。母親がハワイ移民の娘であり、父親が外地・朝鮮への移住者であり、自身も朝鮮で生まれ育った梶山季之にとって、「地御前」は、引揚げて二年足らずの間住んだ父祖の地というだけでなく、「村の貧しさ」ゆえに海外・外地へと開かれた地でもあったのである。つまり、梶山は、「地御前」を窓口にすることによって、世界規模の壮大な小説を構想していたようなのである。

よく知られているように、梶山季之は、朝鮮、移民、原爆という三つのテーマを描くことをライフワークとして意識していた。梶山自身、「噂」（一九七二年九月）の「噂の屑籠」で、「その三つとは、一つは韓国に生まれ育ったこともあって、日韓併合前後から朝鮮動乱にいたるまでの時期を描いてみたいこと」、「次に、私の母がハワイ生まれ、いわゆる移民の子であったから、移民というものを描いてみたい」、「最后に、郷里が広島だから、原爆が市民に与えた影響を描いてみたい」と書いている。そして、「その三つのテーマを、三つの長編にすると云う考え方に、長いあいだ捉われて来ていた」が、ある時、「なにも三つの長編小説に仕立てる必要はないではないか」と思い当たったというのである。つまり、三つのテーマを一つの小説に盛り込もうという構想に至ったということなのであり、言うまでもなく、この構想は、『積乱雲』の構想へと発展するわけである。

短編小説ならば、この三つのテーマに関わる小説は、描かれなかったわけではない。朝鮮のテーマならば、「族譜」、「李朝残影」などがあるし、原爆のテーマならば、「実験都市」（一九五四年六月）、「広島の女」（一九六九年一月）などがある。移民のテーマについては、膨大な資料の収集と聞き取り取材調査の続行中という段階にあって小説は余り残されていないが、「ホレホレ節」（一九七〇年三月）は移民をテーマとした小説と見なすことができるだろう（「めりけん無宿」〈一九七二年一月〉などの海外もの小説は、移民をテーマとした小説とは見なせない）。これらの小説は、「実験都市」を除けば、エンターテインメントの小説としても十分面白く読める小説に仕上がっているが、それぞれのテーマを、長編小説として描くとすれば、全く異なった構想と方法が必要となるだろう。まして、三つのテーマを盛り込んだ長大な小説を描くとなると、なおさらだろう。

三つのテーマの中で、移民のテーマに関してだけ触れておけば、「ホレホレ節」の主人公は、「広島県G村」の出身の作曲家となっており、また、移民がテーマの小説ではないが長編『小説GHQ』（一九六四年三月～六五年五月）の主要登場人物の一人であるカリフォルニア生まれの日系二世トム・塚田中尉の父母は地御前の出身に設定されている。梶山の小説に登場する移民は、しばしば地御前の出身者なのである。『積乱雲』の創作ノートは「第六巻　第三十章　捨てられた女（ハワイ）」までで中断されているが、そこまでのところでは、三つのテーマのうち、移民のテーマの色合いが最も濃厚であ

そのお腹の音をきいた途端、僕はいっぺんに昂った気持が萎えてしまったのである。

結局、「僕」は、女に芋を持たせて放免してやることになる。つまり、性欲よりも食欲の方が強い、という結末となっているのである。「性欲のある風景」ではなく、「食欲のある風景」である所以である。なお、言うまでもないことだが、「食欲のある風景」は小説であって、すべてが事実というわけではない。例えば、女学生からむすびを自分に差し出されたと勘違いして恥ずかしい思いをした話は、エッセイ「わが青春の恋と詩と真実」（一九六五年七月）で書かれている、宮島口駅の待合室でリンゴを差し出されたと勘違いした経験をもとにしたフィクションであろう。

食糧不足から来る飢え、引揚げ者の屈辱感をテーマにすると、暗く陰湿な小説になりがちであるが、この小説は、明るく乾いた小説に仕上がっている。このあたりは、梶山季之という作家の特質である。

地御前にいたのは二年足らずだったようで、一九四七年の秋には、一家は、広島市水主町に転居する。その地で、梶山は中学を卒業して、広島高等師範学校文科第一部国語漢文科（現在の広島大学教育学部）に入学する。その後の梶山季之の軌跡については、詳しく述べる余裕もないし、また、本稿のテーマとは直接関わらないので、省略する。

梶山季之は、一九七五年の五月一二日に、ライフワークにするつもりだった小説『積乱雲』の取材先の香港で急死する。四十五歳という若さだった。『積乱雲』は、四種類の書き出し原稿と創作ノート（途中までの構想）と膨大な調査資料が残されただけの構想中の小説であるが、原稿用紙三十枚分の原稿が残された「遺稿　その1」の第一部第一章のタイトルは、「広島県佐伯郡G村」となっており、言うまでもなく、G村とは地御前村のことである。

「遺稿　その1」の「一」は、「――それは、沖合から眺望すると、いかにも平和で、こじんまりとしていて、楽しそうな村落であった」という一文から始まり、「長閑な瀬戸内海沿岸の、田園風景」の叙述と豊かな海産物の説明が続き、「こんなG村の風物誌を眺めると、いかにも海の幸、山の幸の恩恵を蒙っている、倖せな土地柄とか云いようがない」と一括したうえで、次のように一転する。

だが――現実は、ちょっぴり異っていた。

たしかに豊かな資源は存在する。しかし、それを生かしきれない決定的な理由があったのである。

なぜなら、G村の耕地は、あまりにも狭かったのだ。

地御前村の耕地の狭さについては、すでに見たように、「食欲のある風景」でも触れられていて、「村人の大半がハワイに移民し、次男、三男たちが、朝鮮や満州に職を求めて移住した」という「村の貧しさ」にも言及している。『積乱雲』の創作ノート（中断されたもので、メモに近い）が残されていて、それを見ると、「地御前」を発端

はできない。「僕」は、辛い思いを堪えて、度胸を決めて歩き出す。道の中央では、女学生が、ネコ車（手押しの一輪荷車）から手提げ笊に握り飯を移している。「それを見た途端に、僕の意地汚い胃袋は「グゥーッ」と大きな悲鳴を上げ」る。女学生の横をすり抜けようとした時、不意に女学生から「はい」と声をかけられる。彼女の右手には「眩ゆい握り飯が山盛りにされた手提げ笊」がある。

……それは打ち解けた、優しい声音であった。「はい、どうぞ」とモノを奨めるときの、親しみをこめた「はい」なのである。僕は女学生の顔をみつめた。みたこともない顔であった。むろん、名前も知らない。

〈俺に握り飯を奨めるわけがない！〉

僕はそう思った。しかし、心ではそう考えているのに、どういうわけか、僕の右手は反射的に一つの握り飯をつかんでいたのだ……。

と同時に、横から褐色に焼けた逞しい右手が、別の握り飯を掴みに来ていた。女学生は急に立ち停って、握り飯をつかんだ僕の右手をみつめ、けらけらと笑いだした。

「好かんわァ……。こん人（にい）ったら、私（うち）が奨めもせんのに、握り飯をとってんじゃけェ」

女学生は、父親（「褐色に焼けた逞しい右手」の人）に握り飯を奨めていたのだった。「僕」は、その父親から握り飯を奨められるのを振り切って、逃げるように駆け出す。「正直に言って、このときほど僕ははずかしかったことはない。ただ、奇妙なのは、これだけ僕が屈辱感に打ち挫がれて走っているのに、矢張りお腹がグウ、グゥーッと鳴り続けていたことである」と、空腹による抗い難い身体の叫びが、屈辱感をも凌いでしまう様子が、ユーモラスに描かれるのである。

このことをきっかけにして、「僕」は「百姓」になると宣言することになる。宮内村（ここは実名で出てくる）との境界にある叔父の土地を借りて、「僕」は、叔父に教わりながら、耕作を始める。失敗をしながら、農作業にも段々慣れてくる。「野荒らし」という作物泥棒の嫌疑を、引揚げ者ゆえに、村の青年団からかけられることに憤慨するということなどがあって、小説の後半は、「食欲」の話から「性欲」の話へと移行していく。結局、「野荒し」の犯人は、M村に住む引揚げ者の女だった。「僕」は、偶然、女をつかまえることになるのだが、女は「僕」に身体を与えることによって赦しを得ようとする。「性欲」を持て余している「僕」は、それを承諾するが、いざという時に、次のようなことになるのである。

「ジャガ芋も呉れるのね！」

僕の目は、女の脇に転がっている包みに反射的に移動した。その途端、どういうわけか僕のお腹は、グゥーッと鳴ったのだ。

その音は、未知の女体に飢えた男の健康な食欲を物語るものであり、士気を鼓舞するのに役立つべき伴奏であった。しかし、

は、一九四五年一一月一三日のことである。一一月七日に京城を発って、列車で一泊、釜山で三泊、船中で一泊、下関から列車で一泊してたどり着いたようである（『積乱雲　梶山季之―その軌跡と周辺』による）。梶山季之は、広島第二中学校（現在の広島観音高校）の三年に編入する（京城中学では四年生だったが、一級下に編入されたのである）。しかし、敗戦の混乱が続く中では、学校に通うどころではなかったようである。そのころのことを描いた小説が「食欲のある風景」（一九六八年一一月）である。その中で、地御前村（具体名は出て来ない）のことを次のように書いている。

――僕の一家が引揚げたところは、瀬戸内海に面した、暖かいが貧しい村であった。村には耕地は乏しく、村人たちは半農半漁で生計を立てていた。この村の貧しさは、村人の大半がハワイに移民し、次男、三男たちが、朝鮮や満州に職を求めて移住したことでも、想像がつくと思う。

耕地が狭く、移民や外地移住者が多かったのは事実である。移民が多かったのは、地御前に限らず、山が近い瀬戸内の沿岸部や島嶼部に共通した特徴とも言えるが、母親が地御前出身のハワイ移民の娘だったこともあって、移民は、後に、梶山季之にとって、重要なモチーフとなり、テーマとなった。このことは、後で触れる。

外地移住者が多かったということは、戦後の引揚げ者も多かったということになる。そのあたりのことについて、「食欲のある風景」には、次のように書かれている。

そうでなくとも貧しい村に、戦時中には疎開者が入りこみ、戦後は引揚者がどっと押しかけたのだから大変である。村人たちは、僕たちを「よそ者」と呼び、冷たい白い眼でみた。

こうした引揚げ者への白眼視は、全国各地であったようで、引揚げ体験者の多くが語っていることでもある。

僕の一家は、引揚げてから半年たたぬ間になけなしの財産を失い、食糧を求めて乞食のように走り廻らねばならなかった。幸い住居の方は、村役場の斡旋で、山の中腹に建てられていた海軍通信隊の兵舎が割当てられ、その建物の一室で暮せるようになったが、問題は食生活である。

この小説は、題名が示すとおり、食糧不足による飢えが描かれた小説だが、それは、そのまま引揚げ者の屈辱感というテーマとつながっている。

父親は就職が決まらず無気力になっている。「僕」は、食糧の買出し役となって、農家を訪れるが、相手にされない。一家は、己斐の駅前の青空市場で売っている「海草麺」で食いつなぐ日々。小説の中で、最も屈辱的な気持ちが表れている場面は、田植えの休憩時に村人が握り飯を食べている側を、海草麺を抱えて通り抜けようとする場面である。田圃の側の道では、人々が握り飯をぱくつきながら道の両側から向かい合って話をしている。そこは一本道で避けて通ること

村に住んだのかは不明だが、同年譜では、「佐伯郡友和村河津の江島宅」でアメリカ占領軍の取り調べを受けたとある。「山上」では、アメリカ兵の取調べを受けたのは「一九四七年冬の半ば」とあるので、「私の心は人の棲む社会現象の方にうごいて行った」のは、アメリカ兵の訪問からそれほど時間を経ていない時期と見ることができるだろう。もちろん、「山上」は小説として書かれているので、すべてが事実だというわけではないだろうが。

廿日市（現在の市域）の山間部が描かれた小説は、おそらく大田洋子の小説以外にはないのではないか。原爆という現実から逃れるように、大田洋子は山奥へと入って行くが、しかし、そこがもはや慰安の地とはなり得なくなっていく様子は、これまで見たとおりである。大田洋子は、結局、原爆問題も含めた社会に戻っていく決意を固めることになるのである。

二　梶山季之と地御前

梶山季之は、一九三〇年に、当時、日本の植民地であった朝鮮の京城で生れている。父梶山勇一は、朝鮮総督府の土木関係の技術官僚だったが、出身地は、佐伯郡地御前村だった。母ノブヨは、ハワイのオアフ島で日系移民の子として生まれ、九歳の時に、地御前村の親戚の養女となっている。両親の結婚の経緯は、見合い結婚であったことは不明だが、地御前という地縁によるものだったことは間違いなく、敗戦後、一家は引揚げて、地御前の地に住むことになる。梶山季之と廿日市のゆかりは、父祖の地である、この地御前にあるということになる。

梶山季之というと、生前、超流行作家、あるいはエロ作家という蔑称さえつけられた作家で、死後も長らく、文学研究の対象として扱われることはなかった。しかし、現在では、特に朝鮮を舞台にした小説「族譜」（一九六一年九月　初出は、一九五二年五月）「李朝残影」（一九六三年三月）などを中心に、評価は高くなっている。梶山季之の朝鮮小説には、その他、終戦の日の「僕」の一日を描いた「性欲のある風景」（一九五八年二月）や、敗戦による京城市内の混乱と闇船にまつわる詐欺などが描かれた「米軍進駐」（一九五五年一二月）や「闇船」（一九六三年九月）などの短編小説がある。そこには、日本の敗戦によって、支配者の側から被支配者の側に転落した旧植民地の日本人の様子が描かれている。深刻なテーマを扱いながら、しかし、小説としての面白さが失われることないように仕上がっているところに、梶山季之らしさがあると言える。これらの小説の多くは、『赤いダイヤ』（一九六一年八月～六二年一一月）や『黒の試走車』（一九六二年二月）以前の小説で、純文学作家を目指していた時代の小説である。

さて、梶山一家が、朝鮮から引揚げて、佐伯郡地御前村に着いたの

られた」という慰安を与えてくれる側面と「清らかでありすぎ、澄み透りすぎて」いるために、「現実との調節を破」り、「めちゃめちゃに傷ついた心理とからだを慰めること」に役立たないという側面の二面性である。もちろん、その底には、広島の原爆という「現実」があり、それが「私」を「めちゃめちゃに傷ついた心理とからだ」という状態に陥らせている。そうした現実から逃れるために山奥へと向かうのだが、完全に逃れることはできず、現実の方で追ってくるわけである。

原稿が残されていて、死後、「新日本文学」に発表された「冬」（一九七八年二月）という小説があって、大田洋子自身と目される千恵という主人公は、「ひとびとが街を見に行けば行くほど、自分はあべこべに、もっと山奥へ行ってしまおうとしているのを感じた。戦争の幻影のないところへ逃れて、傷痕を癒したかった。けれども、いま暮しているところより、もっと奥山の、おぼつかなげな行き止まりの村里の様子など聞いて見ても、苦しい追憶のないところはどこにもなかった」と考えている。「冬」は玖島村にいた頃の話だが、友和村に移り住んだ（玖島村よりも友和村の方が特に山奥というわけではない）後の話である「山上」でも、さらに山奥に行きたいという願望は語られている。「山上」の終り近くで、「私」は、寄寓している家の「寡婦」（戦争未亡人である）に次のように語って、思う。

「私、もっと山奥にはいってゆきたいわ」

「え？　まだ山のなかにはいられるのですか」

「山のなかにゆくと、大きな木の根っこに、ほら穴があいてるのがあるでしょ。ああいう穴のなかに一二年、じっと坐っていたいわ」

酔うように私は云った。隠遁のおもいは戦争中から芽をふいていた。いまは隠遁に都合のよい機会のような気がした。血の泥濘のなかに見た、死体の顔の、その量のおそろしさからのがれたい、私はしびれるように山のなかでの睡眠をのぞんだ。けれども時間とともに、私の心は人の棲む社会現象の方にうごいて行った。人間の犯す混乱のなかに交って、こちらも混乱しつつ生きて見なくてはならぬ。

さらに山の奥に逃れたいという意識と現実の中に戻らなければならないという意識は、「私」（つまりは大田洋子）の中で拮抗していたようである。しかし、最終的に、現実の中に戻ろうとしていることは明らかで、最後の箇所は、強い決意が語られていると見てよいだろう。実際、この箇所に続けて、「――昭和二十四年、私は寒波の通路であった山上から、東京に帰ってきていた」とあって、東京での若いアメリカ人記者との会見が描かれて、この小説は閉じられるのである。

大田洋子年譜（『大田洋子集　第四巻』）によれば、洋子は、一九四七（昭和二二）年の五月頃に、江田島在住の共産党員・筧中静雄と結婚して、九月頃に上京したようである。洋子が、いつから友和

三段落にわたって、このような晩秋の田園風景の描写を続けた後、次のよう書く。

このような風物への思い出は、東京での傷つき易い生活のなかなどで、私を新しくよみがえらせることに役立った。いつか私はあの思い出の中へ行って、ゆっくり休むことにしよう。私は東京でよくそう思った。

しかし、「長い間のあこがれだった田園の秋のなかに、私はいま、ふしぎなありさまで身をおいている」と意識する洋子にとって、田園風景は心慰めるものではなくなってしまっている。したがって、次のような意識に変わるのである。

そして私はそのように好きだった田舎にとうとう来た。戦争の残酷さに心身ともに傷ついたからだを横たえるためにである。薄紫の山も、澄んだ青い空をも眺め、夜は月の光を見たり、川の音をきいたりしているけれど、それは私の心を奪わなくなっていた。

それだけ洋子の受けた心身の傷は深かったということであろう。しかも、この山村にも、原爆の被災者が続々と入って来る。「いまではその人達が村中にみんなで三百六十人あまりになり、九月も終わろうとする今もなお、毎日たれかが死の影を背負って帰ってくるのである」。さらに、被災者たちは「原子爆弾症に犯されては、次々と死にはじめたのだった。全く思いがけない死の現象が降って沸」くのである。慰安を求めてこの山村に避難した「私」の周囲にも、広島の死の影は、容赦なく迫ってくる。洋子にとって、山間の自然風景の意味が変わってしまうのは当然のことだろう。

大田洋子は、佐伯郡玖島村（松本家の離れ二階に寄寓。そこで『屍の街』は執筆された）から同郡友和村の江島家に移り住む。そこで、アメリカ軍の調べを受けた時のことを描いた小説が、「山上」（一九五三年五月）であるが、その中に、普段は降りない「高原らしい風景をもった停留所」に乗合自動車を降りてみた時の周囲の情景が描かれている箇所がある。

私は高原に降りた瞬間、異様に冷澄な空気にふれた。一月の初めのころであった。淡青色の深い山の空がそのままあたりの空間に溶け込んでいるように、青く凍った空気がぴんと張りつめていた。しんしんとして青く凍り、澄みきった空気なので、感情も肉体も波立つことがなく、静かでいられた。雑木林のなかの精霊的な寒気が私は悲しかった。清らかでありすぎ、澄み透りすぎていて、私のめちゃめちゃに傷ついた心理とからだを慰めることに役立つよりも、却って現実との調節を破るからであった。この村の入口である高原の空気が、混然と濁っていてくれる方が、私の感情には都合がよいのであった。

ここには、洋子にとっての自然の二面性が語られている。高原の「冷澄な空気」によって「感情も肉体も波立つことがなく、静かでい

魔夢かと思えた。五日市まで来ても壊れかかった家や、障子や襖の吹き飛んだ家が見え、廿日市に来てやっと暗い普通の町を見ることが出来た。

汽車は平生と変りなく四十分くらいで廿日市に着いた。見覚えのある駅前の広場、春でも夏でも冬でも、どんなに短い休暇にも学校から田舎へ帰ったころ、忘れないで眺めた広場の桜の木の下まで出て来たとき、私は気を失いかけた。妹に土の上へねせて貰った。

廿日市では、親切な人の家で一泊する。翌日、玖島行のバスは、午後四時に一本だけというので、バスの待合所に来てみると「まだ二時というのに、もの云わぬ例の戦災者たちが灰色のかたまりになって集まってい」て、戦災者の凄惨な様子を目にする。この待合所でも、洋子は、列車の中で軍人の態度に反感を抱いたのと同様に、事務員の冷淡な対応に怒りを感じて「戦災者は孤立している」と思う。そして、乗り込んだ玖島行のバスの車窓から見た外の風景は、次のように描かれている。

私どもはみすぼらしい荷物のようにおとなしく車にゆりうごかされて行った。バスは農家のまばらな山と山との間へ入って行く。道には誰も歩いていなかった。人を見飽きた私は自然の閑寂さに入って、めざめるような気がした。夏の青葉がむんむん萌え立っていて、冬野のような街を歩きまわって来た眼を、いきなり緑色で染めるかと思われた。半ば失いかけている魂も冴えた緑は染め直すかと思うようだった。

「人を見飽きた」とは、罹災者（あるいは「屍」）の群の中にいたことを言っているのだろう。ここでは、とりあえず洋子の魂は「自然」によって蘇生する。「陽が落ちた。空気はさわやかだった。土の匂いや、木々の緑の幹の淡いような香がただよって来たりした」と感じる「私」は、地獄のような惨状にある広島から逃れて、廿日市の北部の一見のどかな山間地帯に来たことによって、一時の慰安を感じているのである。しかし、それは一時的なものに過ぎない。原爆に被災したことによって、洋子にとって、自然は一面的に慰安を与えてくれるものではなくなってしまうのである。

洋子は、『屍の街』の始めのあたりで、以前からの田園への憧れを語っている。

山深い田園の、夏から秋に移りかわる季節の美しさは、少女のころの追憶のためだけでさえ、私に生きている力をあたえたものだった。薄い水色だった空が、毎日いろを濃くして行き、晩秋には濃い瑠璃いろに変って行く色彩の素晴らしさや、遠く近く、波打つ山脈の、夕ぐれなど、淡紫色の水晶の重なりに見える山々のたのしさや、薄い黄や茶いろから次第に焦げて焦茶になり、それから枯れて、銀ねずみや、すすきいろに移って行く山崖や野原など。

した屋敷に、古い大きな家が建っていた。池のある築山に巨樹が繁り合い、年中あらゆる花が咲いていた。築山をまわると土蔵や木小屋や、漬物納屋や、湯殿の建物や、広い別棟の炊事場などがあった。築山からは自分の家の持山に行けた。家のまわりの田も山も、およそ自分の家から見える畑や山林は自分の家の物であった。この家の一切は父の代で底ぬけに没落した。村には墓地だけしか残っていなかった。

この「底ぬけに没落した」家というのは、稲井家のことである。ただし、「父」とあるが、稲井家の当主稲井穂十は、洋子の実父ではなかったし、戸籍上の養父でもなかった。

大田洋子の実父福田滝次郎は山県郡原村の中農地主の長男で、母親トミは、山県郡の官吏小泉金八と離婚後、滝次郎と再婚した。洋子（本名・初子）は、一九〇三（明治三六）年一一月二〇日に生まれている。トミと滝次郎の間には、その後、二人の男の子が生まれるが、放蕩者だったらしい滝次郎に見切りをつけたトミは、洋子を連れて、実家に戻る（男の子二人は親戚に預ける）。二年後、トミは、見染められて佐伯郡玖島村の地主稲井穂十に嫁ぐのである。稲井家には、鉄操、鉄鳴という二人の息子がいて、洋子は連れ子として入る。その後、三人の女の子が生まれる。穂十は学究肌の人物だったらしく、事業に手を出して失敗したりしたこともあって、財産を蕩尽する。穂十が死んだのは一九三三（昭和八）年である。洋子は、穂十の蔵書に親しんだらしく、文学に目覚める素地は、このあたりで培われたかと思われる。

一九一八（大正七）年に玖島尋常高等小学校高等科を卒業して、広島市内の進徳実科高等女学校（現進徳女子高等学校）に進学した洋子は、休暇中にはしばしば玖島村に帰っていたようである。その後の江田島の頃のことや広島でのこと、上京後の洋子の足跡などは省略するが、「作家としての位置も何とか築けたと思ったのも束の間の夢」（『草饐　評伝大田洋子―』）となり、太平洋戦争突入後は作品発表の舞台も次第に失われ、ついには空襲が激しくなる東京を離れ、一九四五（昭和二〇）年一月に広島市白島九軒町の妹中川一枝宅に疎開することになる。そこで、洋子は、原爆に罹災するのである。

母親、妹とその娘（赤ん坊）と被爆した洋子（＝『屍の街』の「私」）は、三日間、神田橋下の河原で野宿して、横川駅から汽車で、廿日市駅に向かう。汽車の中では、「重傷の罹災者たちに坐席をゆずることもしなかった」「青年将校の一群」を目にして、軍人への反感が語られたりもしているのだが、『屍の街』では、窓外の情景が、次のように描かれている。

六日の風は己斐の方向に流れていたという。汽車の窓から見える町や村は己斐町のつづきだから、血の色の火の塊もあんなに燃えていたのであろう。うす青い黄昏の中の見渡すかぎりの崩壊の家並と、真っ赤な火の玉を吐いている畑とは、現実ではなく

〈原著論文〉

廿日市ゆかりの文学者
――大田洋子・梶山季之・中井正文――

丸川　浩

はじめに

広島県廿日市市は、広島市の西に隣接する瀬戸内海沿岸の市であるが、旧佐伯郡域の町村が順次、合併することによって市域が拡大した市である。現在、廿日市市は、瀬戸内沿岸地域だけでなく中国山地の山間地帯まで広く包み、また、沖には世界遺産の宮島も擁する市域となっている。本稿で、「廿日市ゆかり」という場合の「廿日市」は、この現在の市域を指している。

廿日市出身の文学者は、それほど多くはなく、『広島県現代文学事典』の項目を当たった限りでは、歌人の山隅衛とフランツ・カフカ「変身」の訳者として知られる中井正文だけである。もちろん、廿日市を訪れたり、一時的に滞在したことのある文学者は多い（宮島となると、数え切れないくらいである）。しかし、「ゆかり」と言う以上は、廿日市にしばらくでも住み、廿日市の風土に関わる文学作品を残した文学者でなければならないだろう。その点を考慮して、本稿で取り上げる文学者は、大田洋子と梶山季之と中井正文の三人とした。

大田洋子は、当時の佐伯郡玖島村（現在の廿日市市玖島）の小学校を卒業しており、広島で原爆で被災した後に、玖島村に避難し、『屍の街』を執筆している。そこには玖島村の様子も描かれている。また、その後、佐伯郡友和村（現在の廿日市市友和）に移転し、その地のことも描いている。また、梶山季之は、敗戦後、外地朝鮮から、佐伯郡地御前村（現在の廿日市市地御前）に引揚げている。梶山にとって、地御前は父祖の地であり（母親は、ハワイ移民の娘である）、いくつかの小説、エッセイで、地御前のことに触れている。そして、地御前で生まれた中井正文には、「神話」、「神の島」などの小説があり、宮島や地御前が描かれている。

本稿では、これら三人の文学者にとって、廿日市のそれぞれの場所がどのような意味を持ったのか、彼らの描いた小説をとおして探ってみたい。

一　大田洋子と玖島・友和

『屍の街』（一九四八年一一月　初出）には、大田洋子が、一九一二（明治四五・大正元）年から一九一八（大正七）年まで住んでいた家について、次のような記述がある。

その村には二十年前まで私どもの家があった。石崖の上の広々

山陽女子短期大学紀要

第三十九号　平成三十年

ISSN　2186－5760